

ふじみ野市埋蔵文化財調査報告 第20集

埼玉県ふじみ野市

市内遺跡群 19

TSURUGAOKA SITE
鶴ヶ岡遺跡第6地点

KITANO SITE
北野遺跡第33地点

KAWASAKI SITE
川崎遺跡第44地点

MATSUYAMA SITE
松山遺跡第85地点

NAEMAHIGASHIKUBO SITE
苗間東久保遺跡第33地点

JYOUZENJIATO SITE
浄禅寺跡遺跡第40地点

2017年3月

ふじみ野市教育委員会

はじめに

ふじみ野市は平成 17 年 10 月に旧上福岡市と旧大井町が合併し、平成 27 年に 10 周年を迎え、今また新しい時代を歩みはじめています。

ふじみ野市は、都心から 30km 圏内という立地条件にあるため、昭和 30 年代ごろから急激な開発の波が押し寄せ、企業の工場や研究所の進出、住宅の建設ラッシュ、大規模都市基盤整備事業が計画・実施されました。さらに、ふじみ野市となってからは、人口の増加も伴って周辺の自然・社会の環境は大きく変化しています。

新たな歴史を歩みはじめたふじみ野市内には、権現山古墳群や福岡河岸記念館、復元大井戸跡や旧大井村役場庁舎など、多くの文化財が存在し、2 万数千年前の旧石器時代から現代までの永い歴史をみることができます。

本報告書は、国・県からの補助金と民間開発に伴い各事業者の皆様からの費用負担を受けて実施した、「市内遺跡発掘調査」の成果を記録した報告書です。

今回、市内で発掘調査された成果を一冊の冊子にまとめることが出来ました。その成果は、店舗や住宅建設など、近年の開発ラッシュに伴い発掘されたものです。永い歴史の中で繰り返し住まいの地として利用されるということは、いつの時代でも、ふじみ野の地が住み良い土地であることの証明ともいえます。

こうして発見された新たな歴史の一部を、「夢のある心豊かな学びのまちづくり」のため、貴重な文化財を将来にわたって保存・継承し、地域の皆様や子供たちが、生涯にわたって地域の歴史や文化を学び続けられるよう目指してまいります。貴重な文化財と共に、本書が将来にわたって活用されれば幸いです。

おわりに、土地所有者、開発関係者の皆様には多大なご負担とご協力を賜りました。地域の文化財保護・保存についてのご理解をいただいたことに対し、深甚なる敬意と感謝を申し上げます。また、調査から本書刊行に至るまで、文化庁、埼玉県教育委員会生涯学習文化財保護課、市関係各課、調査関係者、そして各事業者の多くの皆様から、ご指導やご協力をいただきました。誌上をもって厚くお礼を申し上げます。

ふじみ野市教育委員会

教育長 朝倉 孝

例 言

1. 本書は、埼玉県ふじみ野市内に所在する遺跡群の、試掘調査・発掘調査6件の報告書である。
2. 本発掘調査に先立ち行った2015（平成27）年度の試掘調査と発掘調査および整理作業は、総経費10,005,757円に対し国庫補助金5,000,000円と県費2,500,000円の補助金の交付を受け、2015（平成27）年4月9日から2016（平成28）年3月31日まで実施したものの一部である。民間開発を原因として行った6件の本調査は、開発原因者から委託を受け、ふじみ野市教育委員会が主体となって行った。開発原因者・委託者は次のとおりで、各発掘調査及び整理作業に伴う費用は各開発原因者・委託者からの委託費により行った。

遺跡名・地点名	委託者	契約期間
鶴ヶ岡遺跡第6地点	社会福祉法人あゆみの会	平成27年7月6日～平成29年3月31日
北野遺跡第33地点	岡島ウタ、タクトホーム(株)	平成27年12月15日～平成28年3月31日
川崎遺跡第44地点	千代田ホーム(株)	平成28年1月5日～平成29年3月31日
松山遺跡第85地点	近藤不動産(株)	平成27年10月19日～平成28年3月31日
苗間東久保遺跡第33地点	(株)堀井不動産	平成28年7月28日～平成29年3月31日
浄禅寺跡遺跡第40地点	加登 幸子	平成27年10月1日～平成29年3月31日

3. 調査組織

調査主体者	ふじみ野市教育委員会	副課長兼文化財保護係長	(2016.4.1から兼務)
担当課	社会教育課文化財保護係	高崎 直成	(2013.4.1～)
教育部	長 朝倉 孝 (2014.4.1～) 長 中野 則之 (2015.4.1～)	文化財保護係調査担当者	高崎 直成 (2005.4.1～) 鍋島 直久 (2005.4.1～) 岡崎 裕子 (2015.4.1～)
課	長 小林 清 (2015.4.1～2016.3.31) 佐藤 龍司 (2016.4.1～)	庶務担当	橋本祐可子 (2015.4.1～)
副課長	佐藤 龍司 (2015.4.1～2016.3.31)	発掘調査員補	越村 篤 (2005.4.1～2015.9.30) 鎌田 翔 (2015.11.2～)
		臨時的任用職員	高橋 京子 (2005.4.1～)

5. 本書作成にあたっての作業分担は、事実報告及び遺構の執筆は第4章を岡崎、それ以外は鍋島が行った。遺物の執筆は第4章を岡崎、鎌田が行い、それ以外は鍋島が行った。石器の観察表作成を鎌田が担当した。整理作業の分担は次のとおりである。遺物接合・復元：中田藤子、川中ひろみ。石器実測：岩城英子、鎌田翔。土器実測・拓本：明石千とせ、坂本民子、佐竹里佳、鈴木千恵子、深谷美奈子、松平静、山内康代。遺構・遺物図トレース：小林登喜江。図版作成：青山奈保美、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子。遺構写真：鍋島直久、越村篤、岡崎裕子。レイアウト・遺物写真：大久保明子。報告書作成全般にわたり高崎、笹森健一（市文化財保護審議会委員）の協力を得た。発掘調査から整理作業、報告書刊行までの業務委託は次のとおりである。浄禅寺跡遺跡第40地点の発掘調査支援業務は株式会社中野技術に業務委託した。鶴ヶ岡遺跡の遺物実測・トレース、遺構・遺物図版作成と原稿執筆、遺物写真は有限会社アルケリサーチに業務委託した。遺構図版作成の一部は株式会社東京航業研究所に業務委託した。
6. 各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏・機関より御指導・ご協力を賜った。（敬称略）
天ヶ嶋岳、上田寛、越前谷理、大久保淳、大屋道則、岡田賢治、加藤秀之、神木繁嘉、久津間文隆、國見徹、隈本健介、酒井智晴、笹森健一、佐藤一也、佐藤啓子、塩野敏和、清水理史、鈴木清、高木文雄、田中信、坪田幹男、中村愛、原口雅樹、早坂廣人、比嘉洋子、平野寛之、藤波啓容、堀善之、松尾鉄城、水村孝行、柳井章宏、和田晋治、埼玉県教育委員会市町村支援部生涯学習文化財課、上福岡歴史民俗資料館、大井郷土資料館
7. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。記して厚く感謝の意を表したい。（敬称略）
青山奈保美、明石千とせ、新井和枝、飯塚恵津子、飯塚泰子、家泉浩孝、壹岐久子、石垣ゆき子、伊藤功、井上晴江、井上麻美子、岩城英子、白井孝、大久保明子、岡良子、岡本信勝、川中ひろみ、小池絵千花、小池恵美子、小林登喜江、坂本民子、佐竹里佳、澤田洋、重田恵子、鈴木勝弘、鈴木千恵子、須藤さち子、関田成美、高橋けい子、高貝しづ子、丹治つや子、辻村万史、當山りえ、中川圭子、中田藤子、野岡由紀子、比嘉洋子、深谷美奈子、福田美枝子、藤丸亮介、増澤勝実、松平静、宮川幸佳、山内康代、矢作梓、米田昇三、若林紀美代

凡 例

1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。

(1) 縮尺は原則として、遺構配置図 1:300、遺構平面図・遺物出土状況図 1:60、1:30、炉などの詳細図 1:30、土器

実測図 1:4、土器拓影図 1:4、石器実測図 1:4、2:3、銭 1:1 である。

(2) 遺構断面図の水糸高は海拔高を示す。明記していないのは同図版中の前遺構の海拔高に同じ。

(3) 遺構図における screen-tone の指示、遺物出土状況のドットの指示は、

攪乱 、地山（ローム） 、焼土 、貝層範囲 、煤 

土器 ●、石器 ★、黒曜石・チャート ▲、礫 ○である。

(4) 土器断面図は、■が繊維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わしている。

(5) 遺構・遺物実測図中の▲▼マークは、図の接続、結合を示す。

(6) 土器：陶磁器実測図の中心線が破線の場合は、180度回転させて復元実測したことを示す。

2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号である。

3. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括してふじみ野市教育委員会に保管してある。

埼玉県ふじみ野市
市内遺跡群 19 目次

はじめに	i
例 言	ii
凡 例	iii
目 次	iv
挿図目次	v
表 目 次	vi
写真図版目次	vi
第 1 章 ふじみ野市の遺跡	1
I ふじみ野市の立地と環境	1
II 市内の遺跡	2
第 2 章 鶴ヶ岡遺跡第 6 地点の調査	5
I 遺跡の立地と環境	5
II 本調査に至る経過と調査の概要	5
III 遺構と遺物	8
第 3 章 北野遺跡第 33 地点の調査	12
I 遺跡の立地と環境	12
II 本調査に至る経過と調査の概要	12
III 遺構と遺物	13
第 4 章 川崎遺跡第 44 地点の調査	17
I 遺跡の立地と環境	17
II 本調査に至る経過と調査の概要	20
III 遺構と遺物	20
第 5 章 松山遺跡第 85 地点の調査	36
I 遺跡の立地と環境	36
II 本調査に至る経過と調査の概要	36
III 遺構と遺物	40
第 6 章 苗間東久保遺跡第 33 地点の調査	46
I 遺跡の立地と環境	46
II 本調査に至る経過と調査の概要	46
III 遺構と遺物	46
第 7 章 浄禅寺跡遺跡第 40 地点の調査	51
I 遺跡の立地と環境	51
II 本調査に至る経過と調査の概要	51
III 遺構と遺物	54
第 8 章 まとめ	71
写真図版	73
抄録	108

挿 図 目 次

第 1 図	ふじみ野市の位置と周辺の地形	1	第 29 図	松山遺跡第 85 地点 H48 号住居跡(1/60)、竈・掘方(1/30)	42
第 2 図	ふじみ野市遺跡分布図(1/30,000)	3			
第 3 図	鶴ヶ岡遺跡の地形と調査区(1/4,000)	5	第 30 図	松山遺跡第 85 地点 H49 号住居跡・焼土(1/60)、溝土層説明	43
第 4 図	鶴ヶ岡遺跡第 6 地点遺構配置図(1/300)、溝(1/60)	6			
第 5 図	鶴ヶ岡遺跡第 6 地点旧石器遺物出土状況(1/40)	7	第 31 図	松山遺跡第 85 地点土坑・ピット・溝(1/120)、土層(1/80)	44
第 6 図	鶴ヶ岡遺跡第 6 地点石器集中出土遺物(2/3)	10			
第 7 図	鶴ヶ岡遺跡第 6 地点炉穴群(1/60)、出土遺物(1/4)	11	第 32 図	松山遺跡第 85 地点出土遺物(1/4)	45
第 8 図	北野遺跡の地形と調査区(1/4,000)	12	第 33 図	苗間東久保遺跡の地形と調査区(1/4,000)	46
第 9 図	北野遺跡第 33 地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)	14	第 34 図	苗間東久保遺跡遺構分布図(1/1,000)	48
第 10 図	北野遺跡第 33 地点集石土坑 1・2(1/30)	15	第 35 図	苗間東久保遺跡第 33 地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、 土坑・ピット(1/60)	49
第 11 図	北野遺跡第 33 地点集石土坑 3～5(1/30)、出土遺物(1/4)	16	第 36 図	苗間東久保遺跡第 33 地点出土遺物(1/4・2/3)	50
第 12 図	川崎遺跡の地形と調査区(1/4,000)	17	第 37 図	浄禅寺跡遺跡の地形と調査区(1/4,000)	51
第 13 図	川崎遺跡の遺構分布図(1/2,500)	19	第 38 図	浄禅寺跡遺跡遺構分布図(1/2,000)	53
第 14 図	川崎遺跡第 44 地点遺構配置図(1/300)、溝土層	22	第 39 図	浄禅寺跡遺跡第 40 地点遺構配置図(1/500)	54
第 15 図	川崎遺跡第 44 地点 J24 号住居跡・遺物出土状況(1/60)	23	第 40 図	浄禅寺跡遺跡第 40 地点 4 号住居跡・土坑①・ピット①・ 遺構外遺物集中 1・2(1/60)	56
第 16 図	川崎遺跡第 44 地点 J25 号住居跡・H80 号住居跡(1/60)	24	第 41 図	浄禅寺跡遺跡第 40 地点 4 号住居跡炉・埋嚢・掘方(1/30)	57
第 17 図	川崎遺跡第 44 地点 J24 号住居跡出土遺物①(1/4)	27	第 42 図	浄禅寺跡遺跡第 40 地点 4 号住居跡出土遺物(1/4)	58
第 18 図	川崎遺跡第 44 地点 J24 号住居跡出土遺物②(1/4・1/2・ 2/3)	28	第 43 図	浄禅寺跡遺跡第 40 地点集石土坑 1～3(1/30)	59
第 19 図	川崎遺跡第 44 地点 J25 号住居跡出土遺物①(1/4)	29	第 44 図	浄禅寺跡遺跡第 40 地点地下式坑・井戸・土坑②・ピット② (1/60)	60
第 20 図	川崎遺跡第 44 地点 J25 号住居跡出土遺物②(1/4)	30	第 45 図	浄禅寺跡遺跡第 40 地点土坑③(1/60)	61
第 21 図	川崎遺跡第 44 地点 J25 号住居跡出土遺物③(1/4)	31	第 46 図	浄禅寺跡遺跡第 40 地点土坑④・ピット③(1/60)	62
第 22 図	川崎遺跡第 44 地点 J25 号住居跡出土遺物④・H80 号 住居跡・遺構外出土遺物(1/4)	32	第 47 図	浄禅寺跡遺跡第 40 地点ピット④(1/60)	63
第 23 図	川崎遺跡第 44 地点地下式坑(1/60)、貝層(1/30)	33	第 48 図	浄禅寺跡遺跡第 40 地点溝①(1/80)	64
第 24 図	川崎遺跡第 44 地点貝層出土状況(1/30)	34	第 49 図	浄禅寺跡遺跡第 40 地点溝②・ピット⑤(1/80)	65
第 25 図	川崎遺跡第 44 地点土坑・ピット(1/60)	35	第 50 図	浄禅寺跡遺跡第 40 地点溝③(1/80)	66
第 26 図	松山遺跡の地形と調査区(1/4,000)	36	第 51 図	浄禅寺跡遺跡第 40 地点出土遺物①(1/4)	68
第 27 図	松山遺跡遺構分布図(1/3,000)	38	第 52 図	浄禅寺跡遺跡第 40 地点出土遺物②(1/4)	69
第 28 図	松山遺跡第 85 地点遺構配置図(1/300)	40	第 53 図	浄禅寺跡遺跡第 40 地点出土遺物③(1/4・1/1)	70

表 目 次

第 1 表 ふじみ野市遺跡一覧表・・・・・・・・・・ 2	第 14 表 川崎遺跡第 44 地点出土石器観察表・・・・・・・・・・ 28
第 2 表 鶴ヶ岡遺跡調査一覧表・・・・・・・・・・ 6	第 15 表 松山遺跡調査一覧表・・・・・・・・・・ 37
第 3 表 鶴ヶ岡遺跡第 6 地点出土石器観察表・・・・・・・・・・ 8	第 16 表 松山遺跡古代住居跡一覧表・・・・・・・・・・ 39
第 4 表 鶴ヶ岡遺跡第 6 地点炉穴一覧表・・・・・・・・・・ 11	第 17 表 松山遺跡第 85 地点土坑・ピット一覧表・・・・・・・・・・ 40
第 5 表 北野遺跡調査一覧表・・・・・・・・・・ 13	第 18 表 松山遺跡第 85 地点出土遺物観察表・・・・・・・・・・ 45
第 6 表 北野遺跡第 33 地点集石土坑・出土礫観察表・・・・・・・・・・ 14	第 19 表 苗間東久保遺跡調査一覧表・・・・・・・・・・ 47
第 7 表 川崎遺跡調査一覧表・・・・・・・・・・ 18	第 20 表 苗間東久保遺跡第 33 地点ピット一覧表・・・・・・・・・・ 47
第 8 表 川崎遺跡縄文時代住居跡一覧表・・・・・・・・・・ 20	第 21 表 浄禅寺跡遺跡調査一覧表・・・・・・・・・・ 52
第 9 表 川崎遺跡古代住居跡一覧表・・・・・・・・・・ 21	第 22 表 浄禅寺跡遺跡住居跡一覧表・・・・・・・・・・ 52
第 10 表 川崎遺跡第 44 地点 J25 号住居跡ピット一覧表・・・・・・・・・・ 22	第 23 表 浄禅寺跡遺跡第 40 地点 4 号住居跡ピット一覧表・・・・・・・・・・ 55
第 11 表 川崎遺跡第 44 地点地下式坑貝層一覧表・・・・・・・・・・ 24	第 24 表 浄禅寺跡遺跡第 40 地点集石土坑・出土礫観察表・・・・・・・・・・ 55
第 12 表 川崎遺跡第 44 地点 J24 号住居跡出土遺物観察表・・・・・・・・・・ 25	第 25 表 浄禅寺跡遺跡第 40 地点土坑一覧表・・・・・・・・・・ 61
第 13 表 川崎遺跡第 44 地点 J25 号住居跡・地下式坑・H80 号住居跡・ 遺構外出土遺物観察表・・・・・・・・・・ 26	第 26 表 浄禅寺跡遺跡第 40 地点ピット一覧表・・・・・・・・・・ 61
	第 27 表 浄禅寺跡遺跡第 40 地点出土石器観察表・・・・・・・・・・ 70

写真図版目次

写真図版 1 鶴ヶ岡遺跡第 6 地点試掘調査・・・・・・・・・・ 73	写真図版 19 苗間東久保遺跡第 33 地点試掘・本調査 (1)・・・・・・・・・・ 91
写真図版 2 鶴ヶ岡遺跡第 6 地点本調査 (1)・・・・・・・・・・ 74	写真図版 20 苗間東久保遺跡第 33 地点試掘・本調査 (2)・・・・・・・・・・ 92
写真図版 3 鶴ヶ岡遺跡第 6 地点本調査 (2)・・・・・・・・・・ 75	写真図版 21 浄禅寺跡遺跡第 40 地点試掘調査 (1)・・・・・・・・・・ 93
写真図版 4 鶴ヶ岡遺跡第 6 地点本調査 (3)・・・・・・・・・・ 76	写真図版 22 浄禅寺跡遺跡第 40 地点試掘調査 (2)・・・・・・・・・・ 94
写真図版 5 北野遺跡第 33 地点試掘・本調査 (1)・・・・・・・・・・ 77	写真図版 23 浄禅寺跡遺跡第 40 地点本調査 (1)・・・・・・・・・・ 95
写真図版 6 北野遺跡第 33 地点本調査 (2)・・・・・・・・・・ 78	写真図版 24 浄禅寺跡遺跡第 40 地点本調査 (2)・・・・・・・・・・ 96
写真図版 7 川崎遺跡第 44 地点試掘調査 (1)・・・・・・・・・・ 79	写真図版 25 浄禅寺跡遺跡第 40 地点本調査 (3)・・・・・・・・・・ 97
写真図版 8 川崎遺跡第 44 地点試掘調査 (2)・・・・・・・・・・ 80	写真図版 26 浄禅寺跡遺跡第 40 地点本調査 (4)・・・・・・・・・・ 98
写真図版 9 川崎遺跡第 44 地点本調査 (1)・・・・・・・・・・ 81	写真図版 27 浄禅寺跡遺跡第 40 地点本調査 (5)・・・・・・・・・・ 99
写真図版 10 川崎遺跡第 44 地点本調査 (2)・・・・・・・・・・ 82	写真図版 28 浄禅寺跡遺跡第 40 地点本調査 (6)・・・・・・・・・・ 100
写真図版 11 川崎遺跡第 44 地点本調査 (3)・・・・・・・・・・ 83	写真図版 29 浄禅寺跡遺跡第 40 地点本調査 (7)・・・・・・・・・・ 101
写真図版 12 川崎遺跡第 44 地点本調査 (4)・・・・・・・・・・ 84	写真図版 30 浄禅寺跡遺跡第 40 地点本調査 (8)・・・・・・・・・・ 102
写真図版 13 川崎遺跡第 44 地点本調査 (5)・・・・・・・・・・ 85	写真図版 31 浄禅寺跡遺跡第 40 地点本調査 (9)・・・・・・・・・・ 103
写真図版 14 松山遺跡第 85 地点試掘調査 (1)・・・・・・・・・・ 86	写真図版 32 浄禅寺跡遺跡第 40 地点本調査 (10)・・・・・・・・・・ 104
写真図版 15 松山遺跡第 85 地点試掘調査 (2)・・・・・・・・・・ 87	写真図版 33 浄禅寺跡遺跡第 40 地点本調査 (11)・・・・・・・・・・ 105
写真図版 16 松山遺跡第 85 地点試掘調査 (3)・・・・・・・・・・ 88	写真図版 34 浄禅寺跡遺跡第 40 地点本調査 (12)・・・・・・・・・・ 106
写真図版 17 松山遺跡第 85 地点本調査 (1)・・・・・・・・・・ 89	写真図版 35 整理作業・・・・・・・・・・ 107
写真図版 18 松山遺跡第 85 地点本調査 (2)・・・・・・・・・・ 90	

第1章 ふじみ野市の遺跡

I ふじみ野市の立地と環境

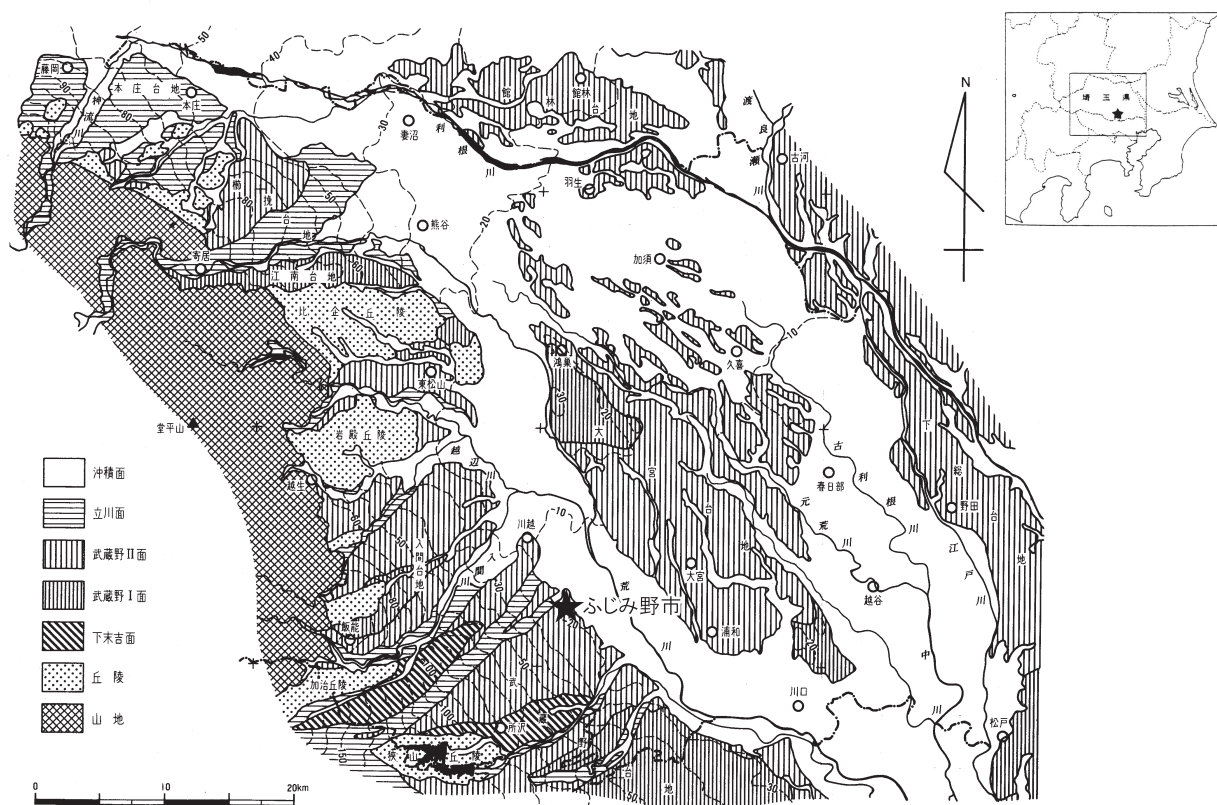
ふじみ野市は埼玉県の南西部に位置し、市内には国道254号バイパス、東武東上線、川越街道（国道254号線）、関越自動車道といった、交通の幹線が北西から南東方向に平行して存在する。市内の開発はこうした幹線沿いや、東武東上線東上福岡駅周辺、ふじみ野駅周辺を中心に進んでいるが、郊外には畑地や田園風景も多くみられる。

ふじみ野市を地形的にみると、武蔵野台地縁辺部と荒川低地の沖積地に大きく分かれ、旧大井町域は武蔵野台地縁辺部に位置し、旧上福岡市域は台地縁辺部から荒川低地の沖積地に広がる。

武蔵野台地は古多摩川が形成した扇状地で、扇頂部で標高180m、扇端部は標高15～20mで比高差10m前後の急斜面となって荒川低地と接している。台地には柳瀬川、黒目川、石神井川等の中河川が荒川低地へ向かって流れ、深い谷と沖積地を形成し、河川に沿って多くの遺跡が分布している。他にも多数の小河川が流れ、台地縁辺を鋸歯状に開析することが多いが、中には急崖もなく、緩斜面のまま低地に接していくことがある。この緩斜面はもともと低位の段丘面で、低位台地と呼ばれる。旧大井町地域を南北方向の断面図

で見ると、北と南に高台が続き、その中間に低位台地（大井台）がある。この大井台の中を3本の河川が東流し、河川の流域に遺跡が集中している。中でも砂川堀は狭山丘陵に流れを発する中河川で、本来大井台はこの砂川の段丘面と捉えることができる。また、福岡江川や富士見市との境を流れるさかい川、浄禅寺川などの小河川は市内に湧水源をもつ。湧水源は浅い窪地から発しており、こうした窪地の形成は従来から伏流水が再湧出したことによるものと、宙水からの流出によるものとの二通りが考えられている。

荒川低地は、荒川により形成された沖積地で、ふじみ野市の北東部から東部にかけて広がる。荒川の支流であった新河岸川は川越市周辺に水源を発しその流れはふじみ野市、富士見市、志木市、朝霞市を経て東京都にまたがる。武蔵野台地縁辺部を縫うように流れ、不老川、九十川、福岡江川、砂川堀、柳瀬川、黒目川、越戸川、白子川などの支流と合流し、現在は東京都北区で隅田川に合流する。低地部は平坦に見えるが、荒川や新河岸川の河川改修等で取り残された沼や、氾濫でできた旧河道（埋没河川）、自然堤防、後背湿地などの地形が存在する。



(原図 堀口1980に一部加筆)

第1図 ふじみ野市の位置と周辺の地形

II 市内の遺跡

ふじみ野市の遺跡分布をみると、台地上の中小河川沿いと荒川低地部を望む縁辺部、低地部分に分かれる。

市内の主な遺跡を時代順に河川ごとに概観する。

【旧石器時代・縄文時代】市の北側を流れる川越江川では、右岸高台に鶴ヶ岡外遺跡、鶴ヶ岡遺跡、八幡神社遺跡（川越市）が位置し、縄文時代中期の集落である西遺跡へ続く。鶴ヶ岡外遺跡では旧石器時代の石器群と礫群が出土し、八幡神社遺跡では縄文時代中期の住居跡などが検出されている。

藤間江川・川越江川が新河岸川に合流する部分、荒川低地に張り出した舌状台地上に、川崎貝塚として著名な川崎遺跡が立地する。本遺跡ではローム層中からではないが旧石器時代の石器が出土し、縄文時代早期から後期の住居跡などを検出する。新河岸川は川崎遺跡を回り込み、低地部で台地東縁を沿うように流れる。台地東端は急峻を成し、崖線上には縄文時代中期のハケ遺跡、学史上著名な前期集落の上福岡貝塚が形成され権現山遺跡へと続く。台地の南端、市立福岡中学校周辺はかつて「熊野山」と呼ばれ、湧出した水が丘上から流れ落ち滝となっていたため「滝地区」の名

称が付いたとされる。清水は長宮水川神社の裏手（北側）を北に流れていたが現在は道路となっており、新河岸川との合流部でその面影を残すのみである。滝遺跡、長宮遺跡はこの小河川に対峙して立地し、滝遺跡では前期の遺構と遺物を、長宮遺跡では前期関山期の集落跡が確認されている。

川越江川の1km南には福岡江川が流れ、新河岸川へ注ぐ。福岡江川の湧水地周辺域に縄文時代中期前半の集落である亀居遺跡が存在し、対岸にも中期前半の江川南遺跡がある。この2遺跡と鶴ヶ舞遺跡では、旧石器時代立川ローム第IV層の礫群と石器群を検出している。さらに市立亀久保小学校周辺では福岡江川に注ぐ埋没谷がみられ、東久保遺跡、亀久保堀跡遺跡、東久保西遺跡、東中学校西遺跡で旧石器時代から縄文時代中期の遺構と遺物が確認されている。川越江川最下流の新河岸川との合流部域には、前期集落の鷺森遺跡が存在する。

福岡江川の900m南には、富士見市との境にさかい川が流れ、3km下流で砂川堀と合流する。流域には縄文時代中期の拠点集落である西ノ原遺跡の他、10遺跡が存在する。旧石器時代の遺跡は西ノ原遺跡、中

第1表 ふじみ野市遺跡一覧表

No.	遺跡名	主な時代	遺跡番号
1	鶴ヶ岡外遺跡	旧石器、縄文早期の集落跡	30-036
2	鶴ヶ岡遺跡	旧石器、縄文早期・中期の集落跡	30-047
3	西遺跡	縄文中期の集落跡	25-001
4	北野遺跡	縄文中期、奈良・平安の集落	25-002
5	川崎横穴墓群	古墳後期の横穴墓	25-004
6	川崎遺跡	旧石器、縄文前期・中期、古墳前期・中期、奈良・平安の集落跡	25-003
7	ハケ遺跡	縄文中期の集落跡、6世紀代の古墳群、奈良・平安の集落跡	25-005
8	上福岡貝塚	縄文前期、古墳前期、奈良・平安の集落跡	25-006
9	権現山遺跡群（古墳群）	古墳前期の集落跡・古墳群、縄文中期、奈良・平安の集落跡	25-007
10	滝遺跡	縄文時代、古墳前期・中期、奈良・平安、近世の集落跡	25-008
11	西原遺跡	縄文の散布地	25-025
12	長宮遺跡	縄文前期、中・近世の集落跡	25-009
13	亀居遺跡	旧石器、縄文前期・中期の集落跡	30-030
14	鶴ヶ舞遺跡	旧石器、縄文中期、奈良・平安の集落跡	30-046
15	富士見台横穴墓群	古墳後期の横穴墓	25-011
16	福遺跡	古墳後期の横穴墓	25-023
17	松山遺跡	奈良・平安、中・近世の集落跡	25-010
18	天神廻遺跡	古墳中期の散布地	25-018
19	城山遺跡	中・近世の館跡	25-019
20	川袋遺跡	奈良・平安の散布地	25-020
21	江川南遺跡	旧石器、縄文中期、中・近世の集落跡	30-007
22	江川東遺跡	奈良・平安、近世の集落跡	30-045
23	東久保遺跡	旧石器、縄文中期、近世の集落跡	30-009
24	亀久保堀跡遺跡	中世の堀跡	30-006

No.	遺跡名	主な時代	遺跡番号
25	東久保西遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-042
26	駒林遺跡	近世の堀跡・中世の墳墓	25-013
27	福岡新田遺跡	縄文時代の散布地、中・近世寺院	25-015
28	鷺森遺跡	縄文前期の集落跡	25-017
29	伊佐島遺跡	古墳前期、平安の集落跡	25-021
30	東中学校西遺跡	縄文早期・中期、近世の集落跡	30-008
31	東久保南遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-032
32	西ノ原遺跡	旧石器、縄文早期・中期・後期、奈良・平安～近世の集落跡	30-001
33	中沢前遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-044
34	神明後遺跡	旧石器、縄文早期～後期、奈良・平安～近世の集落跡	30-041
35	苗間東久保遺跡	旧石器、縄文早期～後期	30-020
36	浄禅寺跡遺跡	旧石器、縄文早期・中期、中・近世の集落跡、近世寺院跡	30-022
37	小田久保遺跡	旧石器、縄文早期～中期、中・近世の集落跡	30-040
38	大井宿遺跡	近世～近代の宿場跡	30-010
39	大井氏館跡遺跡・大井戸遺跡	旧石器、縄文前期・中期、中・近世の集落跡	30-037
40	本村遺跡	旧石器、縄文早期～後期、中・近世の集落跡	30-034
41	西台遺跡	旧石器、縄文中期、奈良・平安、近世の集落跡	30-039
42	大井戸上遺跡	旧石器、縄文前期・中期、近世の集落跡	30-014
43	東台遺跡	旧石器、縄文早期～後期、奈良・平安～近世の集落跡、製鉄遺跡	30-024
44	大井宿木戸跡	近世～近代の宿場跡	30-048
45	石塔畑	中世の散布地	30-027



ふじみ野市全図

第2図 ふじみ野市遺跡分布図 (1/30,000)

沢前遺跡、中沢遺跡・外記塚遺跡（富士見市）で立川ロームⅢ層～Ⅹ層の遺物が確認されている。縄文時代中期～後期の集落は時代を追うごとに、上流から下流域へ集落の拠点の拠点を移していく傾向がみられる。

さかい川の800 m南に、都市下水道と化した砂川堀が流れる。砂川流域は大きく3ヶ所の地域で遺跡分布がみられる。砂川最上流域の狭山丘陵裾部、伏流水となりはじめる中流域、一旦地中に姿を消したあと再び湧水してくる下流域である。下流域のふじみ野市地域では、砂川右岸が段丘となり5～6 mの急崖を形成する。この高台上には縄文時代中期の拠点集落である東台遺跡があり、旧石器時代の遺跡も西台遺跡から東台遺跡まで連綿と続く。一方砂川左岸の低位台地では、市内で最古の時期であるA T降灰前（立川ローム第Ⅶ層）の石器を本村遺跡の微高地上から検出する。縄文時代中期には上流の小田久保遺跡で小規模な集落がみられ、本村遺跡では炉穴、落とし穴が散在する。

【弥生・古墳時代】 荒川低地を流れる新河岸川の自然堤防上に、弥生時代後期の環濠集落である伊佐島遺跡が立地する。新河岸川右岸、舌状台地崖線上の東端に立地する権現山遺跡は、縄文時代から中世までの複合遺跡で、縄文時代の住居跡も存在するが、主体は遺跡北東部と北西端に築造された古墳群と、古墳時代前期から奈良・平安時代にかけての集落跡である。北東部に築造された古墳時代前期の古墳群（埼玉県指定史跡権現山古墳群）は、方墳11基の他に古墳時代初期の前方後方墳（2号墳）1基である。また権現山古墳群北西端の台地縁辺部には、古墳時代中期の古墳群（通称権現山北古墳群）3基がある。ハケ遺跡第16地点の調査（2014）で、古墳の周溝から、6世紀後半頃とみられる複数の人物埴輪と、円筒埴輪が新たに発見されたが、古墳の形態や主体部については不明である。また第19地点の調査（2015）では6世紀代の円墳3基が新たに発見され、群集墳であることが判明した。

他に古墳時代の集落は川崎遺跡と上福岡貝塚、滝遺跡で確認されている。

【飛鳥・奈良・平安時代】 7世紀には、前述の舌状台地の西側、川崎遺跡の南西隣に川崎横穴墓群、さらに南約1.5 kmの台地南側の崖線に、富士見台横穴墓群が存在する。集落は川崎遺跡、滝遺跡、松山遺跡、長宮遺跡など一段低い段丘面に展開し、川崎遺跡は10世

紀前半まで、滝遺跡、松山遺跡は9世紀後半ごろまで続く。

8世紀代には前述の他、ハケ遺跡、上福岡貝塚、権現山遺跡、神明後遺跡、東久保南遺跡などで住居跡を検出する。8世紀中葉から9世紀前半まで、砂川堀右岸の台地縁辺部に東台遺跡の大規模な製鉄遺跡が現われ、周辺の遺跡でも木炭窯などが確認されている。さらに9世紀以降10世紀までは伊佐島遺跡、東台遺跡、西ノ原遺跡などで住居跡を検出している。またハケ遺跡からは銚帯金具が、川崎遺跡からは瓦塔片と布目瓦などが出土しており注目される。

【中世】 駒林遺跡では14世紀代に造立された板碑の下に、蔵骨器が埋納された葺石墳墓を検出した。また本遺跡を囲む堀跡状の溝覆土層中から、茶毘跡などが確認されている。長宮遺跡、松山遺跡、本村遺跡などでは13～16世紀代の遺物を伴う遺構を検出する。特に本村遺跡では遺構を多数検出し、15世紀以降中世集落が発展したと思われる。

16世紀後半から17世紀前半では川崎遺跡、長宮遺跡、松山遺跡、神明後遺跡、浄禅寺跡遺跡などで屋敷地とみられる遺構を検出し、「新田」といった地名と共に開発の歴史を偲ばせる。特に城山遺跡は荒川低地の自然堤防上に立地し、周囲を方形に堀跡で囲む中世から近世の居館跡と思われる。

また、松山遺跡、駒林遺跡、亀久保堀跡遺跡、神明後遺跡では時期不詳の長大な堀跡が検出されている。

【近世】 近世以降の遺跡は、多数の遺跡で遺物などが確認されている。主な近世遺跡の分布は中世村から続く集落跡や、街道沿いの宿場や新河岸川の河岸跡、寺院跡などにみられる。中でも、川越街道沿い大井宿の範囲にある大井氏館跡遺跡、大井戸上遺跡や大井宿遺跡、亀久保村地藏院の江川南遺跡、旧苗間村の寺院跡である浄禅寺跡遺跡、長宮氷川神社周辺の長宮遺跡、新河岸舟運で栄えた福岡河岸の福田屋などでまとまった遺構と遺物が確認されている。また鷺森遺跡で、近・現代の盛り土の中から陶磁器が多数出土しているが、埋め立ての為に他から持ち込まれた可能性がある。

近世以降では、昭和初期の旧日本陸軍の軍需工場である東京第一陸軍造兵廠川越製作所（通称造兵廠「火工廠」）の跡地で、防爆土塁・防空壕・水溜・消火栓・排水枡などの遺構や遺物が、近年の調査で確認されている。

第2章 鶴ヶ岡遺跡第6地点の調査

I 遺跡の立地と環境

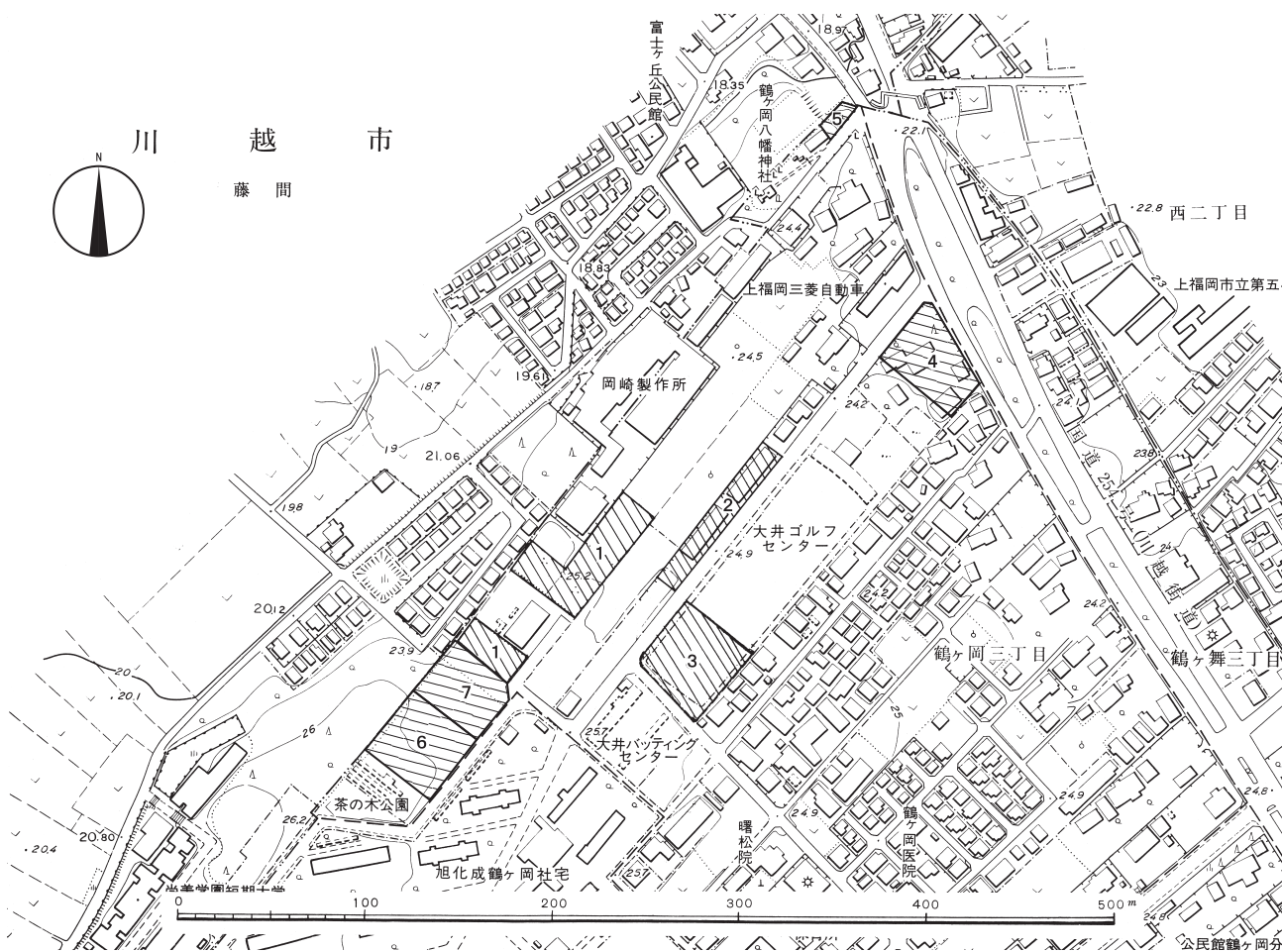
鶴ヶ岡遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ藤間江川に面した標高22mの台地北縁に立地する東西200m以上の広い遺跡であり、その範囲は、川越市とふじみ野市にまたがっている。表面採集の遺物として、縄文早期のほか中期の各時期、平安時代の土器が知られており、複合遺跡である事を示している。表面採集の遺物は北の崖面寄りが密であり、住居などの集中部分と思われる。この部分のうち、ふじみ野市鶴ヶ岡八幡神社に接する川越市域部分で、1988年に調査が行われたが、その際に勝坂期末の住居1軒・加曾利E I 新期の住居1軒・加曾利E IV期の土坑などが検出され、ほぼ完形の有孔鏝付土器を含む大量の土器と石器若干が出土している。また、本遺跡の下流にある西遺跡の一部が1992年以降の試掘・発掘調査で、阿玉台I b期、勝坂期II～III期、加曾利E III期の住居など24軒が、確認または検出されている。

ふじみ野市、川越市にまたがる本遺跡のうち、ふじみ野市分は1991年に旧大井町の体験学習園開設のため初めて試掘調査を実施し、2016年3月現在、7地点で試掘調査、本調査を行っている。2015年7月の第6地点の調査で、本遺跡で初めて旧石器時代と縄文時代早期の炉穴群が検出された。2001年7月に埼玉県教育委員会が本遺跡の南西側を試掘調査しているが、遺構・遺物は確認されていない。

II 本調査に至る経過と調査の概要

調査は保育園建設に伴うもので、原因者より2015年3月17日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は崖面上で、遺跡範囲の南西端に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2015年5月15日～27日に試掘調査を実施した。

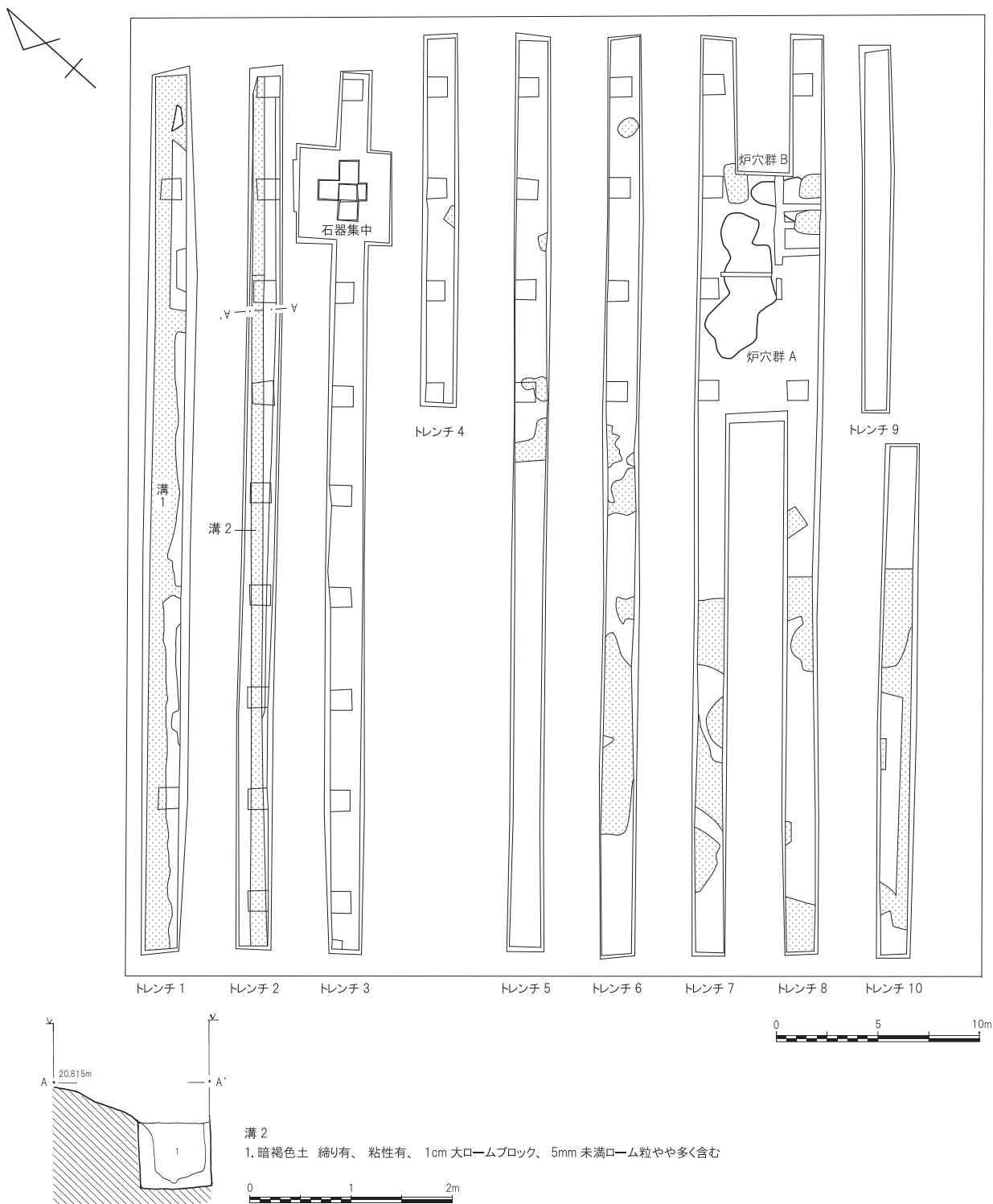
試掘調査は幅約1.5mのトレンチ10本を設定し、



第3図 鶴ヶ岡遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第2表 鶴ヶ岡遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	鶴ヶ岡 3-3-1・21	(1991.6.26~7.17)	5,710	体験学習園整備	遺構なし、縄文土器片、銭	町内遺跡群 I
2	鶴ヶ岡 3-16-1・14	(2000.4.6~2000.5.16)	1,327	共同住宅	遺構なし、旧石器、縄文土器片	町内遺跡群 X
3	鶴ヶ岡 3	(2005.1.7)	2,059	個人住宅	遺構・遺物なし	町内遺跡群 X II
4	鶴ヶ岡 3-18-1・12、23-3、26-6	(2005.5.12)	1,742	店舗	土坑、縄文土器片	市内遺跡群 2
5	鶴ヶ岡 3-1-1	(2013.6.25)	235.5	神社社務所	遺構なし、縄文土器片	市内遺跡群 18
6	鶴ヶ岡 3-18-23	(2015.5.15~27)2015.7.10~8.19	1,983.34	保育園	旧石器時代石器集中 1、縄文時代炉穴群 2	市内遺跡群 19
7	鶴ヶ岡 3-3-20・21	(2015.12.22~2016.1.29)	1,731.79	高齢者介護施設	土坑 1、根切り溝他 2、風倒木 1	未報告



第4図 鶴ヶ岡遺跡第6地点遺構配置図 (1/300)、溝 (1/60)

重機による表土除去後人力による調査を行った。人力による調査は地山ローム層で遺構確認を行い、トレンチ6・7で縄文時代の炉穴群を確認した。現地表面から地山ローム層（炉穴群）までの深さは約20cmであった。その後、旧石器時代の遺構と遺物を確認するため、トレンチ1～8内に1×1mの小トレンチを4m間隔に設定した。トレンチ3の小トレンチで旧石器時代の遺物が出土した。現地表面から旧石器時代の遺物出土層までは約70cmの深さであった。

炉穴群の確認調査と旧石器時代の確認調査を行い、遺構の写真撮影・全測図作成等記録保存を行った。

原因者と再協議の結果、炉穴群については建物等による影響がないため保存措置とした。旧石器時代の遺構と遺物については、建物による影響が避けられないため、原因者負担による本調査を行った。

本調査は、7月10日～8月19日まで行った。表土の除去には重機を用いたが、埋め戻しは人力で行った。遺物の実測には、調査区内に3×4mの長方形区画を設定、各杭にA～Dの名称を付した。

整理事業については有限会社アルケアーリサーチに業務委託を行った。



第5図 鶴ヶ岡遺跡第6地点旧石器遺物出土状況 (1/40)

Ⅲ 遺構と遺物

(1) 旧石器時代の遺構と遺物

①石器集中遺物出土状況

【平面分布】

平面分布は長軸 2m、短軸 1.7m の楕円形の範囲に 22 点が散漫に分布し、ここから少し離れて (0.9m、1.3m) それぞれ 1 点ずつが出土している。Ob1 と Ob2 は出土点数が少なく全体が散漫な分布を示していることもあり分布の特徴を見いだすことはできなかった。接合資料 2 個体は、注記番号 2+7+10+12 は散漫な分布の範囲内で 4 点が接合し、接合間距離は最大 1.7m、最小 0.4m である。注記番号 4+14 は 1 点が分布範囲外から出土しており、2 点の接合間距離は 3.2m である。

【垂直分布】

垂直分布は立川ロームⅣ層、Ⅴ層を中心としてⅢ層～Ⅵ・Ⅶ層上部にかけて分布していることが看取される。上下のレベル差は最大 57.8cm をはかるが、Ob1 と Ob2 の分布に違いは認められない点から両母岩とも同一の文化層として捉えられる。接合資料 2 個体は、注記番号 2+7+10+12 がⅣ層上部、Ⅳ層下部、Ⅴ層上部間の接合、注記番号 4+14 はⅢ層とⅣ層上部間の接合である。

②母岩別分類

鶴ヶ岡遺跡第 6 地点から出土した石器石材はすべて黒曜石であり、以下のように母岩別分類を行った。

Ob1： 茶色がかった黒色～灰黒色。淡灰色の不整縞状構造。透明度あり。球顆 ($\phi < 0.5 \text{ mm}$) を含む。平滑な節理面が認められる。13 点 (6.94g)。

Ob2： 茶色がかった黒色～灰黒色。淡灰色の不整縞状構造。透明度あり。球顆 ($\phi < 1 \text{ mm}$) を含み、一部は層状をなす。粗い節理面が認められる。8 点 (29.65g)。

両者は色調や構造がよく似ている。球顆と節理面の違いにより区別したが、同母岩の部位による違いである可能性も否定できない。4 点は小片のため分類しなかった。

③出土石器 (第 6 図 1～9)

出土石器はすべて黒曜石製の剥片である。

1 は右側縁を欠損しており右側縁にガジリが認められる。末端は階段状剥離と判断したが、折れ面の可能性もある。背面は主要剥離面の剥離方向に対して 90° 、 180° の剥離面で構成される。打面は節理面。打面と背面との縁辺には、両面上に剥離が連続し、縁辺は部分的に潰れている。主要剥離面の打点は明瞭で、打瘤の発達は弱い。打点径 0.7 mm、剥離角 136° 、

第 3 表 鶴ヶ岡遺跡第 6 地点出土石器観察表 (cm、g)

掲載番号	注記番号	石材	母岩	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考・注記番号
1	16	黒曜石	ob1	剥片	12.9	(14.6)	4.2	0.87	
2	7	黒曜石	ob1	剥片	(22.1)	(14.1)	5.5	0.95	注記 No.10 と接合する。
3	2+10+12	黒曜石	ob1	剥片	22.6	27.8	9.2	2.76	接合資料。
4	2+10+12+7	黒曜石	ob1	剥片	22.8	27.8	9.5	3.71	接合資料。
	2	黒曜石	ob1	剥片	(22.0)	(12.7)	6.3	1.94	注記 No.10 と接合する。
	10	黒曜石	ob1	剥片	18.5	(11.4)	4.6	0.71	注記 No.7、2、12 と接合する
	12	黒曜石	ob1	剥片	(12.8)	(6.5)	1.6	0.1	注記 No.10 と接合する。
5	23	黒曜石	ob2	剥片	20	18.8	11.1	2.93	2点接合状態で計測した。実測図は 1 点のみ。
6	5	黒曜石	ob2	剥片	24.2	(14.3)	7.8	2.15	
7	17	黒曜石	ob1	剥片	(22.7)	(21.5)	10.3	3.02	下端にガジリが認められる。
8・9	4+14	黒曜石	ob2	剥片	46.3	50.6	15.5	20.14	接合資料。
8	4	黒曜石	ob2	剥片	(22.0)	(27.4)	10.9	5.98	注記 No.14 と接合する。
9	14	黒曜石	ob2	剥片	(25.2)	(50.1)	15.5	14.16	注記 No.4 と接合する。
	3	黒曜石	—	剥片	(4.2)	(5.8)	(0.8)	0.03	
	6	黒曜石	—	破片	—	—	—	0.05	小片 4 点、重量は合計
	8	黒曜石	ob1	剥片	(21.3)	9.0	7.8	0.53	
	9	黒曜石	ob1	剥片	10.1	(17.1)	(7.3)	0.71	打面上にガジリが認められる。
	11	黒曜石	ob2	破片	14.8	7.5	6.9	0.57	
	13	黒曜石	ob1	剥片	(5.1)	10.0	2.1	0.06	
	15	黒曜石	—	破片	7.4	6.4	(7.5)	0.14	一面はガジリ。
	18	黒曜石	ob1	剥片	(7.0)	(14.3)	2.8	0.25	下端縁辺にガジリが認められる。
	19	黒曜石	ob1	破片	16.9	7.3	5.8	0.2	
	20	黒曜石	ob1	剥片	(11.3)	(11.2)	5	0.32	
	21	黒曜石	ob2	剥片	(13.3)	6.8	3.8	0.25	
	22	黒曜石	ob1	剥片	(10.2)	16.8	(2.9)	0.3	
	24	黒曜石	ob2	破片	4.9	10.6	10.0	0.59	

() は欠損を示した。— は小片のため分類不能

打面角 62°。

2 は打面からの折れにより左半を欠損している。右側縁上端にガジリが認められる。末端に球顆からの折れが認められる。背面は主要剥離面と同方向の剥離面で構成される。打面は節理面。主要剥離面の打点は欠損している。打面下にはリップが発達し、打瘤の発達も認められる。3 と接合する。

3 は 3 点が折れ面で接合している。接合面は打面からと背面側の球顆からの折れ。左側縁 1/3 程度と末端の一部を欠損している。背面は主要剥離面の剥離方向に対して 90° の剥離面と打面からの剥離で構成される。打面は節理面で、端部にわずかに微細剥離と欠損が認められる。主要剥離面の打点は明瞭で打瘤も発達している。3 点のうち、注記番号 2 のみ表面の黒曜石本来の光沢が失われおり、他 2 点と色調が異なる。被熱の可能性はある。打点径 0.7 mm、剥離角 138°、打面角 82°。

4 は、2 と 3 の接合資料。

5 は末端を節理面からの折れで欠損している。本剥片の末端部が残置する 7 mm 大の小片が接合するが図示していない。背面は、主要剥離面と同方向および 270° の剥離面で構成されている。打面は節理面。主要剥離面の打点は不明瞭で、打瘤は発達しない。打点径 0.7 mm、剥離角 82°、打面角 74°。

6 は背面からの折れによって左半 1/3 を欠損している。末端の一部にガジリが認められる。背面は、主要剥離面と同方向の剥離面で構成される。末端辺はヒンジフラクチャーを呈する。打面は節理面。主要剥離面の打点は碎けて残置していない。打瘤は発達している。打面角 76°。

7 は右側約 1/2 を背面からの折れにより欠損しており、他にも球顆からの折れが認められる。下端にはガジリが認められる。背面と主要剥離面の下部に下方からの剥離面から両極剥片の可能性はあるが、欠損部分が大きく判然としない。背面は主要剥離面と同方向および 180° の剥離面で構成される。打面は単剥離打面だが 1/2 程度しか残置していない。主要剥離面の打点は残置していないが、リングの強い収斂が認められる。

8 は 9 と接合する。

9 は 8 と接合する。

8 と 9 は底面があり下端が幅広になる横長の剥片。2 点が接合している。接合面は左半分が球顆を含む節

理面。右側縁の上部と左側縁を欠損している。右側縁と底面の一部にガジリが認められる。背面は主要剥離面に対して 180° の剥離面とわずかな打面からの剥離で構成される。右側縁側の底面からの剥離面は打点が残置している。底面は球顆を含む節理面で、右半には背面からの剥離が認められる。打面は単剥離打面だが、左側縁側 1/3 程度を欠損している。主要剥離面の打点は明瞭でコーンが認められる。打瘤は発達している。打点径 0.6 mm、剥離角 136°、打面角 124°。主要剥離面左側縁下部にわずかに剥離が認められる。上半部の注記番号 4 は、下部同 14 にくらべ黒曜石本来の光沢が失われており色調が異なる。被熱の可能性はある。

※注 背面構成の表現では、主要剥離面の剥離方向に対して反方向を 180°、左側縁→右側縁方向 90° を、右側縁→左側縁方向を 270° とした。

(2) 縄文時代の遺構と遺物

① 炉穴群

縄文時代早期の炉穴群の広がりをも 2 ケ所で確認した。調査区の東部、トレンチ 7・8 に位置する。

2 ケ所のうち南側を炉穴群 A、北側を炉穴群 B とした。各炉穴群にサブトレンチを設定し掘り下げた結果、西側の炉穴群 A で 2 ケ所、東側の炉穴群 B で 7 ケ所の焼土面を確認した。

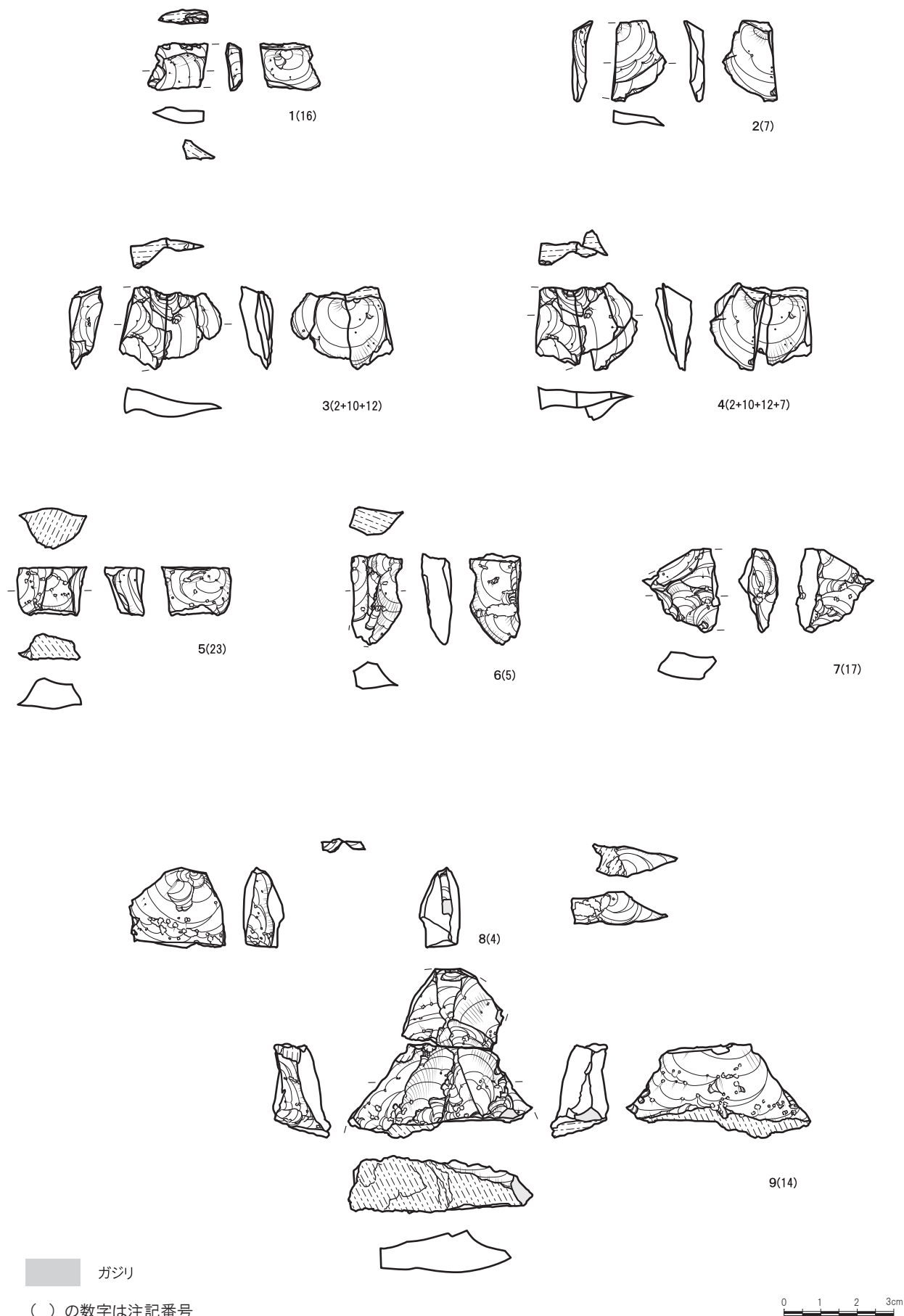
炉穴群 A の平面形態は不整形で、規模は東西 710 cm × 南北 238 cm、深さ 40 cm である。炉穴群 B の平面形態は不明で、規模は東西 220 cm × 南北 (344) cm、深さ 40 cm である。

各焼土面の規模は第 4 表を参照。

② 出土遺物 (第 7 図 1 ~ 5)

1 は炉穴群出土の縄文時代早期の土器で、胎土に繊維を含む。口縁部で、外面には条痕文を施す。

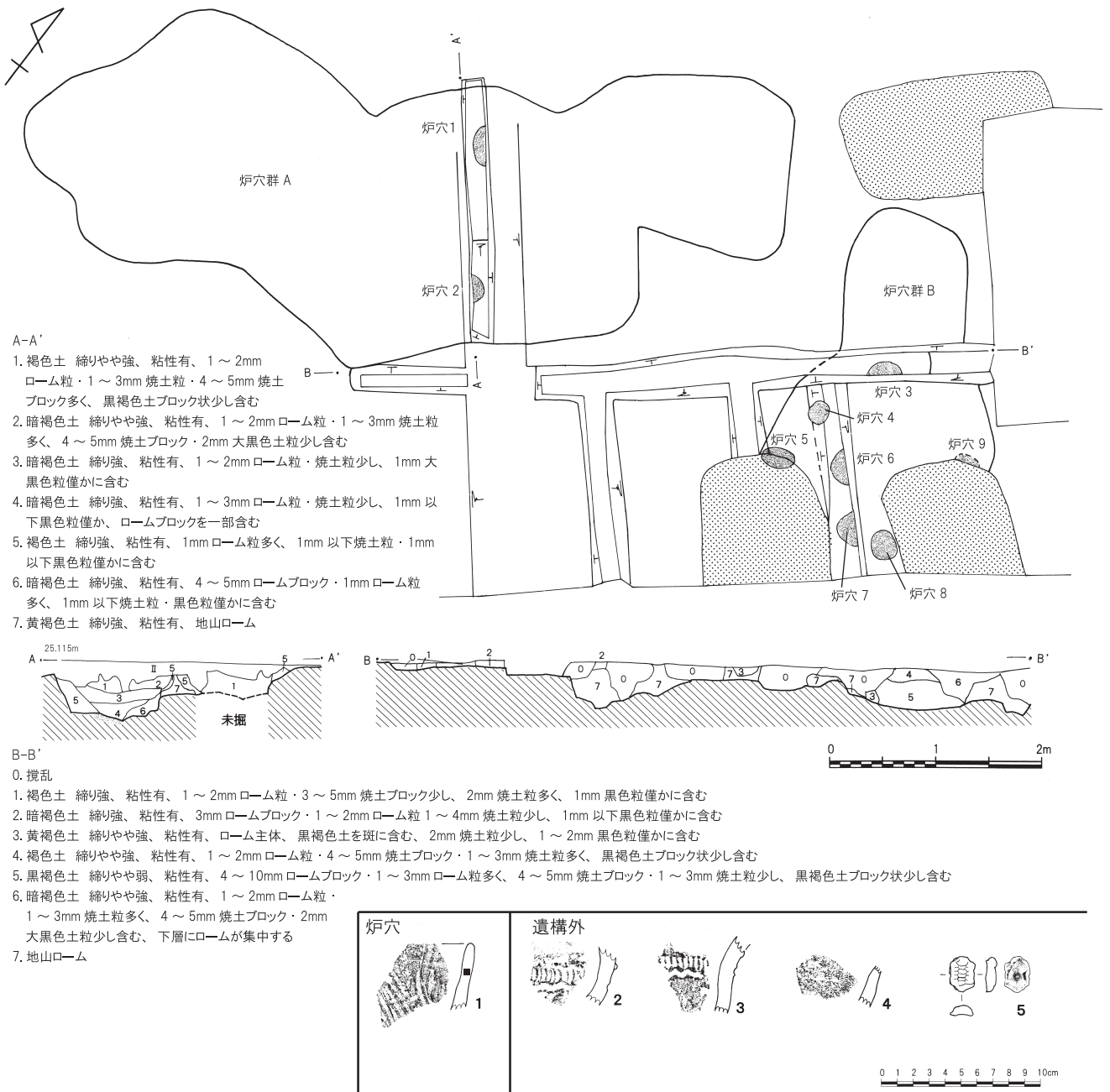
2 ~ 5 は遺構外出土遺物である。2 は隆帯脇に角押文を施し、さらに内側に波状沈線文を巡らす。3 も角押文を施し脇に波状沈線文を巡らす。2、3 は縄文時代中期勝坂Ⅱ式(藤内式)である。4 は無文の縄文土器で、時期は中期か。5 は土製品のドロメンチである。形抜成形でモチーフは亀、色調は橙色、裏面に指頭痕有、重さ 2.12 g である。



第6図 鶴ヶ岡遺跡第6地点石器集中出土遺物 (2/3)

第4表 鶴ヶ岡遺跡第6地点炉穴一覧表 (単位 cm)

炉穴群	No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
炉穴群 A	1	不明	(37 × 11)	—	25
	2	不明	(27 × 11)	—	48.9
炉穴群 B	3	不明	(33 × 12)	—	44.8
	4	楕円形	22 × 18	—	20.2
	5	楕円形	32 × 19	—	10.6
	6	不明	(34 × 15)	—	9.8
	7	不明	(34 × 18)	—	11.1
	8	楕円形	27 × 23	—	0.4
	9	不明	(25 × 17)	—	—



第7図 鶴ヶ岡遺跡第6地点炉穴群 (1/60)、出土遺物 (1/4)

第3章 北野遺跡第33地点の調査

I 遺跡の立地と環境

北野遺跡は、藤間江川に面した標高17～18mの台地縁辺にあり、開析した小支谷を囲うように立地する南北250m、東西650m以上の遺跡である。上福岡駅まで600mに位置する利便性のため、昭和30年代から宅地開発され、ほとんど空き地は残っていない。

周辺の遺跡は、1km上流に縄文集落の西遺跡、下流に旧石器時代から縄文、古代、中近世にわたる複合遺跡の川崎遺跡、川崎横穴墓群がある。

1965年の分布調査、1970年代後半の宅地開発で縄文時代早～中期の土器片が採集され、1980年以來38ヶ所で試掘調査が行われている。縄文時代中期と平安時代の住居跡各1軒、中世以前とみられる溝等を検出、縄文時代中期深鉢土器の顔面把手等も採集されている。

II 本調査に至る経過と調査の概要

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より



第8図 北野遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

2015年9月8日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は、遺跡範囲の北西部の崖面に近い台地上に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2015年12月1日～8日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1～1.5mのトレンチ8本を設定し、重機による表土除去後人力による調査を行った。地山ローム層で遺構確認を行い、トレンチ7で縄文時代の集石土坑を確認した。現地表面から地山ローム層までの深さは約20～30cmであった。遺構の写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻しを行った。旧石器時代の確認調査は行っていない。

原因者と再協議の結果、集石土坑については建物による影響が避けられないため、原因者負担による本調査を行った。

本調査は、遺構の確認された部分を拡張し12月15日～21日まで行った。表土の除去には重機を用いた。

遺構平面図、全体図の作成には平板測量を行った。

Ⅲ 遺構と遺物

本調査では縄文時代の集石土坑5基を検出した。遺物は、集石土坑より14点が出土したが、2点を掲載した。

【集石土坑】集石土坑は調査区の北東部で、台地縁辺部に近い部分に広がる。5基の集石土坑は、南北方向に直線的に延びる。出土遺物から、縄文時代に属するものとみられる。

集石土坑から出土する礫は集石土坑1が最も多く次いで集石土坑2と集石土坑3である。集石土坑4と5

第5表 北野遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	北野 2-2110-1の一部、2112-1	(2006.4.7)	408(44)	分譲住宅	遺構遺物なし	市3
2	北野 1-3119-11	(2006.8.4)	131	個人住宅	遺構遺物なし	18 教要、市3
3	北野 1-3061-4	(2006.4.28)	148	個人住宅	保護層有、遺構遺物なし	市3
4	北野 2-8-3	(2006.8.24)	58	個人住宅	遺構遺物なし	18 教要
92-1	大原 2-2079-1	(1992.6.19～22)	617	駐車場	溝2、縄文時代中期土器片、土師器片	埋15
92-2	北野 2-1809-1	(1992.8.6)	138	個人住宅	遺構遺物なし	埋15
99-1	北野 2-1797-5	(1999.7.2)	157.4	個人住宅	遺構なし、縄文土器片	埋22
99-2	北野 2-1787-1	(1999.8.9～12)	179.1	個人住宅	遺構なし、縄文土器片	埋22
02	北野 1-3058-1、3114-1の一部	(2002.11.28～29)	100	公園歩道	遺構遺物なし	埋25
03-1	北野 1-3058-1、3114-1の一部	(2003.7.1～11)	1,484	公園	遺構遺物なし	埋26
03-2	大原 2-2081-6	(2003.8.8～11)	350	宅地造成	土坑1、縄文土器片	埋26
04	北野 2-1827-1～3	(2004.4.16～19)	435	共同住宅	遺構遺物なし	埋27
05	北野 1-3129-3・20	(2005.12.2)	101	個人住宅	遺構遺物なし	17 教要
16	大原 1-2070-1、2071-1	(2009.4.8～10)	296(1,888)	宅地造成	ピット3、中期初頭土器・石器	市8
17	大原 1-2079-1・6	(2009.10.13～17)	122.5(412)	共同住宅	土坑2、阿玉台IV土器	市8
18	北野 2-1828-2・12、1829-1・2	(2009.3.9～18)	178(507.9)	分譲住宅	縄文住居跡1(J1住)、奈良平安住居跡(H1住)、土坑3、ピット8	市8
19	北野 2-1821-1・2、1820-4	(2010.12.1～2)	476.3	共同住宅	ピット2、遺物なし	市10
20	北野 2-1835-11	(2011.8.11)	61.3(4)	個人住宅	遺構遺物なし	市14
21	北野 1-3117-3,3118-1	(2011.12.8～20)	830	分譲住宅	堀跡1、縄文土器片、焙烙	市14
22	北野 2-1788-8の一部	(2012.2.6～8)	48(207.1)	分譲住宅	遺構なし、須恵器片	市14
23	北野 1-3111-4(1-4-9)	(2012.8.28)	140.8	個人住宅	遺構遺物なし	市15
24	北野 1-3063-1	(2012.9.13・14)	335	分譲住宅	土坑1、根きり溝1、縄文土器片	市15
25	北野 2-1833-3(2-6-6)	(2012.12.10)	142.7	分譲住宅	遺構遺物なし	市15
26	北野 2-1795-3	(2012.12.14)	117	分譲住宅	遺構遺物なし	市15
27	北野 1-3119-11	(2014.5.7)	481	共同住宅	遺構遺物なし	未報告
28	北野 2-2110-9	(2014.5.27・28)	100.6	分譲住宅	遺構遺物なし	未報告
28	北野 2-2110-8	(2014.5.27)5.28	101.4	個人住宅	縄文時代集石土坑1、遺物なし	未報告
29	北野 2-1830-8	(2014.10.14・15)	83.7	分譲住宅	遺構遺物なし	未報告
30	北野 2-2067-8	(2014.10.30・11.5)	75.9	分譲住宅	遺構遺物なし	未報告
31	北野 2-2130-4・9	(2015.8.18)	179	分譲住宅	遺構なし、縄文土器片	未報告
32	北野 2-1841-7 他	(2015.8.27)	209	分譲住宅	遺構遺物なし	未報告
33	北野 2-1801-3・4・42・43	(2015.12.1～8)12.15～21	627.69	分譲住宅	集石土坑5、縄文土器片	市19
34	大原 2073-1	(2015.12.7・8)	276.13	共同住宅	ピット1、遺物なし	未報告
35	北野 2-2116-4	(2015.12.8)	53	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
36	大原 1-2058-10・11の各一部	(2016.2.16)	212	共同住宅	遺構遺物なし	未報告
37	北野 1-3127-23・25	(2016.3.25)	70.25	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
38	北野 2-1807-6・7・8、1808-3・5	(2016.7.29)	106.9	個人住宅	遺構なし、縄文土器片	未報告

※理：上福岡市教育委員会埋蔵文化財の調査報告書、上遺調：上福岡市遺跡調査会報告書、教要：上福岡市・ふじみ野市教育要覧、市：ふじみ野市市内遺跡群報告書

は礫の出土がやや少ない。

集石土坑1～5の平面形態は円形もしくは楕円形である。集石土坑の詳細及び出土礫については、第6表を参照。

【出土遺物】(第11図1～6)集石土坑からは14点の土器片が出土した。1～4は集石土坑1出土。1は口縁部片で、口唇部に押圧を施す。外面は口唇部直下に半截竹管状工具で横位に施文する。

2は集石土坑1から出土した縄文土器片である。無文で内外面に撫でを施す、胎土に微細な金雲母を僅か

に含む。1、2は縄文時代。

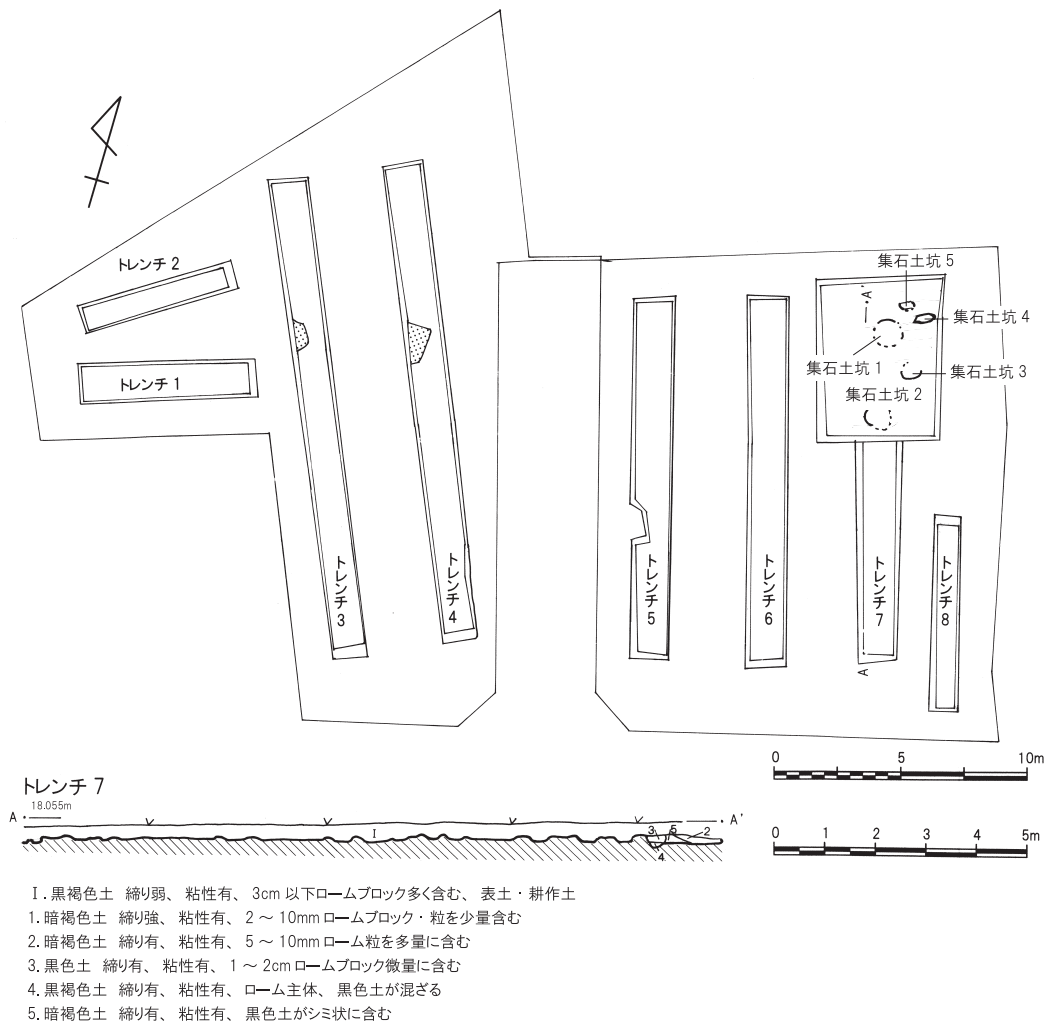
3・4は砂岩の石製品で表面上部に帯状の窪みを巡らす。重さは3が112.52g、4は55.96gである。

5と6は遺構外出土である。

5は縄文土器片で沈線文を施し、沈線間は磨り消す。縄文時代中期末から後期。6は須恵器の甕で胎土に1mm大の白色粒をやや多く含む。内外面は灰色で中は黄褐色のサンドイッチ状を呈する。外面には横位に微隆帯を巡らせ、その横に1単位6本以上の波状文を巡らせる。

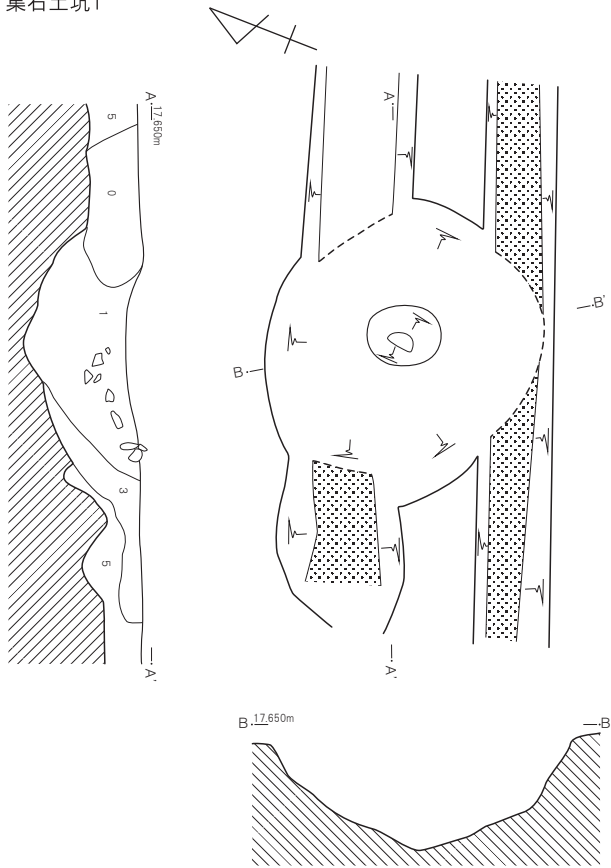
第6表 北野遺跡第33地点集石土坑・出土礫観察表(単位cm・g)

No	平面形態	確認面径	底径	深さ	総点数	総重量	平均重量	破損数	完形数	焼成数	未焼成数	タール・煤付着数	タール・煤未付着数	備考
1	楕円形	122×(112)	11×6	45.3	623	48,529.36	77.90	344(55.22%)	279(44.78%)	276(44.30%)	347(55.70%)	315(50.56%)	308(49.44%)	
2	円形	76×(65)	(25)×20	26.5	385	26,927.76	69.94	314(81.56%)	71(18.44%)	172(44.68%)	213(55.32%)	174(45.19%)	211(54.81%)	
3	楕円形	94×(80)	35×34	30.4	203	11,489.65	56.60	144(70.94%)	59(29.06%)	159(78.33%)	44(21.67%)	67(33.00%)	136(67.00%)	
4	(円)	89×(42)	(27)×24	15.7	47	3,099.11	65.94	40(85.11%)	7(14.89%)	30(63.83%)	17(36.17%)	18(38.30%)	29(61.70%)	
5	(楕円)	65×(47)	28×(27)	14.0	10	454.16	45.42	10(100%)	0(0%)	5(50%)	5(50%)	3(30%)	7(70%)	

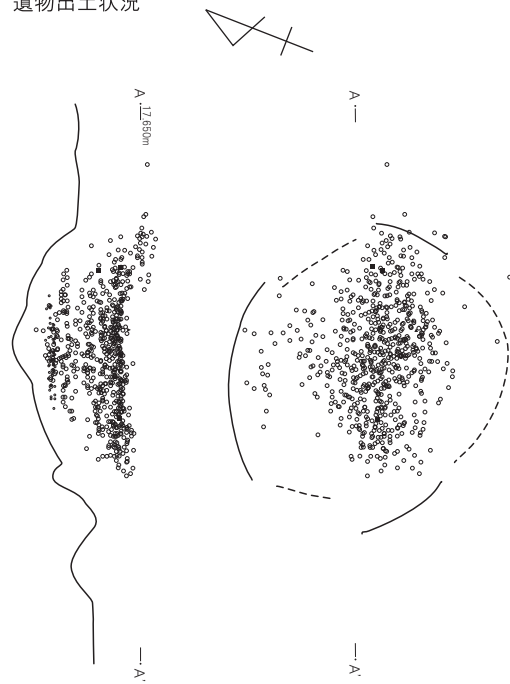


第9図 北野遺跡第33地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)

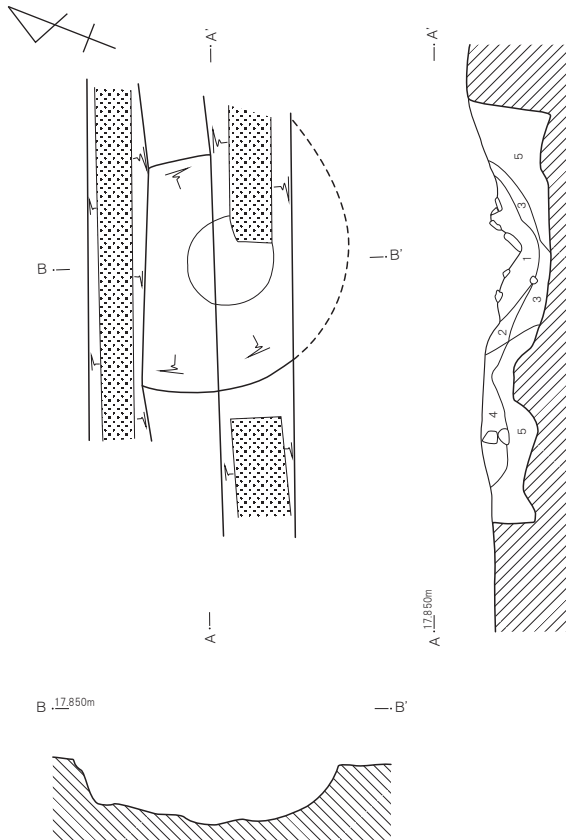
集石土坑1



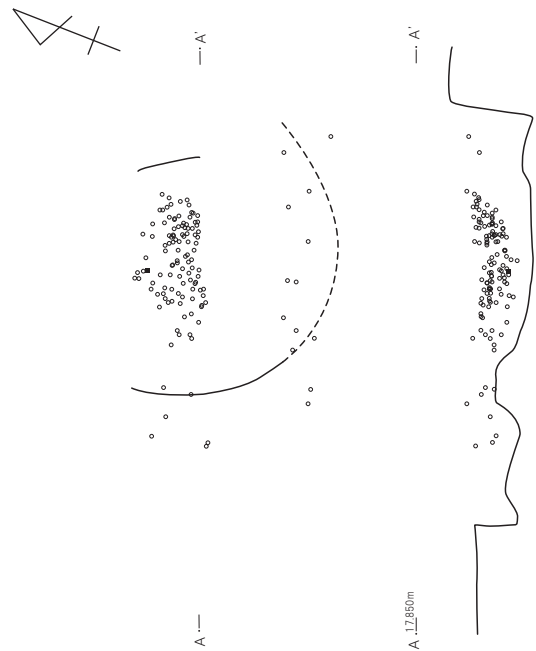
遺物出土状況



集石土坑2



遺物出土状況



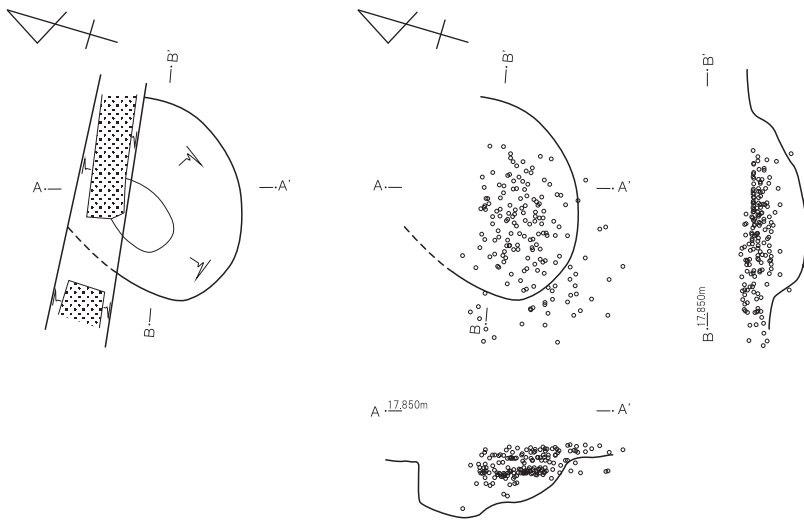
1. 暗褐色土 締り強、粘性有、2～10mm ロームブロック・粒を少量含む
2. 暗褐色土 締り有、粘性有、5～10mm ローム粒多量に含む
3. 黒色土 締り有、粘性有、1～2cm ロームブロック微量に含む
4. 黒色土 締り有、粘性有、ローム主体、黒色土が混ざる
5. 暗褐色土 締り有、粘性有、黒色土がシミ状に混ざる



第10図 北野遺跡第33地点集石土坑1・2 (1/30)

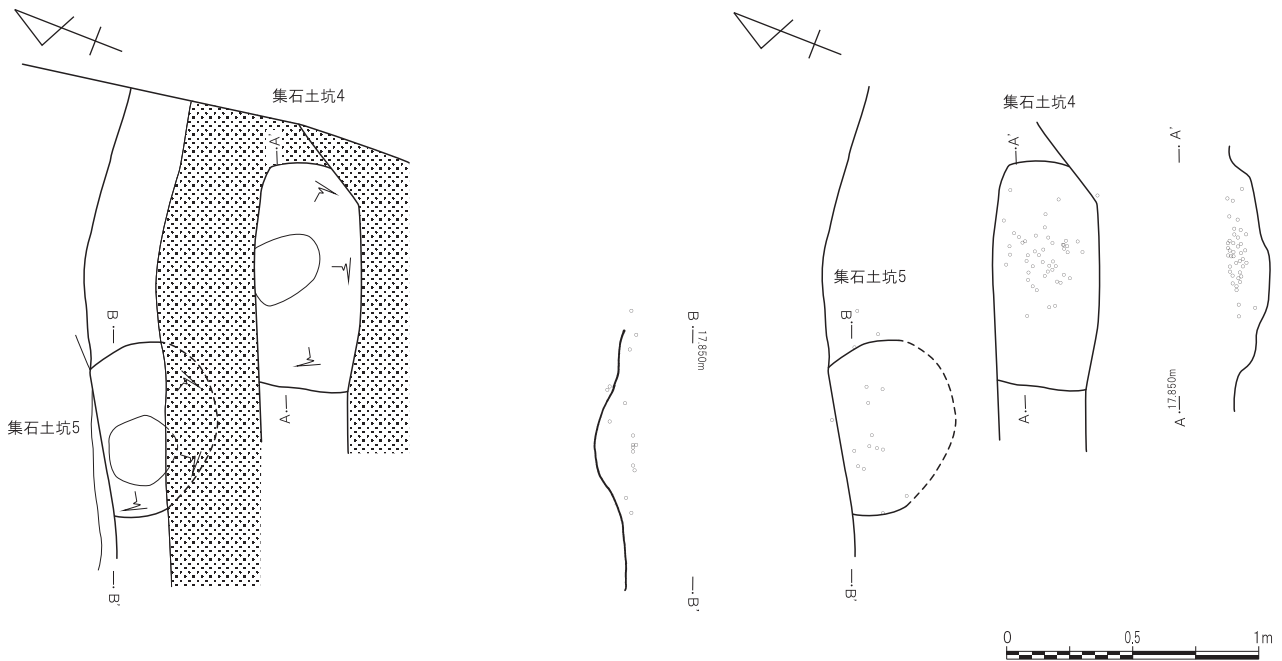
集石土坑3

遺物出土状況

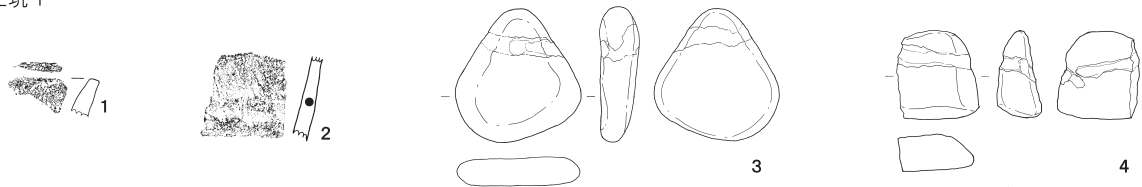


集石土坑4・5

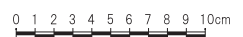
遺物出土状況



集石土坑 1



遺構外



第11図 北野遺跡第33地点集石土坑3～5 (1/30)、出土遺物 (1/4)

第4章 川崎遺跡第44地点の調査

I 遺跡の立地と環境

川崎遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の、いわゆる川崎台に立地している。台地の北側を東流してきた藤間江川は舌状台地の西側で新河岸川に合流し、かつては台地の先端より北東方向へ大きく蛇行していた新河岸川は、現在は台地東縁をなめるように流れる。

台地の幅は400～500m、台地の基部から先端へ1kmにわたり緩やかに傾斜しており、標高は最南部で18m、最北部では8mを測る。遺跡の範囲は南北600m、東西500m以上ある。虫食い状に宅地開発されるが、畑も良く残っている。

周辺の遺跡は、舌状台地の西側基部の急斜面上部に

川崎横穴墓群が隣接し、東側に縄文時代、古墳、奈良・平安時代のハケ遺跡がある。

1917（大正6）年頃、台地の先端部で貝層が確認され1928（昭和3）年の調査では川崎貝塚として報告された。1967年以降宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、1980年以来2016年7月末現在44ヶ所で調査を行っている。主たる時代と遺構は、縄文時代早期の炉穴、早期から前期及び後期の住居跡、古墳時代住居跡、飛鳥時代住居跡、奈良時代住居跡、平安時代住居跡・掘立柱建物跡、中世以降の溝跡、地下式坑である。またローム層中からではないが、旧石器時代の遺物も出土している。



第12図 川崎遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第7表 川崎遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
予備発掘調査	川崎 160	(1974.3.25～4.4)	84	事前調査	炉穴3、土坑2、ビット群、縄文土器、石器	上遺調
1次	川崎 162～176	1974.7.20～9.19	1,800	事前調査	住居跡11(縄文時代前期3、古墳時代前期1、国分7)、溝3、堀2、土坑3、地下式坑6、集石1	川崎遺跡 第1次調査概報
緊急発掘調査	大字川崎字宮後 168-3	1975.3.30～5.10	198	個人住宅	溝3、縄文土器、石器、平安土師器・須恵器・灰釉陶器・布目瓦・瓦塔	上遺調
宅地添1次(A地区)	大字川崎字宅地添 122	1975.6.8～29	50	個人住宅	縄文時代早期住居跡1、縄文土器、石器、礫	上遺調
2次	川崎 137～174	1975.9.4～12.5	3,055	事前調査	縄文時代住居跡9、古墳時代住居跡6、奈良平安時代住居跡10、中世遺構他	川崎遺跡 第2次調査概報
3次	川崎 149-6	1977.11.1～12.3	300	住宅建設	縄文時代住居跡2(7・8)、奈良平安時代住居跡6(1・2・4～6・9)、焼土散布、柱穴、溝	川崎遺跡(第3次)・長宮遺跡
宅地添2次(B地区)	川崎 198	1978.5.15～25	170	宅地造成	土坑3、ビット	埋(Ⅰ)
宅地添3次(C地区)	川崎 230	1978.5.23～31	130	宅地造成	井戸2、地下坑1、溝1	埋(Ⅰ)
4次	川崎 2-5-2	1979.4.19～5.11	304	宅地造成	縄文前期時代住居跡1、溝1、黒浜式土器、貝類	埋(Ⅱ)(Ⅳ)
5次	川崎 1-1-4	1979.9.26～10.10	152	宅地造成	溝状遺構	埋(Ⅱ)
79年度試掘(清見)	清見 4-3-11	(1979.11.12～19)	260	宅地造成	溝1	埋(Ⅱ)
6次	川崎 102-5	1979.12.3～8	30	プレハブ家屋	縄文時代前期住居跡2、平安時代住居跡2、縄文土器片	埋(Ⅱ)
7次	川崎 124-3	1981.11.27～30	316	個人住宅	遺構なし、平安土器片	埋(Ⅳ)
8次	大字川崎字宮脇 148-1	1984.1.17～26	400	住宅建設	溝1	埋(Ⅴ)
宅地添4次	川崎宅地添 219	1984.9.25～10.9	301	住宅建設	縄文時代住居跡1、平安時代住居跡1	埋(Ⅴ)
9次	川崎字宮後口 172-1・2	1986.9.11～20	495	個人住宅	溝2、縄文後・晩期、平安時代土器散布	埋(Ⅵ)
10次	川崎 224-1	1987.11.24～30	603	個人住宅	溝1	埋(Ⅶ)
11次	川崎 2-6-2	1988.5.10～17	289	住宅建設	遺構遺物なし	埋(11)
88試	市道 402号線	(1988.9.19～21)	60	下水道設置	住居跡1	埋(11)
89試(1)	川崎字宅地添 196-1	(1989.4.10～18)	1,045	住宅建設	遺構遺物なし	埋(12)
89試(2)	川崎字宮前 98-2	(1989.10.3～6)	264	住宅建設	遺構遺物なし	埋(12)
12次	川崎字宮前 149-4・5	1990.4.20～27	311	住宅建設	溝2	埋(13)
13次	大字川崎字宮前 122	1990.5.1～17	480	住宅建設	奈良時代住居跡1	埋(13)
90試(1)	大字川崎字宮前 122	(1990.5.18～23)	530	範囲確認	遺構遺物なし	埋(13)
14次	大字川崎字宮前 145	1990.10.1～31	499	住宅建設	縄文時代前期住居跡1、貝塚、平安時代住居跡1	埋(13)
15次	川崎字宮後口 160-1	1991.10.23～11.20	499	個人住宅	平安時代住居跡7、土坑1	埋(14)
92試(1)	大字川崎字山向 9-5	(1993.2.18・19)	168	店舗併用住宅	遺構遺物なし	埋(15)
93試(1)	川崎 2-2-10・11	(1993.8.24)	131	個人住宅	遺構遺物なし	埋(16)
93試(2)	川崎 1-1-1の一部	(1993.9.10～13)	422	個人住宅	遺構遺物なし	埋(16)
94試(1)	川崎字台 258 他1筆	(1994.11.17～24)	230	機材置場敷設	遺構遺物なし	埋(17)
95試(1)	川崎 2-7-2・3	(1995.10.13～16)	1,126	消防署	遺構遺物なし	埋(18)
16次	川崎字宮脇 150-2・3	1995.12.11～1996.3.8	828	駐車場及び資材置場	縄文時代前期(黒浜期)大形住居跡1、同期住居跡2・土坑2、平安時代住居跡4・孤立柱建物跡6、中世竪穴状遺構2	7年教要
17次	川崎字宅地添 204の一部	1996.7.15～23	779	個人住宅	平安時代住居跡1	埋(19)
18次	川崎字宮脇 148-3	1996.11.18～25	198	個人住宅	平安時代住居跡1	埋(19)
97試(1)	川崎字山向 21	(1997.4.14)	367	宅地造成	溝1(時期不明)	埋(20)
97試(2)	川崎字宮後口 165-6	(1997.10.20)	204	個人住宅	遺構遺物なし	埋(20)
97試(3)	川崎字宅地添 199-1・2・5	(1998.2.12～16)	780	個人住宅	遺構遺物なし	9年教要
98試(1)	川崎字宅地添 197-1	(1998.10.27～11.6)	996	宅地造成	縄文時代前期土坑1他	埋(21)
市道 402号線 2次	川崎字宮前、宮脇地内	2000.2.21～25	496	道路	縄文時代前期住居跡1	11年教要
00試(1)	川崎大字宅地添 209の一部	(2000.6.19～22)	123	個人住宅	貝塚の一部	埋(23)
範囲確認調査	川崎字宅地添 209	(2001.6.12～25)	100	車庫	溝1	埋(24)
19次	川崎字宮脇 157の一部	2001.9.18～10.4	289	個人住宅	平安時代初頭住居跡1	埋(24)
01試(1)	川崎字宅地添 204-1	(2001.10.29・30)	825	宅地造成	遺構遺物なし	埋(24)
02試(1)	川崎 249-1の一部	(2002.5.13)	341	倉庫	遺構遺物なし	埋(25)
02試(2)	川崎 210-1、2の一部	(2002.10.28・29)	551	共同住宅	溝1【盛土保存】	埋(25)
02試(3)	川崎 2-4-16	(2002.12.24)	228	個人住宅	遺構遺物なし	14年教要
02試(4)	川崎 2-2-12	(2003.3.13)	165	個人住宅	遺構遺物なし	14年教要
02試(5)	川崎字宮脇 155先	(2003.3.26)	164	市道 401号線	遺構遺物なし	14年教要
03試(1)	川崎 137-1の一部	(2003.8.6・7)	257	個人住宅	遺構遺物なし	埋(26)
03試(2)	川崎字宅地添 226-14	(2003.12.8・19)	381	個人住宅	遺構遺物なし	埋(26)
宅地添地区 5次	川崎字宅地添 222-3先	2004.2.16～18	88		古墳時代初頭竪穴住居跡1【調査実施】	15年教要
04試(1)	川崎字宮脇 157-1の一部	(2004.6.14・15)	421	個人住宅	平安時代住居のカマドの一部	埋(27)
04試(2)	川崎 2-5-1	(2004.11.1～4)	881	宅地造成	遺構遺物なし	埋(27)
20次	川崎字宮脇 153-5	(2005.11.22～27)2005.11.28～12.2	257	個人住宅	古墳時代住居跡1	市内1
21	川崎 1-6-10	(2006.4.11)2006.4.14～20	298	個人住宅	奈良時代住居跡1、溝	市内3
22	川崎 171-1、174-10	(2007.4.16～23)	104	消防分団倉庫	炉穴4、地下式坑2、穴蔵1、土坑2	市内4
24	川崎字宅地添 225-3	(2007.10.4)	319	共同住宅	遺構遺物なし	市内4
25	川崎字宅地添 203-1の一部、203-3の一部	(2008.4.14)2008.4.15～17	1,033	個人住宅	奈良時代孤立柱建物跡1、溝、近代以降の地下室1	市内6
26	川崎字宅地添 230-5	(2008.4.21)2008.4.22～5.17	228	個人住宅	奈良平安時代住居跡4、土坑、ビット、近代以降の井戸1	市内6
27	川崎 1-7-1	(2008.5.15～21)	350	分譲住宅	時期不明の溝1、土坑1	市内6
28	川崎字宅地添 230-7	(2008.7.4～9)2008.7.10～8.8	434	個人住宅	奈良平安時代住居跡2、土坑、ビット	市内6
29	川崎字宅地添 230-1	(2008.7.9～11)2008.7.14～8.22	203	個人住宅	奈良平安時代住居跡2、溝3	市内6
30	川崎字宅地添 230-6	(2008.7.17)2008.7.18～9.5	200	個人住宅	奈良平安時代住居跡4、井戸3、土坑、溝5	市内6
31	川崎字宮後 161-5の一部、161-6	(2009.10.28)2009.10.28～11.27	304	個人住宅	縄文時代中期～後期住居跡2、奈良平安時代住居跡2、ビット12	市内8
32	川崎字宮脇 140の一部	(2011.2.24・25)2011.3.2～25	396	個人住宅	奈良平安時代住居跡3、土坑2、建物部分本調査	市内10
34	川崎 2-5-4	(2011.7.25・26)	118	分譲住宅	遺構遺物なし	市内14
35	川崎 2-6-4～7・9	(2011.9.27～11.24)	1,924	分譲住宅	縄文時代前期(黒浜期)住居跡1、奈良平安時代住居跡1他	市内14
36	川崎字宮前 100-1	(2011.12.15～26)2012.1.10～2012.1.17	1,096	公園整備	奈良平安時代住居跡6他	市内14
37	川崎字宅地添 232-1	(2012.9.3)	1,298	個人住宅	須恵器片、遺構なし	市内15
38	川崎字宮後 165-3	(2013.2.25)2013.2.26・27	176	個人住宅	縄文焼土跡2・中世以降ビット5	市内15
39	川崎字宅地添 227-1	2013.3.4・5	1,121	個人住宅	遺構なし、縄文土器、土師器、須恵器、焙烙	市内15
40	川崎 1-1-7	(2013.10.11～17)	447	共同住宅	遺構なし、陶器	市内18
41	川崎字山向 10-4の一部	(2014.9.8)	120	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
42	川崎宅地添 233-3	(2015.6.26～7.2)	200	川崎集会所	平安時代住居跡1、須恵器、土師器	未報告
43	川崎字宮後 165-5・8・9	(2015.6.26)	175	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
44	川崎字宅地添 202-1・8	(2015.11.24～12.10)2016.1.5～20	274	分譲住宅	縄文時代住居跡2、奈良平安時代住居跡1、貝塚1、地下式坑1、土坑3、ビット7、溝1、縄文土器、石器、石製品、土師器、須恵器	市内19

※埋：上福岡市教育委員会埋蔵文化財の調査報告書、上遺調：上福岡市遺跡調査会報告書、教要：上福岡市教育要覧、市内：ふじみ野市内遺跡群報告書



第 13 図 川崎遺跡の遺構分布図 (1/2,500)

II 本調査に至る経過と調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2015年10月26日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内の北部に位置するため、原因者と協議の結果、遺構の存在を確認するため試掘調査を行った。

試掘調査は11月24日～12月10日まで行い、幅約1.5mのトレンチ4本を設定し、重機による表土除去後、人力による調査を行ったところ、縄文時代の住居跡、古代の住居跡、地下式坑等を確認した。地表面から遺構確認面までの深さは約40cmで遺跡への影響が避けられないため、原因者と再協議の結果、遺跡に影響が生じる範囲において原因者負担による本調査を実施した。他の部分については盛土を行うため、30cm以上の保護層が確保できることから工事立会いの措置とした。

本調査は2016年1月5日～1月20日まで行い、試掘調査及び本調査で縄文時代前期の住居跡2軒、古代の住居跡1軒、地下式坑1基、中近世の貝塚1基、土坑3基、ピット7基、溝1条を検出し、縄文土器、須恵器等が出土した。旧石器時代の確認調査は行っていない。なお、埋戻しに係る重機とオペレーターについては土地所有者である千代田ホーム株式会社の提供と協力を得た。

III 遺構と遺物

縄文時代の住居跡は2軒検出した。各住居跡については以下のとおりである。

① J24号住居跡

【位置・時期】 本住居跡は調査区北側中央に位置し、H80号住居跡と重複する。北側は調査区外のため未検出である。また、一部保存措置となったため、住居跡の大部分が遺物の取り上げとプランの確認で終了した。出土遺物から縄文時代前期の黒浜期であると考えられる。

【形状・規模】 遺構確認面で既に床面近くまで削平されていたため、明確に平面プランが確認できなかった。本調査の対象となった部分が住居跡の南東部の僅かな範囲のみであったので、全容は不明であるが、本調査実施部分で住居の周溝と考えられる溝を確認した。試掘調査で確認した平面プランと合わせると、円形から方形に近い住居であった可能性が考えられる。また、遺物出土状況を踏まえると、住居の拡張が行われた可能性もある。柱穴と考えられるピット群や遺構確認面において焼土を含む部分もあるが、いずれも未調査である。

【遺物出土状況】 今回確認ができた範囲の中央部分に、床上5～10cmの高さで多数の遺物が集中する。ほとんどの遺物が破片である。

第8表 川崎遺跡縄文時代住居跡一覧表（単位 cm）

住居番号	調査年度	調査名	調査率	平面形 ()は推定	規模	炉			埋裏	拡張	周溝	主軸方位	時期	備考	文献
						地床	炉体	石囲							
	1974	第1次LN3	2/3	方形	420×380							N-16° -E	縄文前期		第1次調査概報
		第1次LN19	2/3	長方形	-×550					4	○	N-42° -E	"		"
		第1次LN20	2/3	長方形	560×420							N-59° -E	"		"
		第2次LN8	1/2	隅丸長方形	-×570	○						N-88° -E	縄文前期(関山期)		第2次調査概報
		第2次LN34		不整形	520×480								縄文前期(黒浜期?)	LN6・35と複合	"
		第2次LN25	大部分	長方形	-×450							N-68° -W	縄文前期(関山期)	LN21と複合	"
		第2次LN50	1/2以上	長方形	620×460	○						N-35° -W	縄文前期(関山期)		"
		第2次LN70	1/2	隅丸長方形	-×330								縄文前期(黒浜期)		"
		第2次LN73		隅丸長方形	350×260	○						N-6° -W	縄文前期(花積下層期?)	LN73・77・74・76の順で構築	"
		第2次LN74		隅丸方形	820×810	○							縄文前期		"
		第2次LN76		不整形	390×290	○						N-10° -E	縄文前期		"
		第2次LN77		隅丸長方形	?	○							縄文前期		"
	1977	第3次J7		不明									縄文前期(花積下層期)		第3次発掘調査報告書
		第3次J8											縄文前期(花積下層期)		"
	1979	第4次1号住居	完掘	隅丸長方形	645×505								縄文前期(黒浜期)		埋蔵文化財の調査(II)(IV)
		第6次1A													埋蔵文化財の調査(II)
		第6次1B													埋蔵文化財の調査(II)
		第6次1C													埋蔵文化財の調査(II)
	1983	宅地添2号住居	完掘	柄鏡形	円径3m～4m								加曽利		埋蔵文化財の調査(VII)
	1990	第14次1号住居	完掘										縄文前期(関山期)	貝塚	埋蔵文化財の調査(13)
	1995	第16次7号住居											炉跡のみ	縄文前期(黒浜期)	埋文(18)、説明会資料「私たちの埋蔵文化財」
		第16次3号住居											炉跡のみ	縄文前期(黒浜期)	"
		第16次4号住居	完掘	長方形	1200×800								縄文前期(黒浜期)	大形住居	"
21	2009	第31地点J21号住居	75%	柄鏡形	(500)×420				2				称名寺I		市内遺跡群8
22		第31地点J22号住居	25%					○					加曽利EIV		市内遺跡群8
23	2011	第35地点J23号住居	未検出	台形か長方形	520×-								縄文前期(黒浜期)		市内遺跡群14
24	2015	第44地点J24号住居	一部分	円形か方形		○				○			縄文前期(黒浜期)	H80号住居跡と重複	市内遺跡群19
25	2015	第44地点J25号住居	一部分	円形か隅丸方形	(330×300)								縄文前期(黒浜期)	地下式坑と重複	市内遺跡群19

第9表 川崎遺跡古代住居跡一覧表(単位 cm)

住居番号	調査年度	調査名	調査率	平面形()は推定	規模	炉		カマド	周溝	主軸方位	時期	備考	文献
						カマドK	設置壁						
1	1974	第1次LN72	完掘	隅丸方形	760×730×40	炉	地床炉	60×50	○	N-60-E	3世紀終末	市指定文化財	川崎遺跡第1次概報
2	1974	第1次LN05	完掘	方形	390×320×	K			○	N-5-E	国分		〃
3	1974	第1次LN06	完掘	歪んだ方形	320×320×	K	東			N-13-W	9C 4半期		〃
4	1974	第1次LN07	完掘	方形	320×320×	K	東	80×90	○	N-83-W	9C 中葉		〃
5	1974	第1次LN24	完掘	長方形	470×340×50	K	北	120×75	○	N-5-E	10C 1半期		〃
6	1974	第1次LN25	完掘	方形	320×300×	K	北	40×40		N-42-E	9C 1半期		〃
7	1974	第1次LN28	西側未掘	(長方形)	×300	K	東	50×60	○	N-69-W	9C 3半期		〃
8	1974	第1次LN71	東側7割未掘	(方形)	×600								〃
9	1975	第2次LN75	部分	(長方形)									川崎遺跡第2次概報
10	1975	第2次LN92	部分	(長方形)							10C 1半期		〃
11	1975	第2次LN72	完掘	隅丸方形	250×250×13	K	南	50×80		N-18-E	国分		〃
12	1975	第2次LN07	完掘	方形	720×720	K	北		○	N-32-E	6C後半	ビット多数 土すい	〃
13	1975	第2次LN04	完掘	方形	390×350	K	東	60×70	○	N-64-E	6C前半	貯蔵穴有り	〃
14	1975	第2次LN05	完掘	長方形	450×370	K	北	100×80	○	N-1-E	10C 2半期		〃
15	1975	第2次LN19	14住に切られる			K	東				9C 4半期	支脚がたつまま	〃
16	1975	第2次LN14	完掘	長方形	370×260	K	北	90×80	○	N-4-E	9C 3半期		〃
17	1975	第2次LN12	南側未掘	長方形	700×						6C	紡錘車	〃
18	1975	第2次LN33	17住と大きく重複し	全体不明									〃
19	1975	第2次LN06	完掘	隅丸方形	410×420	K	北東		○	N-45-E	6C後半	良好	〃
20	1975	第2次LN22	完掘	長方形	410×330	K	北	120×120	○	N-29-W			〃
21	1975	第2次LN53	完掘	長方形	350×280	K	東	70×60	○	N-87-E	10C 2半期	22住を切る	〃
22	1975	第2次LN54	部分	方形	330×320	炉	地床炉				五領		〃
23	1975	第2次LN20	3/5	(長方形)	×350	K	北		○	N-23-E	9C 2半期	鍛冶工房跡	〃
24	1975	第2次LN21	ほぼ完掘	正方形	580	K	北西	50×70	○	N-43-W	鬼高		〃
25	1977	第3次1号住居	南東隅のみ	(長方形)		K	東	途中で廃絶されたもの	○				川崎遺跡第3次
26	1977	第3次2号住居	完掘	長方形	350×330	K	北	×70	○		国分	鉄製品多い	〃
27	1977	第3次4号住居	(完掘)	長方形	350×400	K	東	170×110	○		国分		〃と埋文調査19
28	1977	第3次5号住居	(完掘)	長方形	350×320	K	東	120×90	○		国分		〃と埋文調査19
29	1977	第3次6号住居	4/5	正方形	440×	K	北	155×90	○		9C 4半期	焼失家屋	〃
30	1977	第3次9号住居	1/2	(方形)	415×				○		国分		〃
31	1979	第6次1B住居			340×				○		9C 2半期		埋蔵文化財の調査II
32	1979	第6次2号住居	1/3		440×	K	北→東	140×80	○		9C 1半期	鉄製品多い	〃
33	1984	宅地添第4次3住	完掘	正方形	340×340	K	東	120×100	○		8C 3半期		埋蔵文化財の調査VII
34	1990	第13次1号住居	1/2～1/3		390×	K			○		7C後半		埋蔵文化財の調査13
35	1990	第14次2号住居	南1/2		340×	K	東		○		9C 1半期		〃
36	1991	第15次1号住居			395×285	K	北東				9C～10C		埋蔵文化財の調査14
37	1991	第15次2号住居		正方形	380×380	K	東				9C中葉		〃
38	1991	第15次3号住居	完掘	長方形	265×430	K	南東		○		9C初頭		〃
39	1991	第15次4号住居	1/2	正方形	580×	K	東		○		8C末～9C初頭		〃
40	1991	第15次5号住居	3/4		280×	K	北		○		9C前半～中		〃
41	1991	第15次6号住居		正方形	425×270	K	北		○		8C後半	35.36住と重複	〃
42	1991	第15次7号住居	1/2	正方形	570×	K	北		○		9C前半	緑釉陶器、焼失家屋	〃
43	1994	第16次1号住居	1/2		450×				○		9C前半～後半		未報告
44	1994	第16次2号住居	北西隅のみ								9C前半～後半		〃
45	1994	第16次5号住居	2/3		440×	K	東		○		9C前半～後半		〃
46	1994	第16次6号住居	カマドのみ			K	東						〃
	1994	第16次1号掘立	2/3	長方形									〃
	1994	第16次2号掘立	西側柱のみ	長方形							9C前半～後半	42住と隣接	〃
	1994	第16次3号掘立	完掘	長方形	南北3間 東西2間								〃
	1994	第16次4号掘立	完掘	長方形	南北3間 東西2間								〃
	1994	第16次5号掘立	1/2	長方形	南北2間								〃
	1994	第16次6号掘立	完掘	長方形	南北3間 東西2間								〃
47	1996	第17次1号住居	完掘	長方形	400×400	K	東		○		国分	墨書土器	埋蔵文化財の調査19
48	1996	第18次2号住居	完掘	長方形	300×300	K	東		○		国分		埋蔵文化財の調査19
49	2001	第19次1号住居	1/2		360×	K					9C前半		埋蔵文化財の調査24
50	2005	第20次1号住居	完掘	長方形	320×350	K	北西		○	N-45-W	7C前半～中		市内遺跡群1
51	2006	第21次1号住居	完掘	方形	410×365×10	K	東	145×125	○	N-106-E	9C後半		市内遺跡群3 市内遺跡群6
	2008	第25地点1号掘立		長方形	南北2間 東西2間								〃
52	2008	第26地点H28号住居	完掘	方形	349×316×33	K	北	95×83	○	N-16-E	9C後半		〃
53	2008	第26地点H29号住居	北側のみ	(方形)	431×205×24	K	北	70×	○	N-16-E	9C後半		〃
54	2008	第26地点H30号住居	完掘	長方形	424×296×20	K	北	98×71	○	N-4-E	8C後半		〃
55	2008	第28地点H31a号住居	北側のみ	(方形)	(390)×(233)×15	K	北	88×84		N-19-E	8C中～後半		〃
56	2008	第28地点H31b号住居	北側のみ	(方形)	(404)×325×2				○	N-18-E			〃
57	2008	第28地点H32号住居	完掘	長方形	357×295×24	K	東	108×80	○	N-105-E	8C中～後半		〃
58	2008	第29地点H33号住居	北東のみ	(方形)	(214)×(205)×16	K	東	(65)×(65)	○	N-98-E	8C後半～9C初頭		〃
59	2008	第29地点H34号住居	完掘	方形	(378)×372×12	K	北	71×90	○	N-16-E	9C後半	墨書土器	〃
60	2008	第30地点H35号住居	完掘	長方形	294×232×26	K	東	141×88	○	N-104-E	9C前半		〃
61	2008	第30地点H37号住居	完掘	方形	415×414×21	K	北	88×140	○	N-16-E	9C後半	灰釉陶器	〃
62	2008	第30地点H38号住居	1/2	(方形)	375×(105)×17				○	N-5-E	9C後半	墨書土器	〃
63	2009	第31地点		長方形	310×276×29	K		105×90	○	N-7-E	9C		市内遺跡群8
64	2009	第31地点		長方形	215×265×15	K		82×40	無	N-88-E	9C		〃
65	2011	第32地点H65号住居	完掘	長方形	355×460×35	K	北東	113×132	○	N-27-E	10C		市内遺跡群10
66	2011	第32地点H66号住居	ほぼ完掘	方形	420×365×50	K	東	49×105	○	N-99-E	8C後半～9C初頭		〃
67	2011	第32地点H67号住居	1/2	方形	(220)×330×30	未	未	未	○	N-0-E	10C		〃
72	2011	第35地点H72号住居	プランのみ	隅丸長方形	(370×470)×50	未	未	未			不明	未掘	市内遺跡群14
73	2012	第36地点H73号住居	2/3	隅丸方形	320×(177)×60	K	北	77×40	○	E-7-S	9C後半		〃
74	2012	第36地点H74号住居	プランのみ	(長方形)	(90×350)	未	未	未			不明	未掘	〃
75	2012	第36地点H75号住居	プランのみ	(長方形)	(440×450)	未	未	未			不明	未掘	〃
76	2012	第36地点H76号住居	プランのみ	(長方形)	(130×460)	未	未	未			不明	未掘	〃
77	2012	第36地点H77号住居	プランのみ	(長方形)	340×(260)	未	未	未			不明	未掘	〃
78	2012	第36地点H78号住居	プランのみ	(長方形)	(390)×420	未	未	未			不明	未掘	〃
79	2015	第42地点H79号住居											未報告
80	2015	第44地点H80号住居	1/2～1/3	(長方形)	330×140以上				○		9C代		市内遺跡群19

② J25 号住居跡

【位置・時期】本住居跡は調査区北西に位置し、地下式坑と重複する。地下式坑に大部分が削平されており、また北側は調査区外のため未検出である。時期は黒浜式土器を主体とする縄文時代前期に帰属する。

【形状・規模】平面形態は円形または隅丸方形を呈すると見られるが全容は不明である。残存規模は長軸330cm以上、短軸300cm以上、深さ約10cmである。炉、柱穴は未検出。幅10～35cm、深さ18～36cmの周溝を伴う。

【ピット】周溝内よりピットを確認した。明確にピット状になるものは4基である。詳細は第10表ピット一覧表のとおりである。

【遺物出土状況】今回検出した住居の範囲内では、床面に近い高さから多量の遺物がまとまって出土した。

③ H80 号住居跡

【位置・時期】本住居跡は調査区の北東隅に位置する。大部分は調査区外のため未検出である。帰属時期は出土遺物から9世紀代と考えられる。

【形状・規模・掘方】平面形態は正方形か長方形を呈するとみられるが全容は不明である。規模は長軸約330cm、短軸約140cm以上、深さ約10cmである。遺構確認時点で既に床面まで削平されていたと考えられ、貼床は確認できなかった。周溝は上幅17～55cm、下幅6～25cm、深さ13.8cm。竈、柱穴は未検出である。

【遺物出土状況】須恵器の坏を含め、極僅かに出土した。

第10表 川崎遺跡第44地点J25号住居跡ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	楕円形	32 × 16	7 × 4	33.2	
2	楕円形	50 × 25	16 × 15	32.3	
3	方形	27 × 22	20 × 8	27.1	
4	楕円形	40 × 28	32 × 17	20.4	

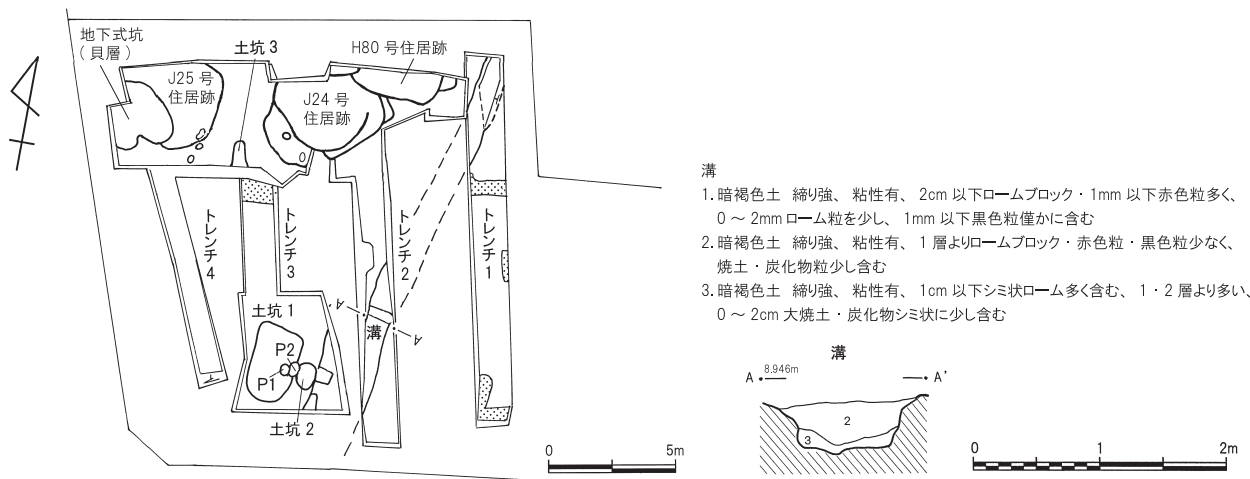
④地下式坑

調査区の北西隅に位置し、方形の入口を南東部に持つ。室部の大部分は調査区外のため未調査。そのため室部の平面形及び室部規模は不明。入口部の底部は室部の底部より約60cm高い。入口部、室部ともに底部は平坦である。規模は室部幅209cm × 奥行145cm、深さ約165cm、入口部幅144cm × 奥行105cm、深さ約105cmを測る。時期を特定し得るような出土遺物はない。

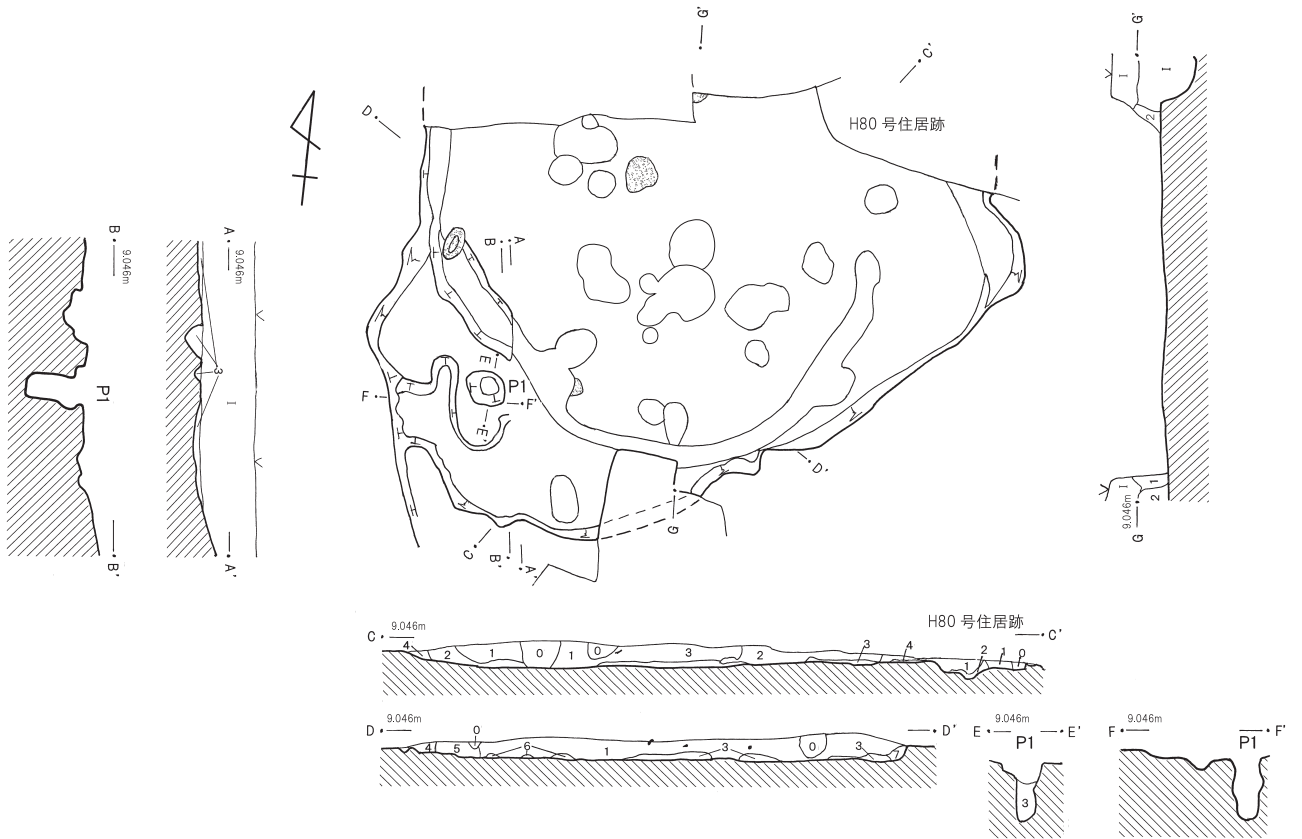
⑤貝層

地下式坑覆土中より出土した。室部の底部より約100cm上にあり、遺構断面を見る限り、地下式坑天井崩落より新しいものであると考えられる。地下式坑の埋没過程で廃棄が開始されたものと想定される。貝層の最大範囲は南北52cm、東西86cm、東から西に向かって傾斜する。深さは貝層の確認面から約50cmである。貝類の組成などについては年代測定などの結果と合わせて報告を行うこととし、本書では概要を述べるに留める。

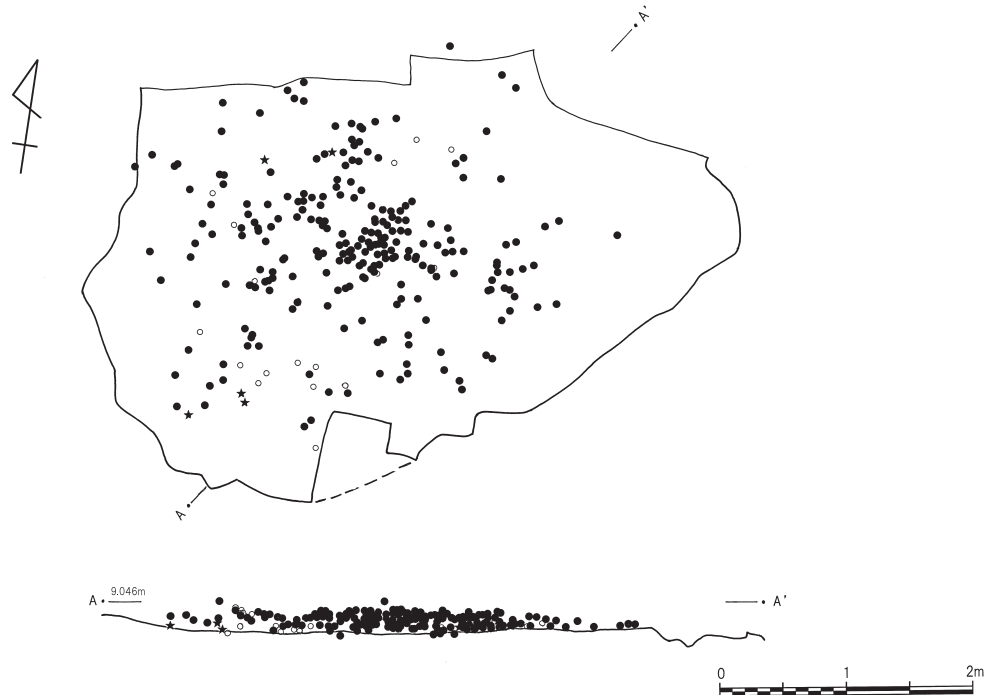
貝種の傾向としてはイシガイが主体であり、その中にオオタニシとカワニナが含まれる。カワニナに比べ、オオタニシは比較的集中して確認された。



第14図 川崎遺跡第44地点遺構配置図(1/300)、溝土層(1/60)



遺物出土状況



I. 表土

0. 攪乱

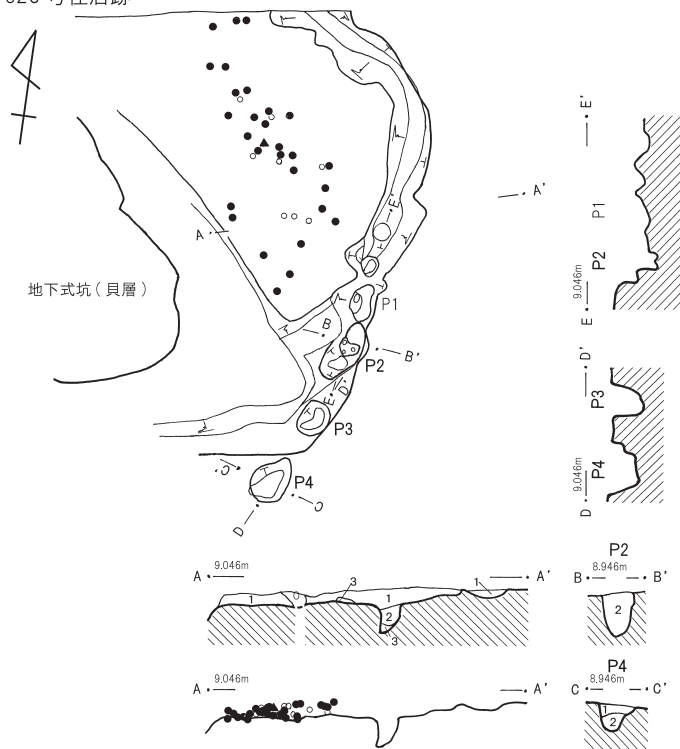
1. 暗褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ロームブロック少し、1mm以下ローム粒多く、焼土・炭化物僅かに含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒少し、焼土・炭化物僅かに含む
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム粒・焼土・炭化物少し含む、粘土質
4. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ロームブロック・2mm以下ローム粒少し含む
5. 暗褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ロームブロック少し、1mm以下ローム粒・焼土粒多く、炭化物僅かに含む
6. 暗褐色土 締り強、粘性有、ロームブロック・粒非常に多い
7. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ロームブロック少し含む

第15図 川崎遺跡第44地点J24号住居跡・遺物出土状況 (1/60)

第11表 川崎遺跡第44地点地下式坑貝層一覧表(単位cm)

層位(面)	主体となる貝	その他の貝	備考
2	イシガイ①	カワナナ①、オオタニシを含む	
4	イシガイ②	カワナナ②・オオタニシ①を含む	
5	イシガイ③	カワナナ③、オオタニシを含む	
7	イシガイ④	カワナナ④・オオタニシ②を含む	
9	イシガイ⑤	カワナナ⑤・オオタニシ③を含む	
11	イシガイ⑥		
12	オオタニシ④	カワナナ⑥、オオタニシを含む	
土層	-	-	断面図7層
14	イシガイ⑦		
16	オオタニシ⑤	カワナナ⑦を含む	
17	イシガイ⑧		
土層	-	-	断面図11層
19	イシガイ⑨	カワナナ⑧を含む	
21	イシガイ⑩	オオタニシ⑥を含む	
23	イシガイ⑪	カワナナ⑨を含む	
24	イシガイ⑫		

J25号住居跡



⑥土坑1～3

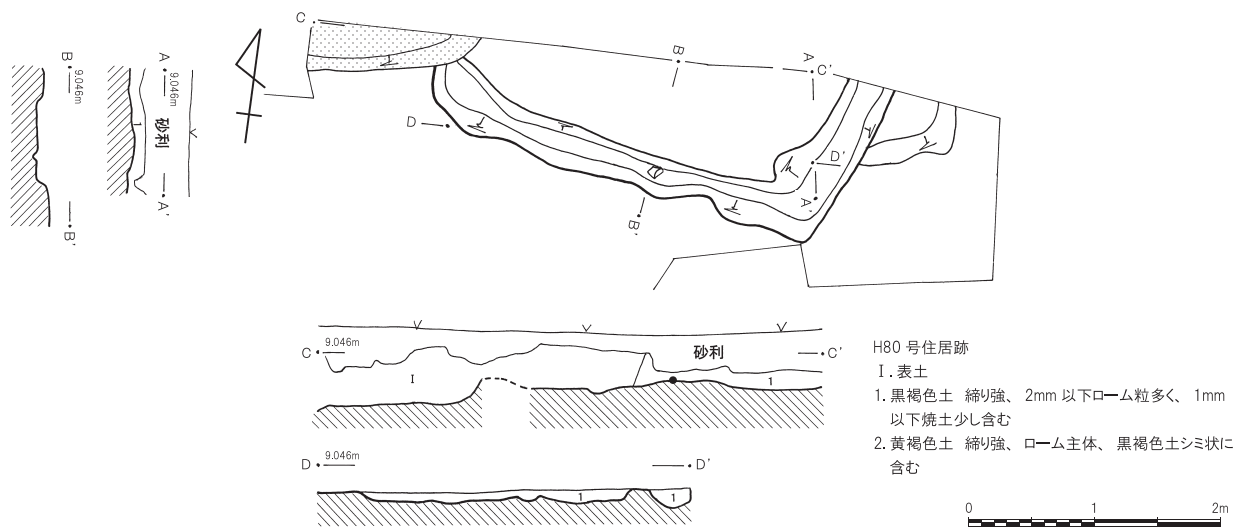
土坑1・2は調査区北側に位置し、溝とピット1・2と切り合う。土坑3は調査区北側J24号住居とJ25号住居の間に位置する。土坑1は土坑2・ピット1・2と切り合い、最も新しい。土坑2はピット2・溝と切り合い、最も古い遺構である。土層観察から土坑1・3は中近世以降で比較的新しく、土坑2は縄文時代とみられる。いずれも出土遺物はない。

【土坑1】平面形態は隅丸長方形を呈する。遺構の規模は、確認面径290cm×180cm、底径260cm×150cm、深さ20.5cmである。

【土坑2】平面形態は円形を呈する。確認面径95cm×80cm、底径75cm×70cm、深さ23.7cmである。

【土坑3】南側が調査区外のため正確な平面形態は不明である。確認できた範囲で、確認面径103cm以上×50cm、底径97cm以上×24cm、深さ19.7cmである。

H80号住居跡



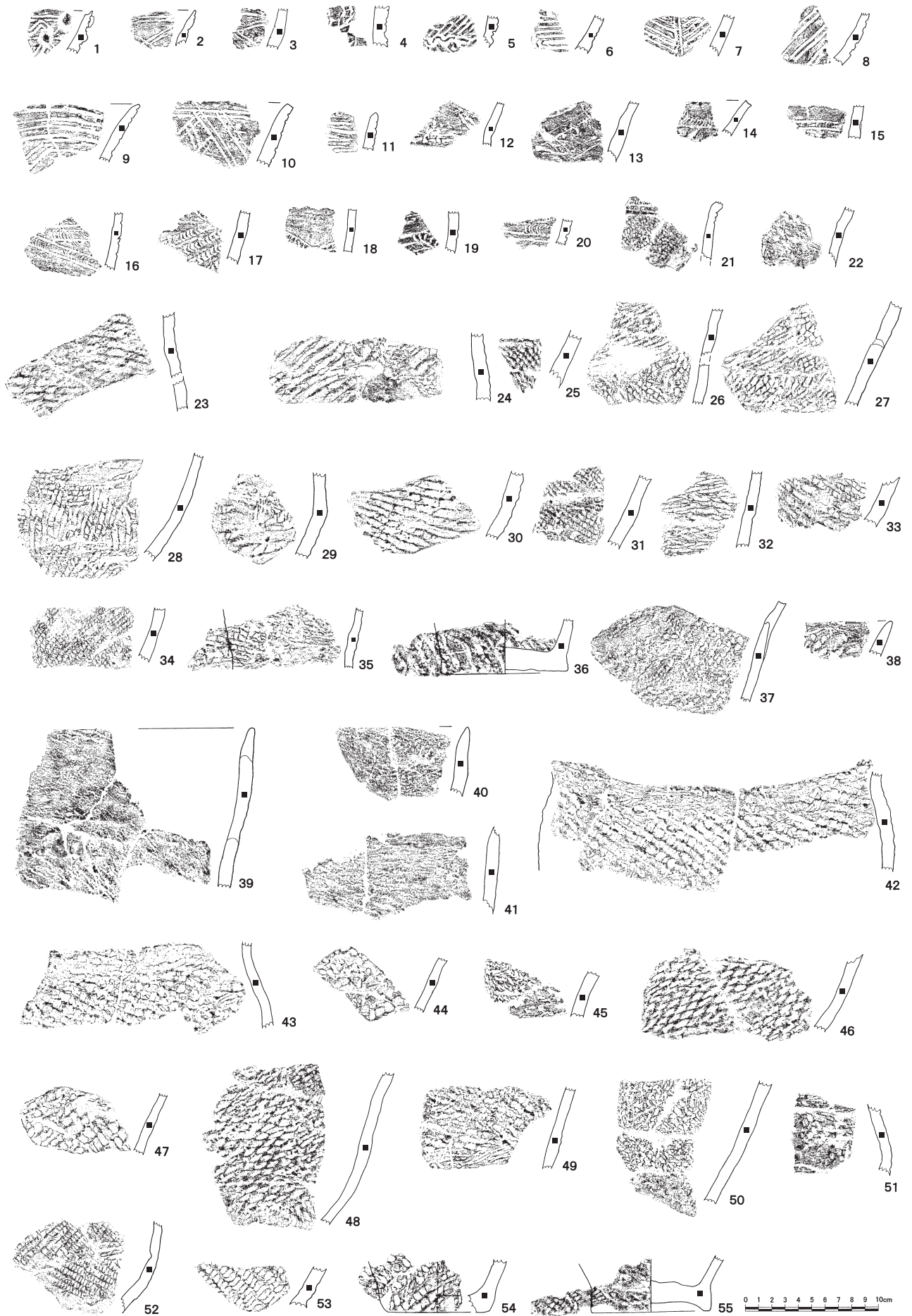
第16図 川崎遺跡第44地点J25号住居跡・H80号住居跡(1/60)

第12表 川崎遺跡第44地点 J24号住居跡出土遺物観察表(単位 cm)

図版番号	分類	器形	部位	文様/胎土/備考/注記 No.	時期	備考
1	I	深鉢	口縁部	貼付文、平行沈線、鋸歯状/細粒砂少/No.101	関山1	
2	I	深鉢	波状口縁部	平行沈線、鋸歯状/細粒砂・極粗粒砂微/No.83	関山1	
3	I	深鉢	口縁部	平行沈線、鋸歯状/中粒砂微/A区2	関山1	
4	I	深鉢	口縁部	平行沈線、梯子状/中粒砂微/No.62	関山1	
5	I	深鉢	口縁部	コンパス文、平行沈線、内面ミガキ強/中粒砂少/No.5~7は同一個体か/No.212	関山1	
6	I	深鉢	口縁部	平行沈線、内面ミガキ強/中粒砂少/No.5~7は同一個体か/D区1	関山1	
7	I	深鉢	口縁部	平行沈線、内面ミガキ強/中粒砂少/No.5~7は同一個体か/No.144	関山1	
8	I	深鉢	口縁部	平行沈線、内面ミガキ強/中粒砂少/No.22	関山1	
9	I	深鉢	波状口縁部	平行沈線、鋸歯状/中粒砂中/有尾系/No.81、182	黒浜	
10	I	深鉢	口縁部	平行沈線、鋸歯状/中粒砂多/有尾系/No.121	黒浜	
11	I	深鉢	口縁部	平行沈線/中粒砂少/有尾系/A区4	黒浜	
12	I	深鉢	波状口縁部	半竹押し、鋸歯状/中粒砂・粗粒砂少/有尾系/No.254	黒浜	
13	I	深鉢	口縁部	平行沈線、鋸歯状/中粒砂・粗粒砂中/有尾系/No.39	黒浜	
14	I	深鉢	口縁部	爪形文、LR/中粒砂・極粗粒砂微/B区1	黒浜	
15	I	深鉢	口縁部	爪形文/中粒砂中、粗粒砂微/有尾系/No.209	黒浜	
16	I	深鉢	口縁部	爪形文、内面赤彩か/中粒砂・粗粒砂中/有尾系/No.146	黒浜	
17	I	深鉢	口縁部	爪形文/細粒砂・中粒砂少/有尾系/No.70	黒浜	
18	I	深鉢	口縁部	爪形文/中粒砂中/有尾系/No.161	黒浜	
19	I	深鉢	口縁部	爪形文/細粒砂・中粒砂少/有尾系/D区5	黒浜	
20	I	深鉢	口縁部	爪形文/中粒砂中、粗粒砂少/有尾系/A区1	黒浜	
21	I	深鉢	胴部	爪形文、LR/中粒砂・粗粒砂多、角閃石/有尾系/No.25	黒浜	
22	II-1	深鉢	頸部	RI/中粒砂少/No.181	黒浜	
23	II-1	深鉢	胴部上位	RI/中粒砂・粗粒砂中/No.87	黒浜	
24	II-1	深鉢	胴部上位	Lr/中粒砂少/No.18、27	黒浜	
25	II-1	深鉢	胴部	RI/中粒砂少/No.69	黒浜	
26	II-1	深鉢	胴部	Lr・RI/中粒砂少/No.163	黒浜	
27	II-1	深鉢	胴部	Lr、末端結節/中粒砂少/No.12、30	黒浜	
28	II-1	深鉢	胴部	RI・Lr/中粒砂少/No.170	黒浜	
29	II-1	深鉢	胴部	Lr/中粒砂少/No.152	黒浜	
30	II-1	深鉢	胴部	RI/中粒砂・粗粒砂少/No.238	黒浜	
31	II-1	深鉢	胴部	RI/中粒砂少/No.65	黒浜	
32	II-1	深鉢	胴部	RI/中粒砂少/No.72、73	黒浜	
33	II-1	深鉢	胴部	RI/中粒砂少/No.59	黒浜	
34	II-1	深鉢	胴部	Lr/中粒砂多、粗粒砂少/No.58	黒浜	
35	II-1	深鉢	胴部下位	RI/中粒砂・粗粒砂微/No.130、249	黒浜	
36	II-1	深鉢	底部	RI多条?/中粒砂・極粗粒砂少/No.10	黒浜	
37	II-2	深鉢	口縁部	LR/中粒砂~極粗粒砂少/No.117	黒浜	
38	II-2	深鉢	口縁部	LR/細粒砂少、赤色粒/No.153	黒浜	
39	II-2	深鉢	口縁部	RL/細粒砂極微/No.39~41は同一個体か/No.46、63	黒浜	
40	II-2	深鉢	口縁部	RL/細粒砂極微/No.39~41は同一個体か/No.142	黒浜	
41	II-2	深鉢	口縁部	RL/細粒砂極微/No.39~41は同一個体か/No.180、222	黒浜	
42	II-2	深鉢	頸~胴部	RL/中粒砂少/No.42~43は同一個体か/No.107、B区1	黒浜	
43	II-2	深鉢	頸~胴部	RL、末端結節/中粒砂少/No.42~43は同一個体か/No.172、84、85	黒浜	
44	II-2	深鉢	頸部	LR/中粒砂少/No.43	黒浜	
45	II-2	深鉢	頸部	LR/細粒砂、中粒砂少/No.43	黒浜	
46	II-2	深鉢	頸部	RL?/中粒砂微/No.183	黒浜	
47	II-2	深鉢	胴部	LR/中粒砂・粗粒砂中/No.47~48は同一個体か/No.117	黒浜	
48	II-2	深鉢	胴部	LR/中粒砂・粗粒砂中/No.47~48は同一個体か/No.221	黒浜	
49	II-2	深鉢	胴部	RL、末端結節/中粒砂少/No.79	黒浜	
50	II-2	深鉢	胴部	RL・LR/中粒砂微/B区1	黒浜	
51	II-2	深鉢	胴部	LR/中粒砂少/No.4	黒浜	
52	II-2	深鉢	胴部	LR・RL/細粒砂中、極粗粒砂微/No.147	関山?	
53	II-2	深鉢	胴部下位	RL(0段多条か)/細粒砂・中粒砂少/No.61	黒浜	
54	II-2	深鉢	底部	LR/中粒砂少、粗粒砂微/No.89	黒浜	
55	II-2	深鉢	底部	RL/中粒砂少/No.97	黒浜	
56	II-3	深鉢	胴部	L(r+RI)/中粒砂少、極粗粒砂微、赤色粒/No.186	黒浜	
57	II-4	深鉢	口縁部	Lr+r(逆)/中粒砂少/No.31、206	黒浜	
58	II-4	深鉢	口縁部	Lr+r(逆)/中粒砂少/No.33	黒浜	
59	II-4	深鉢	胴部	Lr+r(逆)/中粒砂中/No.127	黒浜	
60	II-4	深鉢	波状口縁部	Lr+Lr2本(逆)・RI+RI2本(逆)/中粒砂多/No.67と同一個体か/No.82、178、224、A区3	黒浜	
61	II-4	深鉢	波状口縁部	Lr+Lr2本(逆)・RI+RI2本(逆)/中粒砂少、極粗粒砂微/No.61~63は同一個体か/No.16、2・3トレ	黒浜	
62	II-4	深鉢	波状口縁部	Lr+Lr2本(逆)・RI+RI2本(逆)/中粒砂少、極粗粒砂微/No.61~63は同一個体か/No.175、3トレ	黒浜	
63	II-4	深鉢	波状口縁部	Lr+Lr2本(逆)・RI+RI2本(逆)/中粒砂少、極粗粒砂微/No.61~63は同一個体か/No.17	黒浜	
64	II-4	深鉢	頸部	RI+RI2本(逆)/中粒砂・粗粒砂少/No.6	黒浜	
65	II-4	深鉢	胴部上位	RI+RI2本(逆)・RL/中粒砂少/No.116	黒浜	
66	II-4	深鉢	胴部上位	RI+RI2本(逆)/中粒砂・粗粒砂少/No.23	黒浜	
67	II-4	深鉢	胴部上位	Lr+Lr2本(逆)・RI+RI2本(逆)/中粒砂多/No.60と同一個体か/No.224	黒浜	
68	II-4	深鉢	胴部	Lr+Lr3本(逆)/中粒砂少/No.239	黒浜	
69	II-4	深鉢	口縁部	?+Lr2本(順・逆)/中粒砂少/No.234	黒浜	
70	IV-1a	深鉢	口縁部	貝殻背圧痕/細粒砂・中粒砂中/No.90、91	黒浜	
71	IV-1a	深鉢	口縁部	貝殻背圧痕/細粒砂・中粒砂中/No.191	黒浜	
72	IV-1a	深鉢	胴部	貝殻背圧痕/細粒砂・中粒砂中/No.162、230	黒浜	

第13表 川崎遺跡第44地点 J25号住居跡・地下式坑・H80号住居跡・遺構外出土遺物観察表(単位 cm)

図版番号	出土地点	分類	器形	部位	文様/胎土/備考/注記 No.	時期
1	25号住居跡	II-1	深鉢	波状口縁~底部	RI・Lr 羽状菱形(4単位×5帯)、4単位波状口縁、追加成形技法、外面に粘土の皺寄せや輪積み痕が残る/中粒砂少、小礫微、赤色粒/最大径:(34.2cm)・器高:(28.8cm)・底部径:13.1cm /No.9、10、11、15、17、19、20、21、22、32、33、H2	黒浜
2		II-1	深鉢	波状口縁~底部	RI・Lr 羽状菱形(4単位×3帯)、4単位波状口縁/中粒砂少、小礫微/最大径:12.5cm・器高:20.6cm・底部径:6.8cm /No.9、19、H2、4トレ	黒浜
3		II-1	深鉢	波状口縁~胴部下位	RI・Lr 羽状菱形(4単位×5帯)、4単位波状口縁/中粒砂・粗粒砂少、小礫微/最大径:21cm・器高:(21.3cm) /No.17、34、36	黒浜
4		II-1	深鉢	胴部下位~底部	RI・Lr 羽状菱形(4単位×2帯)/中粒砂~粗粒砂少、小礫微/最大径:15.2cm・器高:(14cm)・底部径:6.5cm /No.19、20、34、H2	黒浜
5		II-2	深鉢	波状口縁~胴部上位	RL・LR 羽状菱形(6単位×3帯)、4単位小波状口縁、口縁部に1対の補修孔/粗粒砂・小礫少/最大径:19cm・器高:(13.8cm) /No.5	黒浜
6		I	深鉢	口縁部	爪形文、連点状刺突、鋸歯状/中粒砂中/有尾系・No.6~8は同一個体か/No.11	黒浜
7		I	深鉢	口縁部	爪形文、連点状刺突、鋸歯状/中粒砂中/有尾系・No.6~8は同一個体か/No.11	黒浜
8		I	深鉢	頸部	爪形文、連点状刺突3段/中粒砂中/有尾系・No.6~8は同一個体か/No.11	黒浜
9		II-1	深鉢	波状口縁~胴部	RI・Lr /中粒砂少、赤色粒/No.9~13は同一個体か/No.27、28	黒浜
10		II-1	深鉢	波状口縁部	RI・Lr /中粒砂少、赤色粒/No.9~13は同一個体か/No.21、22、27、H2	黒浜
11		II-1	深鉢	波状口縁部	RI・Lr /中粒砂少、赤色粒/No.9~13は同一個体か/No.10、19、32、33	黒浜
12		II-1	深鉢	波状口縁部	RI・Lr /中粒砂少、赤色粒/No.9~13は同一個体か/No.27	黒浜
13		II-1	深鉢	波状口縁部	RI・Lr /中粒砂少、赤色粒/No.9~13は同一個体か/No.20、25、28	黒浜
14		II-1	深鉢	口縁部	Lr /中粒砂少、赤色粒 /No.28	黒浜
15		II-1	深鉢	胴部上位	RI・Lr /中粒砂少/No.15~16は同一個体か/No.22、23、28	黒浜
16		II-1	深鉢	胴部上位	RI・Lr /中粒砂少、赤色粒/No.15~16は同一個体か/No.27	黒浜
17		II-1	深鉢	胴部上位	RI・Lr /細粒砂・中粒砂少、赤色粒/No.17~19は同一個体か/No.27、28、37	黒浜
18		II-1	深鉢	胴部上位	RI・Lr /中粒砂少、赤色粒/No.17~19は同一個体か/No.28	黒浜
19		II-1	深鉢	胴部下位	RI・Lr /細粒砂・中粒砂少、赤色粒/No.17~19は同一個体か/No.23	黒浜
20		II-1	深鉢	口縁部	RI /中粒砂多、粗粒砂微/No.19	黒浜
21		II-1	深鉢	口縁部	RI /中粒砂中/No.11?	黒浜
22		II-1	深鉢	胴部上位	RI・Lr /中粒砂・極粗粒砂少、結晶片岩粒/No.22~25は同一個体か/No.5	黒浜
23		II-1	深鉢	胴部	RI・Lr /中粒砂・極粗粒砂少、結晶片岩粒/No.22~25は同一個体か/No.5	黒浜
24		II-1	深鉢	胴部	RI・Lr /中粒砂・極粗粒砂少、結晶片岩粒/No.22~25は同一個体か/No.5	黒浜
25		II-1	深鉢	胴部下位	RI・Lr /中粒砂・極粗粒砂少、結晶片岩粒/No.22~25は同一個体か/No.5	黒浜
26		II-1	深鉢	胴部	Lr /細粒砂少/No.26~27は同一個体か/No.12	黒浜
27		II-1	深鉢	胴部	Lr /細粒砂少/No.26~27は同一個体か/No.12	黒浜
28		II-1	深鉢	胴部	RI /細粒砂・中粒砂微/H2	黒浜
29		II-1	深鉢	頸部	RI /中粒砂少、赤色粒 /No.17	黒浜
30		II-1	深鉢	胴部	RI・Lr /中粒砂・極粗粒砂少、赤色粒、内面ミガキ強 /No.36	黒浜
31		II-1	深鉢	胴部	RI・Lr /中粒砂少 /No.19	黒浜
32		II-1	深鉢	胴部	RI・Lr /中粒砂少 /No.19	黒浜
33		II-1	深鉢	胴部	Lr /中粒砂少 /No.22	黒浜
34		II-1	深鉢	胴部	RI・Lr、粘土皺寄せ/中粒砂少 /No.33	黒浜
35		II-1	深鉢	胴部	RI・Lr、粘土皺寄せ/中粒砂少 /No.19	黒浜
36		II-1	深鉢	胴部	RI・Lr、粘土皺寄せ/中粒砂中 /No.19	黒浜
37		II-1	深鉢	胴部	RI・Lr /中粒砂微 /No.19	黒浜
38		II-1	深鉢	胴部	Lr /細粒砂少 /No.9	黒浜
39		II-1	深鉢	底部	RI・Lr /中粒砂中、小礫微 /No.4	黒浜
40		II-1	深鉢	底部	RI・Lr /中粒砂少 /No.16、33	黒浜
41		II-1	深鉢	底部	Lr、底面ミガキ強/中粒砂少、小礫微 /No.7	黒浜
42		II-2	深鉢	胴部	LR /中粒砂微 /No.19	黒浜
43		II-2	深鉢	胴部	RL /中粒砂少 /H2	黒浜
44		II-4	深鉢	底部	Lr + Lr(逆)/中粒砂少 /No.33	黒浜
45	V	深鉢	胴部	無文/細粒砂少 /No.10	黒浜	
46	V	深鉢	胴部	無文/細粒砂・中粒砂少 /No.12	黒浜	
47	V	深鉢	胴部	無文/中粒砂微 /No.33	黒浜	
48	地下式坑	I-1	深鉢	波状口縁部	爪形文、鋸歯状/中粒砂・粗粒砂少、小礫微/有尾系/地下式坑-No.41、H1	黒浜
49		I-1	深鉢	波状口縁部	爪形文、鋸歯状/中粒砂少/有尾系/地下式坑-No.19	黒浜
50		I-1	深鉢	口縁部	爪形文、鋸歯状/中粒砂少/有尾系/地下式坑-H3	黒浜
51		I-1	深鉢	口縁部	爪形文、鋸歯状/中粒砂・粗粒砂少/有尾系/地下式坑-A区1	黒浜
52		I-2	深鉢	口縁部	爪形文、鋸歯状、RL、内面ミガキ/中粒砂・粗粒砂少、小礫微/地下式坑-H1	黒浜
53		I-3	深鉢	波状口縁~胴部	平行沈線、RI・Lr /中粒砂・粗粒砂少/有尾系/地下式坑-H2、H3	黒浜
54		II-1	深鉢	波状口縁部	RI /中粒砂・粗粒砂少/地下式坑-H3	黒浜
55		II-1	深鉢	波状口縁部	Lr /中粒砂微/地下式坑-No.27	黒浜
56		II-1	深鉢	波状口縁部	RI、内面赤彩か/細粒砂中/地下式坑-No.38	黒浜
57		II-1	深鉢	口縁~頸部	Lr /中粒砂微/地下式坑-H1	黒浜
58		II-1	深鉢	口縁部	Lr /中粒砂多/No.58~59は同一個体か/地下式坑-No.41	黒浜
59		II-1	深鉢	胴部	Lr /中粒砂多/No.58~59は同一個体か/地下式坑-H1	黒浜
60		II-1	深鉢	胴部	RI・Lr /細粒砂・中粒砂中/地下式坑-No.16、A区1	黒浜
61		II-1	深鉢	胴部	RI /中粒砂少/地下式坑-H1	黒浜
62		II-1	深鉢	胴部	Lr /中粒砂微/地下式坑-H1	黒浜
63		II-1	深鉢	胴部	RI /細粒砂・中粒砂少/地下式坑-H1	黒浜
64		II-2	深鉢	胴部	RL・LR /中粒砂・粗粒砂少/地下式坑-No.25、39	黒浜
65		II-2	深鉢	胴部	LR /中粒砂多/No.65~66は同一個体か/地下式坑-No.37、H1	黒浜
66	II-2	深鉢	胴部	LR /中粒砂多/No.65~66は同一個体か/地下式坑-H3	黒浜	
68	H80号住居跡	—	須恵器環	口縁~底部	底部回転系切り未調整、内面に火傷痕有り/白色粒子・白色針状物質/口縁径:(12.0cm)・器高:3.8cm・底径:6.4cm /No.1、H1	9世紀代
69		—	須恵器環	底部	底部回転へラ削り/白色粒子・白色針状物質・石英/底径:6.6cm /H1	9世紀代
70	遺構外	I	深鉢	口縁部	爪形文、鋸歯状/細粒砂・中粒砂中/有尾系/2・3トレ	黒浜
71		I	深鉢	口縁部	平行沈線/細粒砂少、極粗粒砂微/有尾系/3トレ	黒浜
72		II-1	深鉢	波状口縁部	Lr /中粒砂少/3・4トレ	黒浜
73		II-1	深鉢	口縁部	Lr /中粒砂少/3・4トレ	黒浜
74		II-1	深鉢	口縁部	RI /中粒砂少/2・3トレ	黒浜
75		II-1	深鉢	胴部	Lr /中粒砂少/3・4トレ	黒浜
76		II-1	深鉢	胴部下位	RI /細粒砂少/2・3トレ	黒浜
77		II-2	深鉢	口縁部	RL・LR、還付末端/細粒砂少/2・3トレ	関山
78		II-2	深鉢	胴部	RL・LR /中粒砂中/3・4トレ	黒浜
79		—	甕	胴部	割れ口磨耗、転用砥/中粒砂少/3トレ	常滑/中近世



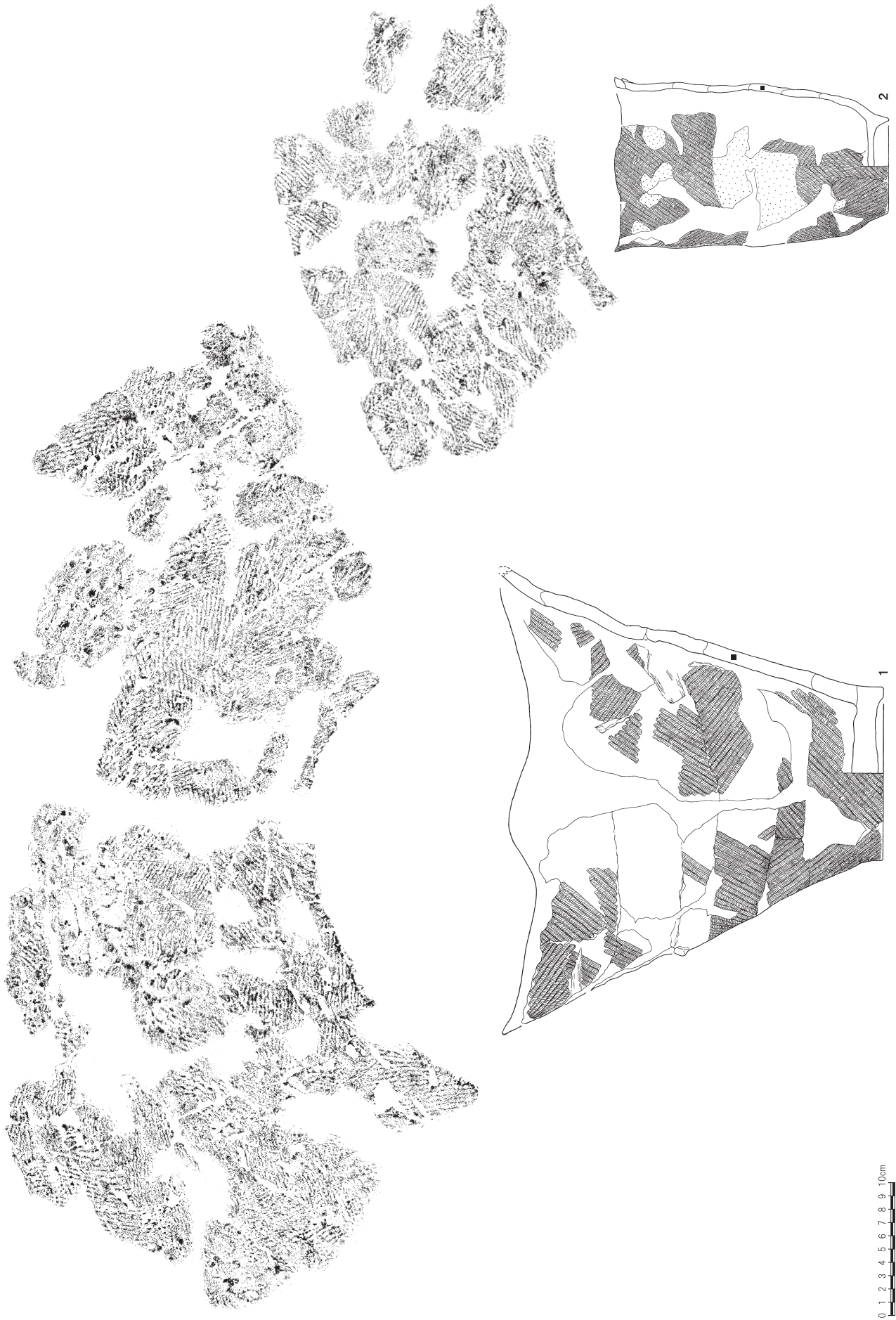
第 17 図 川崎遺跡第 44 地点 J24 号住居跡出土遺物① (1/4)

第14表 川崎遺跡第44地点出土石器観察表(単位 cm・g)

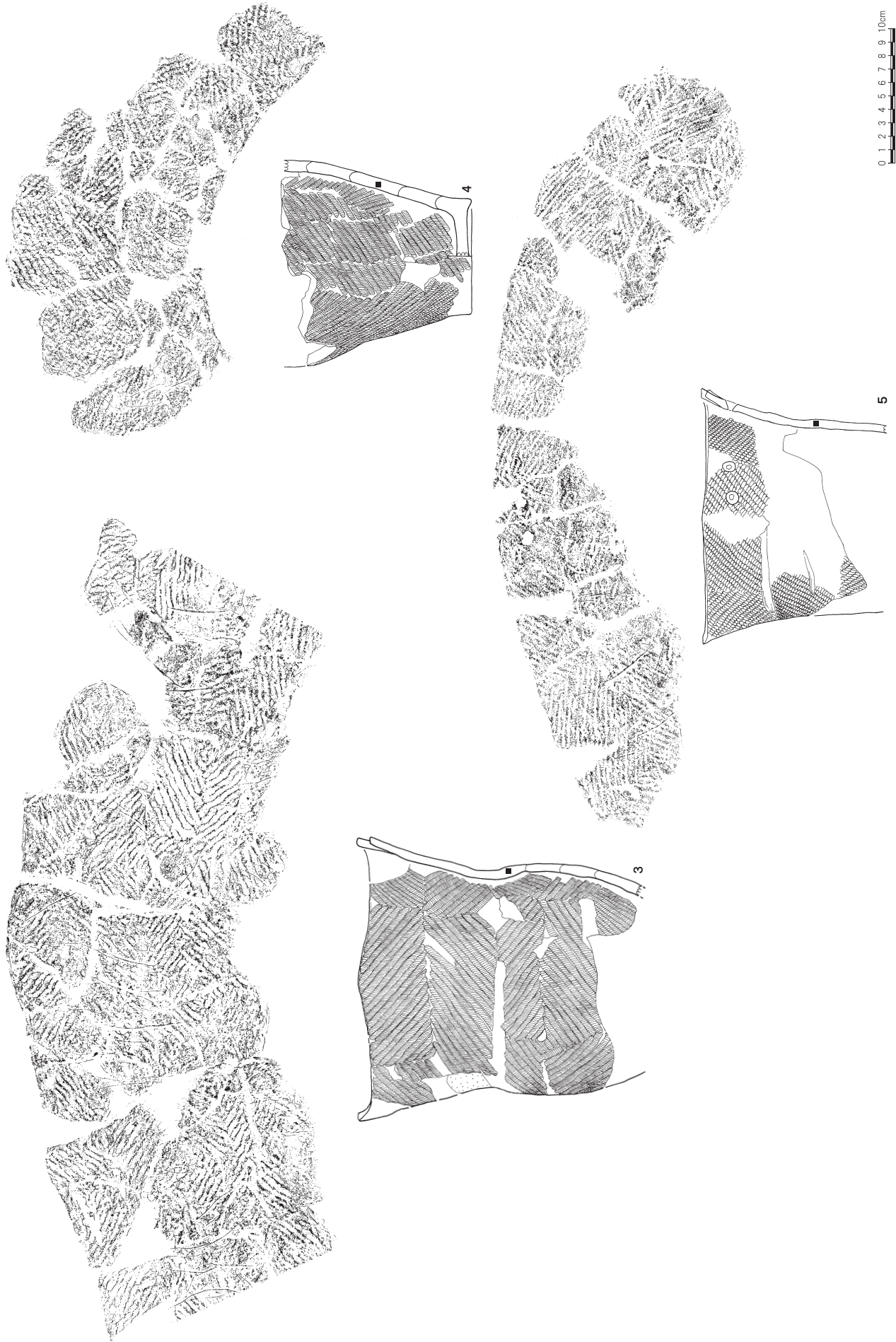
図版番号・No.	遺構名・注記No.	種別/器形	長さ	幅	厚さ	重量	石材/推定生産地	推定年代	残存/備考
第18図73	J24号住居跡・151	石鏃	(2.45)	2.0	0.5	(2.38)	チャート	縄文時代	先端、脚部欠損
第18図74	J24号住居跡・150	スクレイパー	2.65	3.6	0.7	5.13	黒曜石	縄文時代	完形/主剥離面残す
第18図75	J24号住居跡・41	敲き石	7.35	5.7	3.3	200.55	緑色岩	縄文時代	完形/磨製石斧を転用
第18図76	J24号住居跡・1	玦飾	(1.2)	(1.4)	0.8	(2.39)	滑石	縄文時代	同一個体、分離して使用カ
第18図77	J24号住居跡・149	玦飾	3.0	(2.0)	0.8	(5.47)	滑石	縄文時代	
第22図67	J25号住居跡・H3	打製石斧?	(14.4)	(6.9)	(2.0)	(190.64)	ホルンフェルス	縄文時代	風化が著しく、脆い



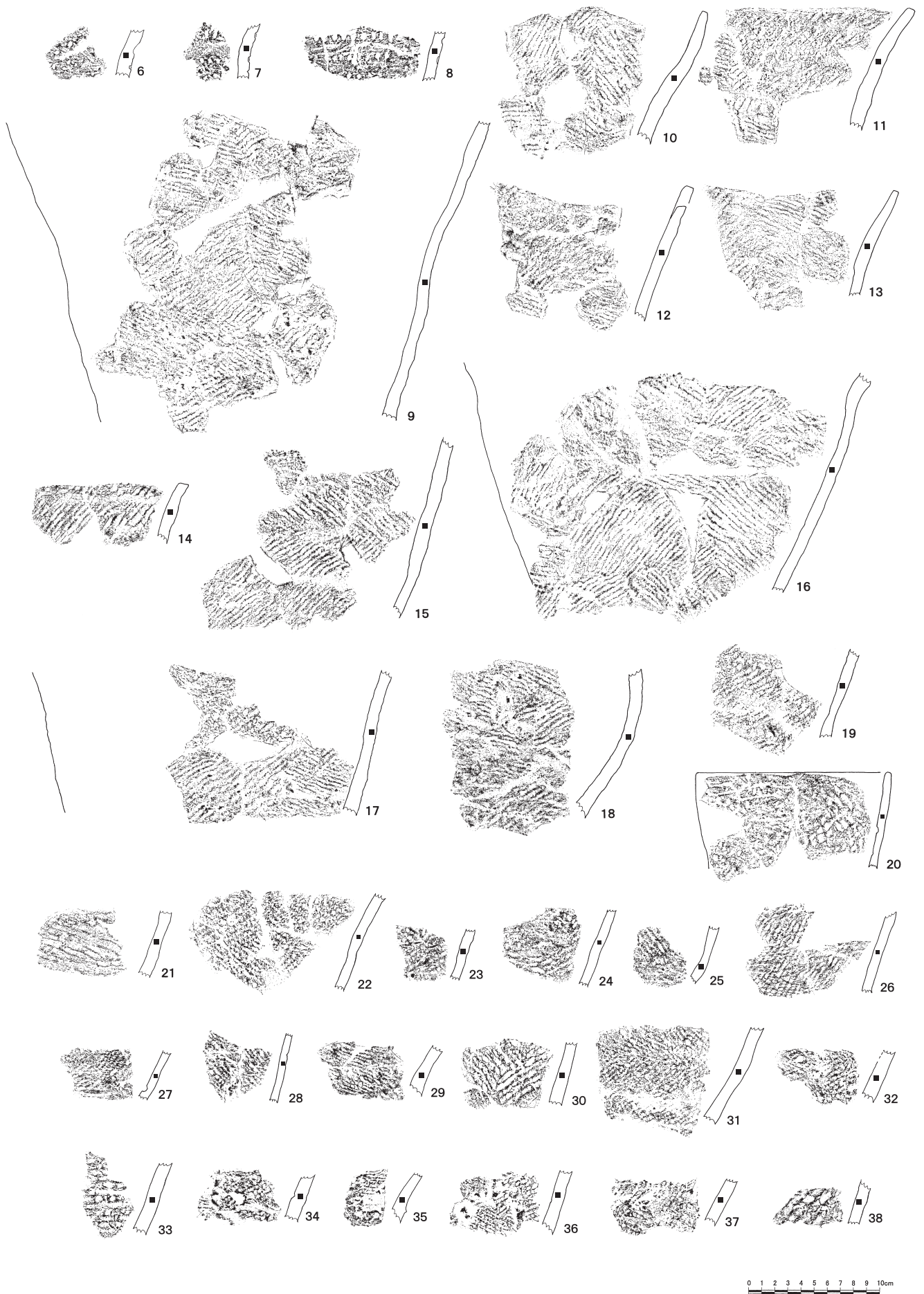
第18図 川崎遺跡第44地点 J24号住居跡出土遺物② (1/4・1/2・2/3)



第19図 川崎遺跡第44地点J25号住居跡出土遺物①(1/4)

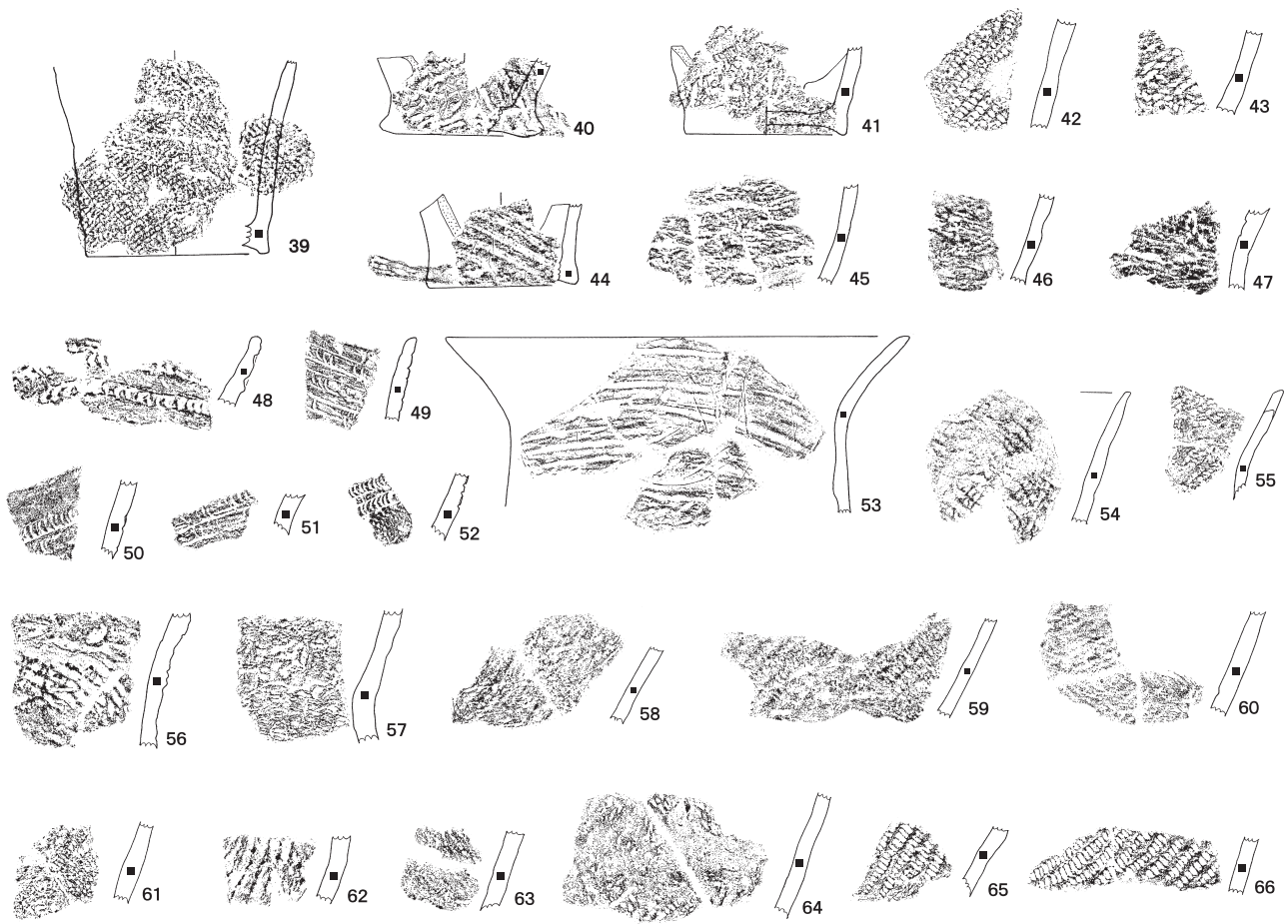


第20図 川崎遺跡第44地点J25号住居跡出土遺物② (1/4)

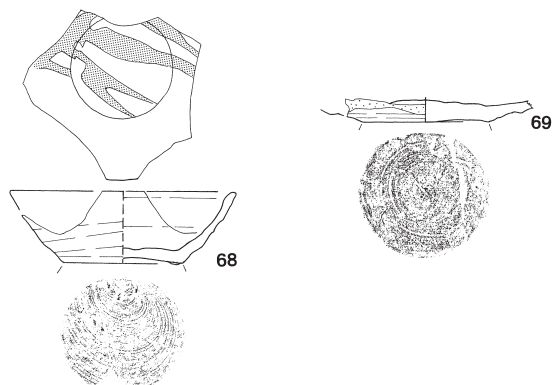
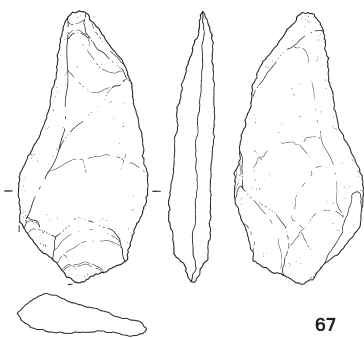


第 21 図 川崎遺跡第 44 地点 J25 号住居跡出土遺物③ (1/4)

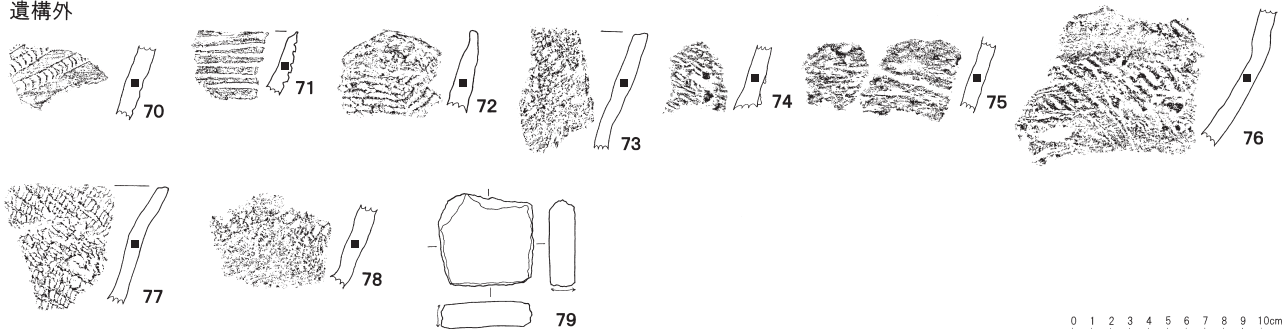
J25号住居跡



H80号住居跡

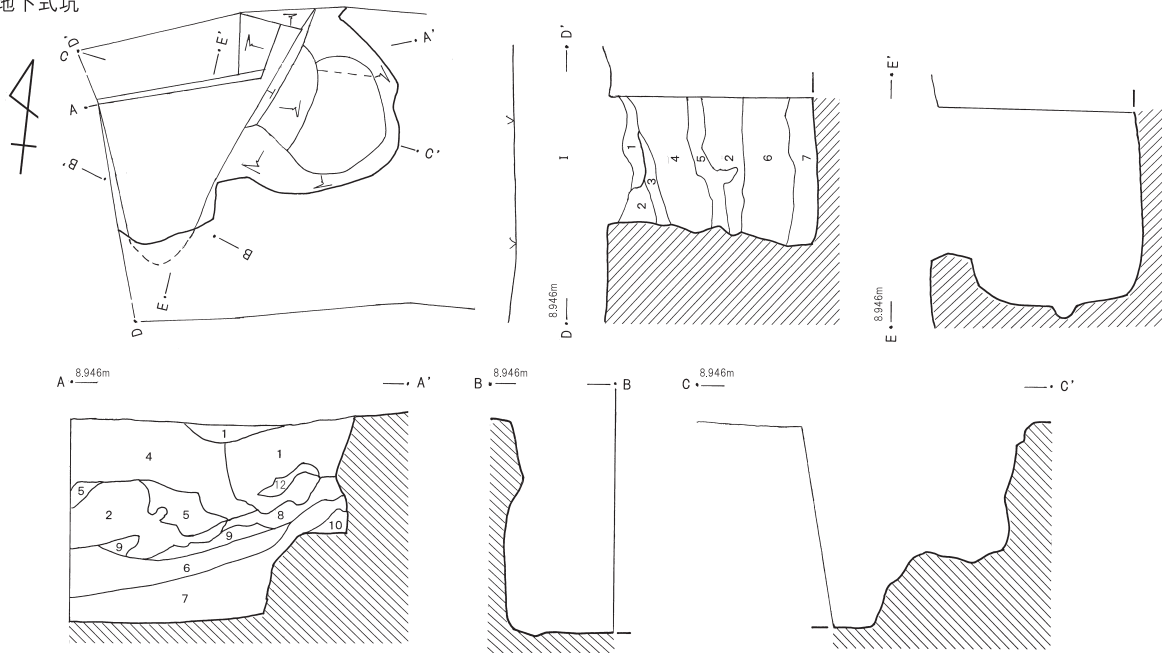


遺構外



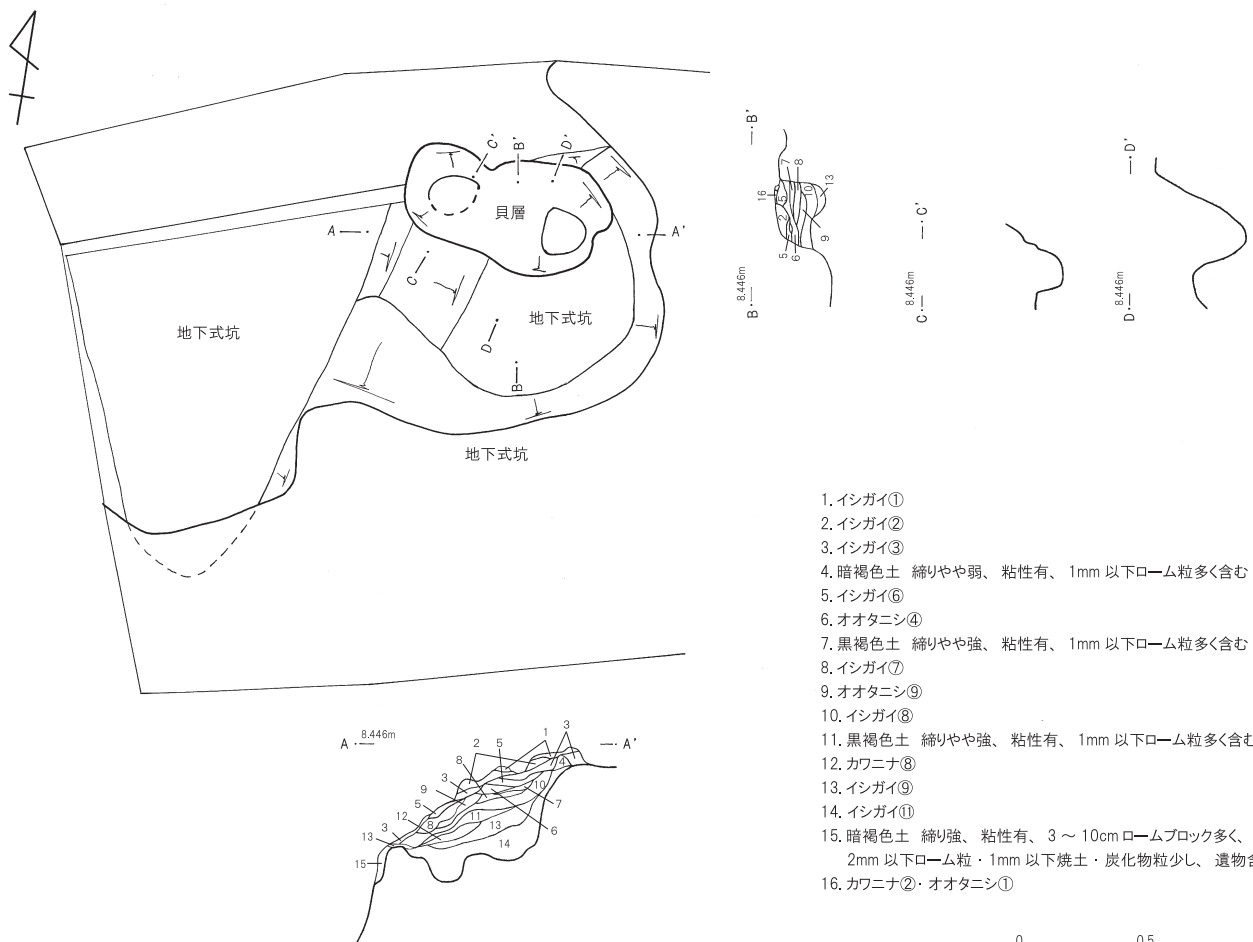
第22図 川崎遺跡第44地点地J25号住居跡出土遺物④・H80号住居跡・遺構外出土遺物(1/4)

地下式坑



1. 暗褐色土 締り強、粘性有、1mm 以下ローム粒・炭化物粒少し含む
2. 黄褐色土 締り強、粘性有、天井ローム
3. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム主体、暗褐色土をシミ状に少し含む
4. 暗褐色土 締り強、粘性有、3～10cm ロームブロック多く、2mm 以下ローム粒・1mm 以下焼土・炭化物粒少し、遺物含む
5. 暗褐色土 締りやや弱、粘性有、4層・2cm 以下ロームブロック多く、遺物含む
6. 鈍い黄褐色土 締りやや弱、粘性有、2cm 以下ロームブロック・2mm 以下ローム粒多く含む
7. 黒褐色土 締り強、粘性有、2cm 以下ロームブロック僅かに、2mm 以下ローム粒少し含む
8. 暗褐色土 締り強、粘性有、1cm 以下ロームブロック・2mm 以下ローム粒多く、1mm 以下炭化物粒僅かに含む
9. 暗褐色土 締りやや強、粘性有、3cm 以下ロームブロック・2mm 以下ローム粒多く、1mm 以下褐色土粒少し含む
10. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム主体、黒褐色土シミ状に含む
11. 暗褐色土 締り強、粘性有、2cm 以下ロームブロック少し、2mm 以下ローム粒多く、2mm 以下炭化物粒少し含む、貝層ピット覆土
12. 貝層

貝層



1. イシガイ①
2. イシガイ②
3. イシガイ③
4. 暗褐色土 締りやや弱、粘性有、1mm 以下ローム粒多く含む
5. イシガイ⑥
6. オオタニシ④
7. 黒褐色土 締りやや強、粘性有、1mm 以下ローム粒多く含む
8. イシガイ⑦
9. オオタニシ⑨
10. イシガイ⑧
11. 黒褐色土 締りやや強、粘性有、1mm 以下ローム粒多く含む
12. カワナシ⑧
13. イシガイ⑨
14. イシガイ⑪
15. 暗褐色土 締り強、粘性有、3～10cm ロームブロック多く、2mm 以下ローム粒・1mm 以下焼土・炭化物粒少し、遺物含む
16. カワナシ②・オオタニシ①

第 23 図 川崎遺跡第 44 地点地下式坑 (1/60)、貝層 (1/30)



第24図 川崎遺跡第44地点貝層出土状況 (1/30)

⑦ピット

いずれも調査区南側で検出した。ともに土坑1・2と重複関係にあり、土坑2より新しく、土坑1より古い。所属時期は土層観察から中近世以降とみられ、また2基の時期差は大きく開かないものと考えられる。

【ピット1】平面形態は円形を呈する。確認面径45cm×35cm、深さ49.7cmである。

【ピット2】平面形態は楕円形を呈し、確認面径50cm×30cm、深さ34.6cmである。

⑧溝

溝は調査区北東隅から南端にかけて検出した。南北に主軸をとり、規模は現況で15m、両端はそれぞれ調査区外に延伸する。遺構の規模は上幅60cm～90cm、下幅約45cm、深さ40cm～62cm、断面形状は逆台形である。土層観察から中近世以降のものと考えられる。出土遺物はない。

⑨出土遺物

出土遺物については、第12・13表参照。また、縄文土器の分類基準については、ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第5集『市内遺跡群4』2009.3「上福岡貝塚第1地点の本調査【土器の分類基準】」に準じた。

(岡崎)

第Ⅰ類 口縁部文様帯を有するもの、あるいは胴部に一定の施文帯を有するもの。

- 第1種 口縁部文様帯に4単位の鋸歯状文(菱形文)を有するもの。有尾式土器。
- 第2種 口縁部に多単位の鋸歯状文(菱形文)や渦巻文を有するもの。
- 第3種 口縁部に平行沈線文を重層するもの。
- 第4種 口唇部に幅狭い文様帯を有するもの。
- 第5種 格子目文を有するもの。a格子目文だけのもの、b格子目文と縄文を施文するものに大別する。
- 第6種 コンパス文と平行沈線を有するもの。
- 第7種 縦方向の沈線を有するもの。
- 第8種 胴部に施文帯を有するもの。施文される文様には幾つかの種類がある。
- 第9種 沈線による所謂「肋骨文」を有するもの。

第Ⅱ類 縄文が施文された土器群を一括する。

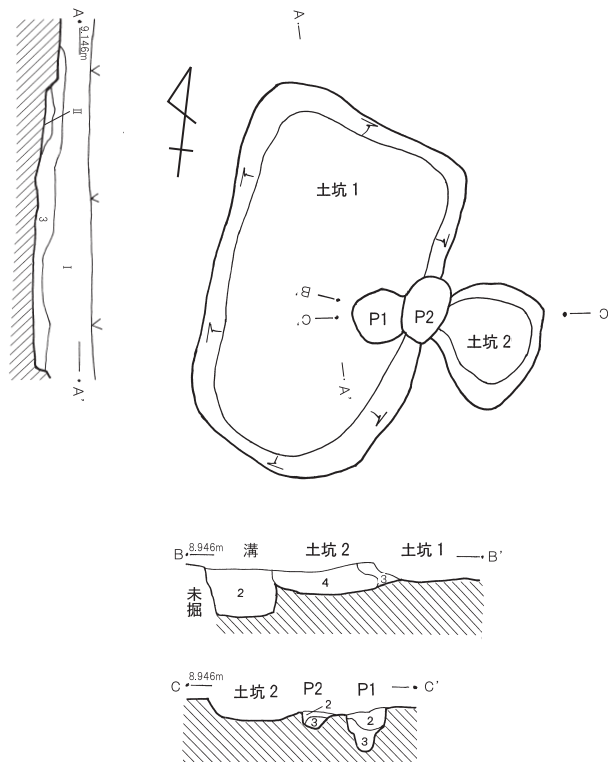
- 第1種 無節斜縄文の土器。
- 第2種 単節縄文の土器。
- 第3種 異条斜縄文の土器。
- 第4種 付加条縄文の土器。a順方向、b逆方向、c順・逆両方向付加に大別する。
- 第5種 反撚りの縄文が施文された土器。

第Ⅲ類 絡条体が施文された土器群を一括する。

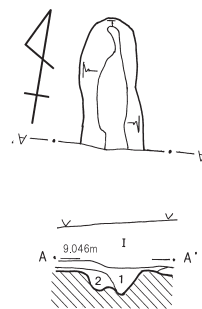
第Ⅳ類 貝殻背圧痕文と貝殻腹縁文の土器を一括する。

- 第1種 a貝殻背圧痕だけの土器。b貝殻背圧痕と縄文を施文する土器。c貝殻背圧痕と沈線を施文する土器。
- 第2種 貝殻腹縁文の土器。

土坑1・2、ピット1・2



土坑3



- 土坑1・2
 - I. 表土
 - II. 地山ローム
 - 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、2cm以下ロームブロック・1mm以下赤色粒・黒色粒少し含む
 - 3. 暗褐色土 締りやや弱、粘性有、1cm以下ロームブロック・2mm以下ローム粒多く含む
 - 4. 暗褐色土 締り強、粘性有、1mmローム粒僅か、1mm焼土粒・炭化物少し含む
- 土坑3
 - I. 表土
 - 1. 暗褐色土 締りやや強、粘性有、1cm以下ロームブロック・2mm以下ローム粒多く、1mm以下炭化物粒含む
 - 2. 暗褐色土 1層に比べ、ロームブロックを多く含む
- ピット1・2
 - 2. 黒褐色土 締りやや強、粘性有、1mm以下ローム粒少し含む
 - 3. 黒褐色土 締りやや強、粘性有、2cm以下ロームブロック少し含む

第25図 川崎遺跡第44地点土坑・ピット (1/60)

第5章 松山遺跡第85地点の調査

I 遺跡の立地と環境

松山遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の左岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地している。東側は荒川低地の沖積地と接し、標高9～10m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北500m、東西600m以上である。宅地開発されるが部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、すぐ北側に縄文時代早期～後期、飛鳥時代および中近世にわたる長宮遺跡、福岡江川を挟んだ対岸には福岡新田遺跡、同じく対岸の250m南東側には、縄文時代前期集落の鷲森遺跡がある。また、西方約350mの比高差9mを持ってそびえる台地の南東崖面には富士見台横穴墓群が望まれる。

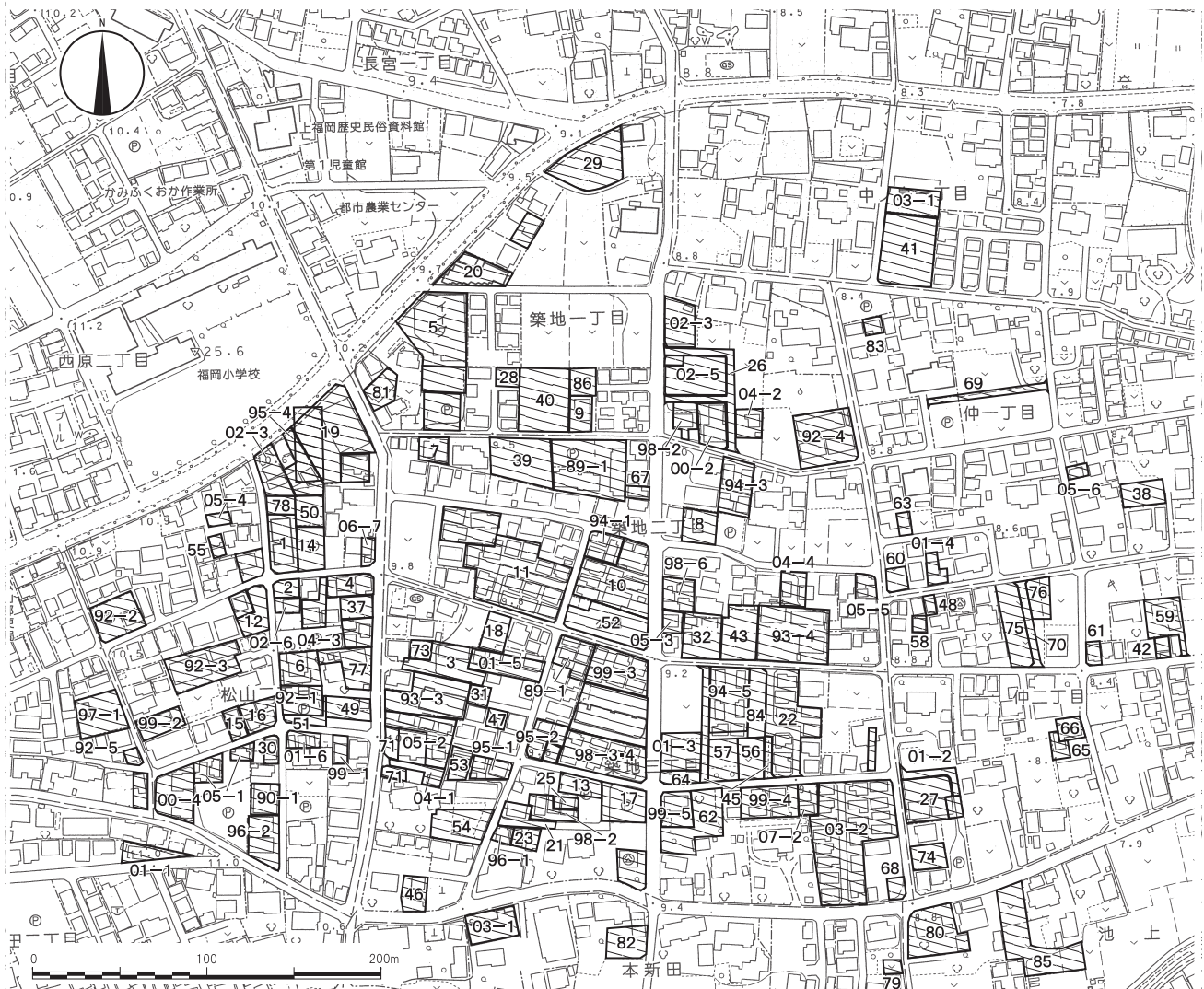
1978年の宅地造成に伴う緊急調査で奈良時代の住居跡を検出したのをはじめ、宅地造成などにより約100ヶ所で調査が行われている。主たる時代と遺構は、

長宮遺跡と接した北寄りに飛鳥時代の住居跡、遺跡中央の東西240m、南北210m程度の範囲に奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡、中近世以降の溝・井戸跡などである。特に溝、井戸等の中近世の遺構は東側の低地へも広がりを見せており、遺跡範囲の変更増補を行った。

II 本調査に至る経過と調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2015年3月17日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南東端に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2015年10月1日～19日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1.5mのトレンチ8本を設定し、重機による表土除去後人力による調査を行った。

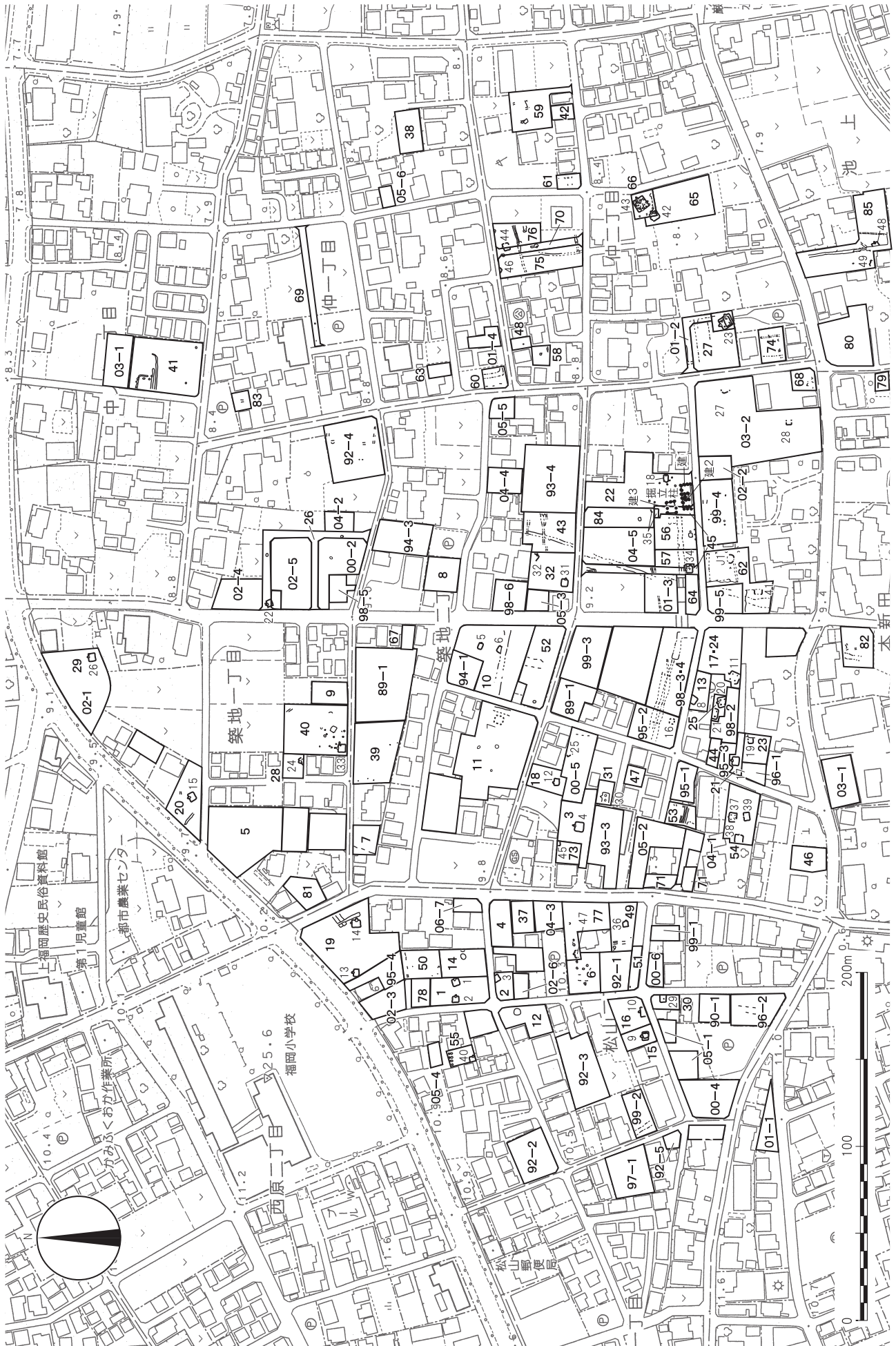


第26図 松山遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第15表 松山遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
05 試(1)	松山 2-2-4 の一部	(2005.4.6～7)	313	土地分譲	遺構遺物なし	市内 1
05 試(2)	築地 3-1-32・34・43	(2005.4.19～21)	549	土地分譲	遺構遺物なし	市内 1
05 試(3)	築地 2-5-32	(2005.4.28)	132	個人住宅	遺構遺物なし	市内 1
31 次	築地 3-1-69	2005.6.14～23(2005.6.9～13)	120	個人住宅	古墳時代住居跡 1	市内 1
05 試(8)	築地 2-5-3	(2005.8.30～9.13)	567	宅地造成	平安時代住居跡 1	市内 1
32 次	築地 2-5-3 の一部	(2005.8.30～9.7)9.8～13	132	個人住宅	平安時代住居跡 2	市内 1
05 試(5)	築地 2-5-36	(2005.10.31)	125	個人住宅	遺構遺物なし	市内 1
05 試(4)	松山 2-4-23	(2005.10.20～21)	161	個人住宅	遺構遺物なし	市内 1
05 試(6)	仲 1-4-26	(2005.11.14)	108	個人住宅	遺構遺物なし	市内 1
05 試(7)	松山 2-5-21	(2006.2.28)	100	個人住宅	遺構遺物なし	市内 2
37	松山 2-6-10・13	(2006.4.13)	228	個人住宅	遺構遺物なし	市内 3
38	仲 1-4-3・9・12・13・24	(2006.5.29)	2,176	宅地造成	遺構遺物なし	市内 3
39	築地 2-3-10	(2007.1.10～20)	937	宅地造成	遺構遺物なし	市内 3
40	築地 1-1-5	(2007.2.2～8)2.21～3.9	1,047	宅地造成	奈良時代住居跡 1、中世遺構検出	市内 3
41	中ノ島 1-2-5	(2007.2.7～9)2.21～3.5	1,281	宅地造成	中世遺構遺物検出	市内 3
42	仲 2-3-15	(2007.2.13)	108	個人住宅	遺構遺物なし	市内 3
43	築地 2-5-2	(2007.4.11～24)	668	分譲住宅	堀跡 1、土坑 1、旧石器ナイフ 1 点	市内 4
44	築地 3-2-10・14	(2008.6.9～11)	132	個人住宅	遺構遺物なし	市内 6
45	築地 3-4-7 の一部外	(2008.9.4～30)10.1～23	390	道路	奈良平安時代住居跡 2、掘立柱建物跡 2、竪穴状遺構 1、時期不明の溝 10、土坑、ピット	市内 6
46	築地 3-1-33・35 の一部	(2009.2.17)	309	個人住宅	遺構遺物なし	市内 6
47	築地 3-1-52	(2009.5.11・12)	121	個人住宅	ピット	市内 8
48	仲 2-2-34	(2009.7.1)	67	個人住宅	遺構遺物なし	市内 8
49	松山 2-6-1・14・22 の一部	(2009.10.17～22)10.27～11.18	449	宅地造成	平安時代住居跡 1(住居内鍛冶炉検出)、土坑 1、溝 1、ピット 1	市内 8
50	松山 2-5-3・17	(2009.11.27～12.1)	797	分譲住宅	溝 1、ピット 7	市内 8
51	松山 2-6-22・23・28 の一部	(2010.5.10～13)	360	分譲住宅	遺構遺物なし	市内 10
52	築地 2-2-1	(2010.8.26～9.3)	694	分譲住宅	溝 1、落とし穴 1、工事立会	市内 10
53	築地 3-1-11	(2010.9.10～21)	205	個人住宅	近代以降の溝 3、アナグラ 1、慎重工事	市内 10
54	築地 3-1-6・76～83	(2010.9.21～10.1)10.4～11.5	540	宅地造成	奈良平安時代住居跡 3 確認、西側 1 の住居は盛土保存、他 2 は本調査	市内 9
55	松山 2-4-24 の一部	(2011.1.17)1.18～31	226	個人住宅	奈良平安時代住居跡 1、掘立柱建物跡 1、本調査	市内 10
56	築地 3-4-7・8 の一部	(2011.4.4～14)4.11～15	483	共同住宅	奈良平安時代掘立柱建物跡 2 他、本調査(一部工事立会)	市内 11
57	築地 3-4-47	(2011.4.4～15)	241	分譲住宅	隣接する 45 地点から続く H34 号住居跡と溝、遺物なし	市内 14
58	仲 2-2-31	(2011.6.6～8)6.14	115	個人住宅	井戸 1、溝 1、ピット 1、本調査	市内 14
59	仲 2-3-6・9	(2011.8.8・9)8.10・11	560	個人住宅	土坑 2、溝 3、縄文土器、須恵器、本調査	市内 14
60	仲 1-1-15	(2012.3.26・27)	165	個人住宅	堀跡 1、溝 1、陶磁器、焙烙、工事立会	市内 14
61	仲 2-3-3	(2012.4.16～19)	113	個人住宅	溝 1、土坑 3、陶磁器	市内 15
62	築地 3-5-11・14・19	(2012.6.11～21)7.23～8.1	842	分譲住宅	縄文時代住居跡 1、奈良平安時代住居跡 1、溝 6、縄文土器、銭貨、他	市内 12
63	仲 1-1-55・56・57	(2012.6.5)	120	個人住宅	遺構遺物なし	市内 15
64	築地 3-4-9	(2012.6.7～15)	314	分譲住宅	溝 4、近世の土坑、陶磁器	市内 15
65	仲 2-1-25・36	(2013.2.13～18)2.19～3.21	630	物置	奈良平安時代住居跡 2、掘立柱建物跡 3、土坑 6、溝 6、須恵器、旧石器	市内 15
66	仲 2-1-53・54		179	個人住宅		市内 15
67	築地 3-3-13	(2013.2.19)	92	個人住宅	遺構遺物なし	市内 15
68	築地 3-5-1	(2013.3.7・8)	166	個人住宅	井戸 1、土坑 1、ピット 4、須恵器、土師器等	市内 15
69	仲 1-51・53・55	(2013.9.10・11)9.12～17	298	道路	縄文時代集石土坑 1、溝 1	市内 18
70	仲 2-2-39・41	(2013.4.11～16)4.17～23	220	道路	奈良平安時代住居跡 1、中世以降井戸 1、集石土坑 1、溝 2、須恵器、土師器、土錘、陶磁器	市内 18
71	築地 3-1-16・32・34	(2013.4.30～5.1)	240	分譲住宅	ピット 1、古銭、陶器片 1	市内 18
72	松山 1-4-1	(2013.5.24)	199	個人住宅	遺構遺物なし	市内 18
73	築地 3-1-56	(2013.8.19)8.20	165	個人住宅	平安時代住居跡 1、須恵器	市内 18
74	仲 2-1-37	(2013.12.24～26)	280	分譲住宅	井戸 1、集石土坑 1、溝 2、土坑 1、陶磁器	市内 18
75	仲 2-2-2・4	(2014.1.14～20)8.5～11	606	分譲住宅	平安時代住居跡 1、溝 3、須恵器、土師器	市内 18
76	仲 2-2-48	(2014.1.22～28)9.26～10.2	120	個人住宅	土坑 1、井戸 1、溝 1、土器	市内 18
	仲 2-2-37(6 区画)	(2014.1.22～28)11.12～17	120	個人住宅	奈良時代住居跡 1(70 地点と同一)、土師器	市内 18
	仲 2-2-37	(2014.1.22～28)	362	宅地造成	奈良時代住居跡 1(70 地点と同一)、井戸 2、溝 2、土坑 3、土師器、須恵器、中世陶器	市内 18
77	松山 2-6-2・3・12 の各一部	(2014.3.3～12)3.13～27	493	個人住宅	平安時代住居跡 1、土坑 3、土師器、須恵器	市内 18
78	松山 2-5-5	(2013.5.22)	242	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
79	本新田 395-1 の一部	(2014.8.5)	153	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
80	池上 372	(2015.3.12)	1,183	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
81	築地 1-1-12	(2015.3.23)	247	分譲住宅	遺構遺物なし	未報告
82	本新田 411 の一部	(2015.7.30・31)	194	個人住宅	溝 1、遺物なし	未報告
83	仲 1-2-22	(2015.8.31)	98	分譲住宅	溝 1、遺物なし	未報告
84	築地 3-4-13	(2015.9.15・16)	455	宅地造成	平安時代住居跡 1、井戸 1、土師器	未報告
85	池上 362-1 の一部、364・365・366 の一部	(2015.10.1～19)10.20～26	1,244	分譲住宅	奈良平安時代住居跡 2、屋外の焼土跡 1、中近世以降の溝 5、須恵器、土師器、陶磁器、鉄製品、石製品	市内 19
86	築地 1-1-4	(2016.7.5・7)	294	分譲住宅	溝 1、遺物なし	未報告

※理：上福岡市教育委員会埋蔵文化財の調査報告書、上遺調：上福岡市遺跡調査会報告書、教要：上福岡市教育要覧、市内：ふじみ野市内遺跡群報告書



第27図 松山遺跡遺構分布図 (1/3,000)

第16表 松山遺跡古代住居跡一覧表(単位 cm)

住居 番号	調査 年度	調査名	調査率	平面形 ()は推定	規模	炉 カマドK	設置壁	カマド	周溝	主軸方位	時期	備考	文献
								規模 cm					
1	1978	第1次1号住居	完掘	正方形	390×380	K	東	110×75	○		国分前半		埋蔵文化財の調査I
2	"	第1次2号住居	完掘	台形	360×320	K	東	120×85	○		国分前半		埋蔵文化財の調査I
3	1979	第2次3号住居	2/3	(方形)	350××10	K	東		一部		国分後半		埋蔵文化財の調査II
4	"	第3次4号住居	完掘	方形	530×475	K	北	200×100	○	N-14-E	国分後半		埋蔵文化財の調査II
5	1991	第10次5号住居	完掘	長方形	230×350	K	北→東		○		9C 2半期		埋蔵文化財の調査14
6	"	第10次6号住居	2/3	方形	340×300	K	東		○		9C 2半期		埋蔵文化財の調査14
7	"	第11次7号住居	完掘	正方形	400×400				○		8C 4半期		埋蔵文化財の調査14
8	1992	第13次8号住居	3/4	(方形)	400×					N-10-E	8C 3半期		埋蔵文化財の調査15
9	1993	第15次9号住居	完掘		A440×350、B420×310、C260×300	K	東→北	A210×210、B210×210、C80×65	○		9C 1半期	鉄鉢型須恵器出土	埋蔵文化財の調査16
10	"	第16次10号住居	1/3	正方形	560×560	K	北	130×80	○		8C 4半期		埋蔵文化財の調査16
11	"	第17次11号住居	完掘	方形	600×600	K	北		○	最大住居	7C 4半期	黒色土師器出土	埋蔵文化財の調査16
12	"	第18次12号住居	完掘	方形	400×320	K	北		(○)		8C 4半期		埋蔵文化財の調査16と市史
13	1994	第19次13号住居	完掘	長方形	450×300	K	北		○	N-5-E	9C 1半期		松山遺跡第19次調査概要
14	"	第19次14号住居	完掘	長方形	450×500	K	東→北		○	N-5-E	9C 1半期	土錘出土	松山遺跡第19次調査概要
15	"	第20次15号住居	完掘	長方形	370×470	K	北西	70×70	○		7C 4半期		松山遺跡第20次の調査
16	1995	7年試掘(2)16号住居								N-20-W	6C		未報告
17	"	第21次17号住居	完掘	長方形	480×400	K	北		○		7C 4半期		埋蔵文化財の調査19
18	1997	第22次18号住居	完掘	長方形	240×460	K	東	90×60	○	N-50-E	8C末		埋蔵文化財の調査20
	"	第22次1号掘立	部分	長方形	東西5間 南北3間						8C末～9C初		埋蔵文化財の調査20
	"	第22次2号掘立	部分	長方形	東西2間 南北2間						8C末～9C初		埋蔵文化財の調査20
	"	第22次3号掘立	部分	長方形	(東西2間)南北3間						8C末～9C初		埋蔵文化財の調査20
19	1998	第23次19号住居	4/5	長方形	260×290				○	N-30-W	8C後半	土錘6点出土	埋蔵文化財の調査21
20	1999	第25次20号住居									8C初頭	暗紋土師器	市史通史編
21	"	第25次21号住居									8C初頭		未報告
22	2000	第26次22号住居	完掘		360×	K	北		○		7C後半	14年度完掘、焼失住居	埋蔵文化財の調査23
23	"	第27次23号住居	完掘	台形	600×720	K	北		○		8C半ば		埋蔵文化財の調査23
24	2001	第28次24号住居	1/2		340×	K	北西		○		8C中葉		埋蔵文化財の調査24
25	2000	12年度試掘5	2/3										埋蔵文化財の調査23
26	2002	第29次26号住居	完掘	長方形	420×360	K	北		○		7C後半		埋蔵文化財の調査25
27	2003	15年度試掘27号住居	一部		(盛土保存)							プランのみ確認	埋蔵文化財の調査26
28	"	15年度試掘28号住居	1/2		(盛土保存)							プランのみ確認	埋蔵文化財の調査26
29	"	第30次29号住居	完掘	長方形	360×420	K	東		○		9C前半		埋蔵文化財の調査26
30	2005	第31次30号住居	完掘	長方形	360×600	K	北		○			土錘出土	市内遺跡群1
31	"	第32次31号住居	完掘	長方形	380×330×	K	東		○	S-65-E	9C中葉		市内遺跡群1
32	"	第32次32号住居	1/2	長方形	東西4m×南北3m以上	K	東		○	S-85-E			市内遺跡群1
33	2006	40地点H33号住居	完掘	方形	455×420	K	北	98×154	○	N-5-E	8C後半		市内遺跡群3
34	2008	45地点H34号住居	完掘	方形	364×361	K	東	122×125	○	N-96-E			市内遺跡群6
35	2008	45地点H35号住居	1/2	(方形)	504×(222)				○			焼失住居	市内遺跡群6
36	2009	49地点H36号住居	完掘	方形	280×290	K	東	105×100	○	N-92-E	8C後半	鍛冶炉1	市内遺跡群7
37	2010	54地点H37号住居	完掘	方形	434×524	K	北	70×86	○	N-13-E	8C1四半期		市内遺跡群9
38	2010	54地点H38号住居	一部	方形	(440)×468	K	東	95	○	N-107-E	8C1四半期	プラン確認	市内遺跡群9
39	2010	54地点H39号住居	完掘	方形	336×459	K	北	79×101	○	N-4-E	8C1四半期		市内遺跡群9
40	2011	55地点H40号住居	3/4	(方形)	(300)×(320)	K	東	95×123	○	N-90-E	9C前半		市内遺跡群10
41	2012	62地点H41号住居	3/4	(方形)	410×(300)	K	北			N-18-E			市内遺跡群12
42	2013	65・66地点H42号住居		方形	460×440	K	東	110×106	○	N-62-E	9C前半		市内遺跡群15
43	2013	66地点H43A号住居		方形	470×470	-	-	-	-	N-66-E	9C中葉前後以降		市内遺跡群15
	2013	66地点H43B号住居		方形	700×700	K	東		○	N-66-E	9C中葉前後以降		市内遺跡群15
44	2013	70・76地点H44号住居		(長方形)	(420)×340	K	北	80×65	○		8C前半		市内遺跡群18
45	2013	73地点H45号住居		不明	(238×125)				○		8C後半		市内遺跡群18
46	2013	75地点H46号住居		不明	(320×145)				○		8C前半～中		市内遺跡群18
47	2013	77地点H47号住居		不明	410×(95)	K	北	156×135	○		8C中～後半		市内遺跡群18
48	2015	85地点H48号住居	完掘	(長方形)	356×(270)	K	北	133×(96)	○	N-65-E	9C後半		市内遺跡群19
49	2015	85地点H49号住居	1/2	(長方形)	(225×70)	K	北	82×50		N-60-E	9C後半		市内遺跡群19

人力による調査は地山ローム層で遺構確認を行い、トレンチ2で古代の住居跡とみられるプランと焼土跡を確認した。トレンチ4では古代の住居跡と中近世以降の溝（溝1・3・4）を、トレンチ5～8でも溝（溝1～3）を確認した。現地表面から地山ローム層までの深さは約50～60cmであった。旧石器時代の確認調査は行っていない。

原因者と再協議の結果、トレンチ9は道路部分にあり、上下水道等の埋設が行われ遺跡への影響が避けら

れないため、原因者負担による本調査を行った。他の部分については、約30cmの盛土を行うため、遺跡への影響がないので、工事立会いの措置とした。

本調査は、溝3の確認された部分を重機で拡張し、10月20日～26日まで人力による調査を行った。機材等の撤去は30日に行った。

遺構平面図、全体図の作成には平板測量を行った。

Ⅲ 遺構と遺物

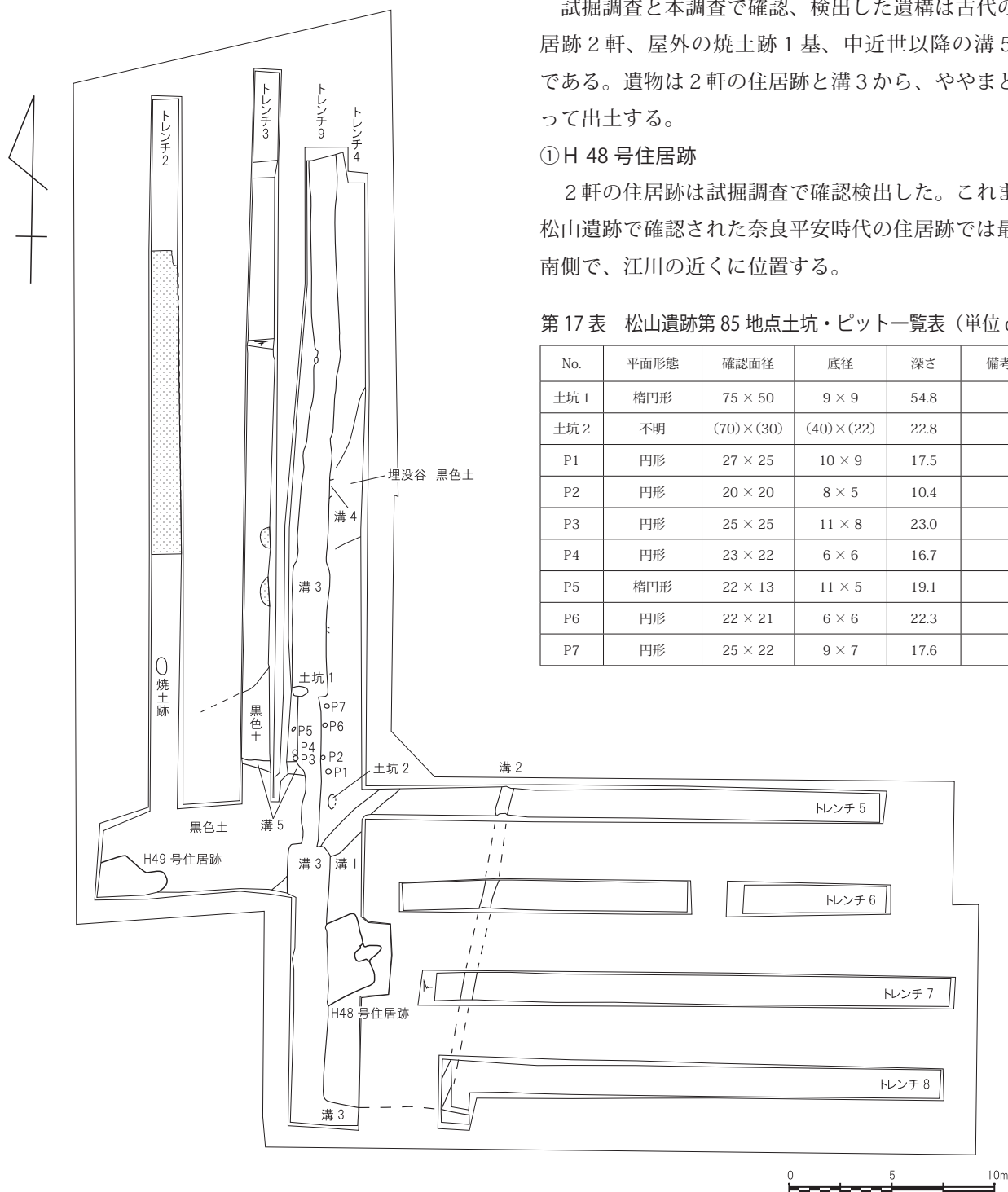
試掘調査と本調査で確認、検出した遺構は古代の住居跡2軒、屋外の焼土跡1基、中近世以降の溝5本である。遺物は2軒の住居跡と溝3から、ややまとまって出土する。

① H48号住居跡

2軒の住居跡は試掘調査で確認検出した。これまで松山遺跡で確認された奈良平安時代の住居跡では最も南側で、江川の近くに位置する。

第17表 松山遺跡第85地点土坑・ピット一覧表（単位 cm）

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
土坑1	楕円形	75×50	9×9	54.8	
土坑2	不明	(70)×(30)	(40)×(22)	22.8	
P1	円形	27×25	10×9	17.5	
P2	円形	20×20	8×5	10.4	
P3	円形	25×25	11×8	23.0	
P4	円形	23×22	6×6	16.7	
P5	楕円形	22×13	11×5	19.1	
P6	円形	22×21	6×6	22.3	
P7	円形	25×22	9×7	17.6	



第28図 松山遺跡第85地点遺構配置図（1/300）

【位置・時期】本住居跡は調査区の南部に位置し、溝3に切られるため、全容は不明である。出土遺物から9世紀後半頃とみられる。主軸方位はN-65°-E。
【形状・規模・掘方】平面形態は長方形を呈するとみられるが、溝3に切られるため全容は不明である。

検出部の規模は主軸の東西270cm以上×南北356cm、深さ17cmである。掘方は地山ローム層まで全体的掘り下げた後、貼床を行う。

【ピット】ピットは確認されなかった。

【竈】住居跡北壁中央部やや南寄りに位置する。天井は崩壊しており、袖の一部と奥壁を検出した。左袖の周辺には構築部材の灰色粘土がみられる。内部の中央に支脚が直立した状態で出土した。

竈残存部の長軸133cm以上、袖部の最大幅(96)cmである。竈内部は幅約40cm、奥行き約73cmで床面からの深さは約17.6cmである。煙道部は住居の壁を奥行き約85cm掘り込む。

【周溝】貼床後に周溝を掘り上げる。竈周辺部で途切れる。上幅21~35cm、下幅11~20cm、深さ5.8~8.7cmである。

【遺物出土状況】竈内と住居跡床面から出土する。

【遺物】(第32図1~4) 1は須恵器坏、2は土師器甕、3は支脚で4は土製品の焼粘土である。詳細は第18表参照。

②H49号住居跡

【位置・時期】本住居跡は調査区の南西端に位置し、調査区外に延び全容は不明である。出土遺物から9世紀後半頃とみられる。主軸方位はN-60°-E。

【形状・規模・掘方】平面形態は長方形を呈するとみられるが全容は不明である。

検出部の規模は主軸の東西70cm以上×南北(225)cm以上、深さ10.7cmである。竈と住居の北西隅の壁を検出したのみのため、掘方は不明である。竈前面の掘り込みはピットとした。

【周溝】周溝は確認されなかった。

【ピット】竈の前面に位置する。竈右袖と重なるため、柱穴ではなく、住居の掘方の一部と考えられる。

平面形態はほぼ円形を呈する。規模は確認面径50×45cm、底径20×9cm、深さ8.2cmである。

【竈】住居跡北壁に位置する。天井部、袖は確認されず、僅かに焼土の分布と掘り込みを確認した。

竈内部は幅約82cm、奥行き約50cmで床面からの深さは約3.3cmである。煙道部は住居の壁を奥行き約

50cm掘り込む。

【遺物出土状況】ピット内と住居跡内から僅かに出土する。出土遺物は第18表参照。

③焼土跡

調査区の中央部西寄りに位置する。焼土範囲はほぼ楕円形を呈する。焼土層の観察から古代以前と考えられる。焼土層を取り除いた規模は上端82×58cm、底径72×36cm、深さ7.5cmである。焼土範囲は45×(15)cmである。

④溝

溝は5本確認したが、溝4は断面だけを確認したため、土坑などの可能性も考えられる。溝3と溝5は切り合っており溝3が新しい。

【溝1】溝1と溝3は切り合っており、溝1が古い。溝1は調査区中央部に位置し北東から南西方向に延びる。断面は逆台形を呈する。規模は上幅54~115cm、下幅33~55cm、深さ32.8cmである。

【溝2】溝2は調査区中央部付近に位置し、調査区外まで延びる。南側では溝3と切り合い、溝2が新しい。断面は「U」字形を呈する。規模は上幅50~75cm、下幅32~35cm、深さ21~28cmである。

【溝3】溝1は調査区中央部を南北方向に直線的に延び、調査区南端で東にほぼ直角に曲がる。溝1、溝2、溝5と切り合っており、溝1・5より新しく、溝2より古い。

調査区中央部で、一部細く浅くなり陸橋状を呈する。深い部分の断面は逆台形を呈する。規模は深い部分が上幅130~190cm、下幅78~158cm、深さ43.2~62.6cmである。細くなった部分は上幅75~101cm、下幅36~45cm、深さ30cmである。細く、浅くなった部分の底部近くから遺物が僅かに出土する。第32図7~11で、第18表参照。

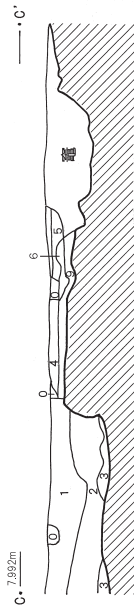
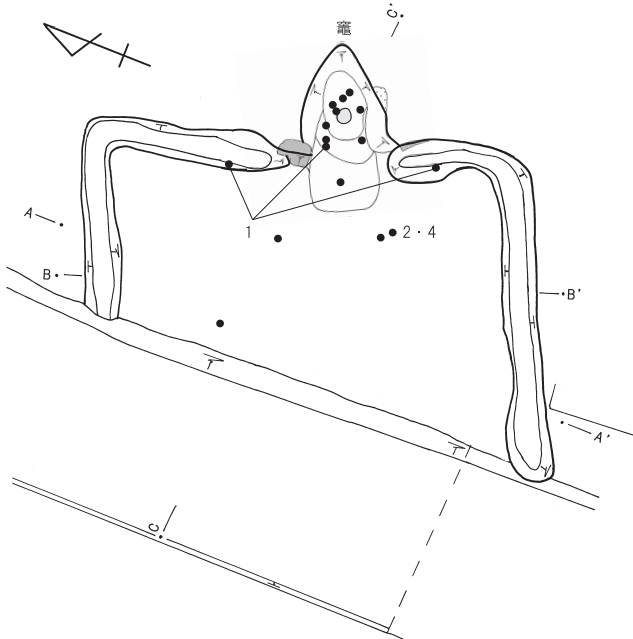
【溝4】溝2は溝3の検出時に、調査区東側の断面で確認した。断面は逆台形を呈する。規模は上幅146cm、下幅112cm、深さ30.5cmである。

【溝5】溝5は調査区中央部付近に位置し東西方向に延びる。溝3と切り合い、溝5が古い。断面は「V」字形を呈する。規模は上幅75cm、下幅45cm、深さ29.4cmである。

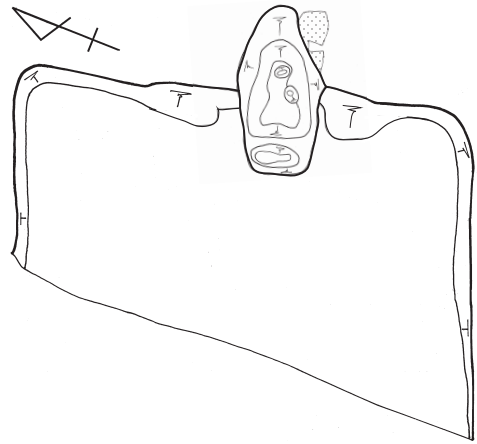
⑤土坑・ピット

土坑2基とピット7基は調査区中央部の溝3周辺に位置する。土坑、ピットともに覆土層の観察から、中近世以降とみられる。詳細については第17表を参照。

H48号住居跡



掘方

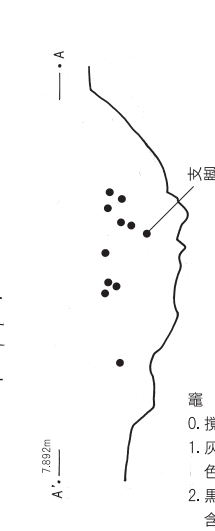
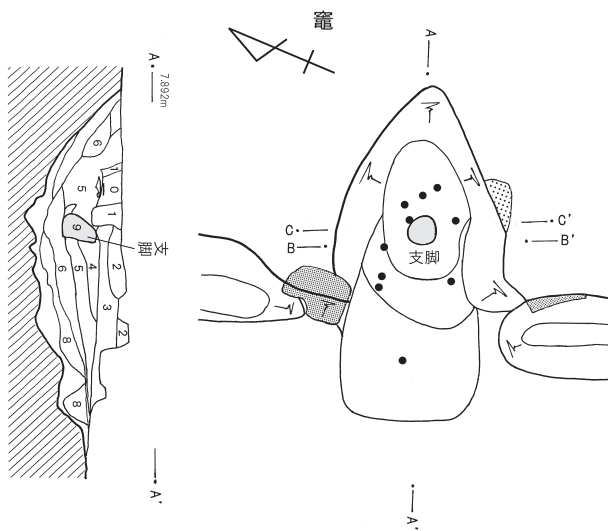
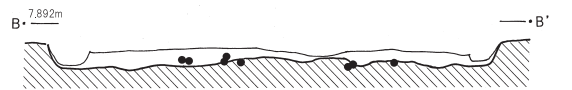
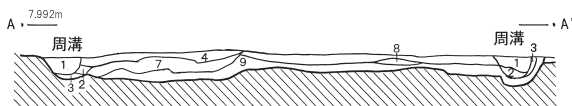


H48号住居跡

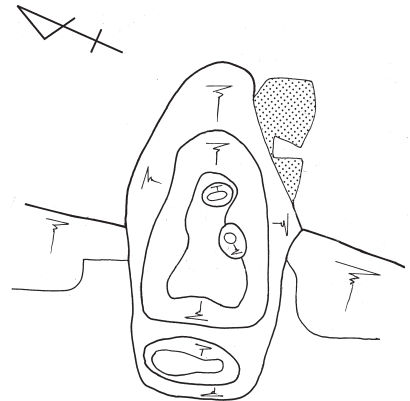
1. 黒褐色土 締り強、粘性弱、1～5mmのローム粒やや多量、酸化鉄少量含む
2. 黒褐色土 締りやや弱、粘性強、1～5mmのローム粒やや多量、酸化鉄含む
3. 黄褐色土 締りやや強、粘性強、ソフトローム層
4. 黒褐色土 締りやや強、粘性やや弱、1～5mmのローム粒少量、焼土粒微量に含む
5. 黒褐色土 締りやや強、粘性やや強、3～5mmのローム粒多量、竈構築土を微量に含む
6. 黒褐色土 締り強、粘性やや強、焼土少量、炭化物微量、竈構築土を含む
7. 黒褐色土 締りやや弱、粘性やや強、褐色土をシミ状に含む
8. 褐色土 締り強、粘性やや強、焼土少量、黒褐色土をまばらに含む
9. 暗褐色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム粒、2mm以下焼土粒・炭化物粒少し含む、上面に粘土・焼土・炭化物有り

周溝

1. 暗褐色土 締りやや強、粘性やや弱、5mm大のローム粒微量に含む
2. 暗褐色土 締りやや弱、粘性強、1～5mmローム粒少量、焼土粒微量、黒色土・ロームがブロックに含まれる
3. 暗褐色土 締りやや弱、粘性やや強、黒色土・ロームがブロック状に含まれる

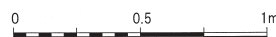
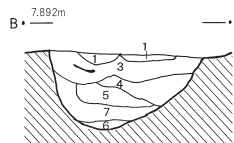


掘方



竈

0. 攪乱
1. 灰白色土 締り強、粘性有、3mm以下シミ状黒褐色土・暗赤褐色土を少し含む、竈構築粘土(粘土主体)
2. 黒色土 締り強、粘性有、1mm以下灰白色粘土・焼土粒極少し含む
3. 暗灰褐色土 締り強、粘性有、暗灰褐色粘土主体に2mm以下焼土・灰白色粘土粒多く含む(粘土主体)
4. 暗灰赤褐色土 締り強、粘性有、シミ状暗赤褐色土主体に2mm以下焼土粒多く含む
5. 黒褐色土+暗赤褐色土 締り強、粘性有、4層に類似だが黒色土主体で2mm以下焼土粒を4層より多く含む
6. 暗灰褐色土+黒褐色土 締り強、粘性有、灰白色粘土と黒色土主体に2mm以下シミ状焼土多く含む、6層上面が灰原燃焼面
7. 黒褐色土 締り強、粘性有、5層に類似するが、ローム粒・焼土粒はシミ状を呈する、灰原
8. 黒色土 締り強、粘性有、黒色土のみで、シミ状に5mm以下暗褐色土を極少し含む(竈の粘土)
9. 支脚



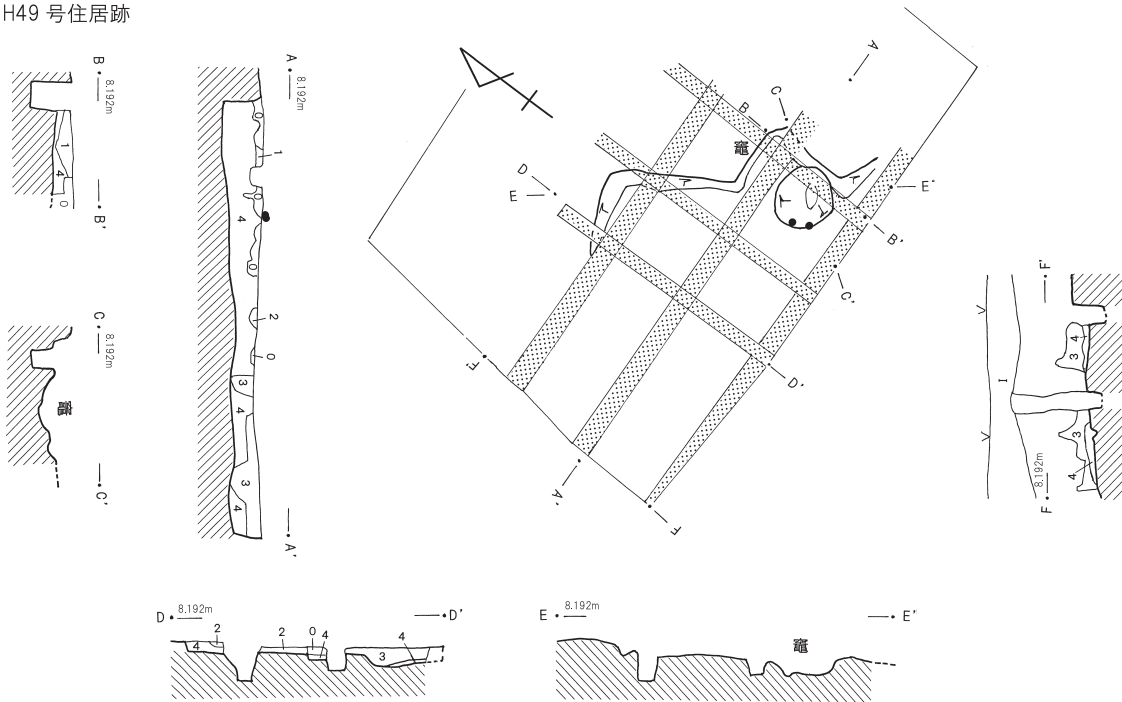
第29図 松山遺跡第85地点 H48号住居跡 (1/60)、竈・掘方 (1/30)

⑥出土遺物 (第32図1~14)

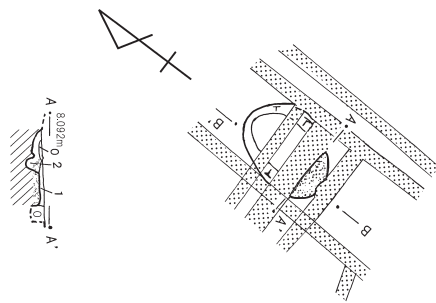
1~4はH48号住居跡、5・6はH49号住居跡

出土である。7~11は溝3出土である。12~14は遺構外出土である。詳細は第18表参照。

H49号住居跡



焼土



H49号住居跡

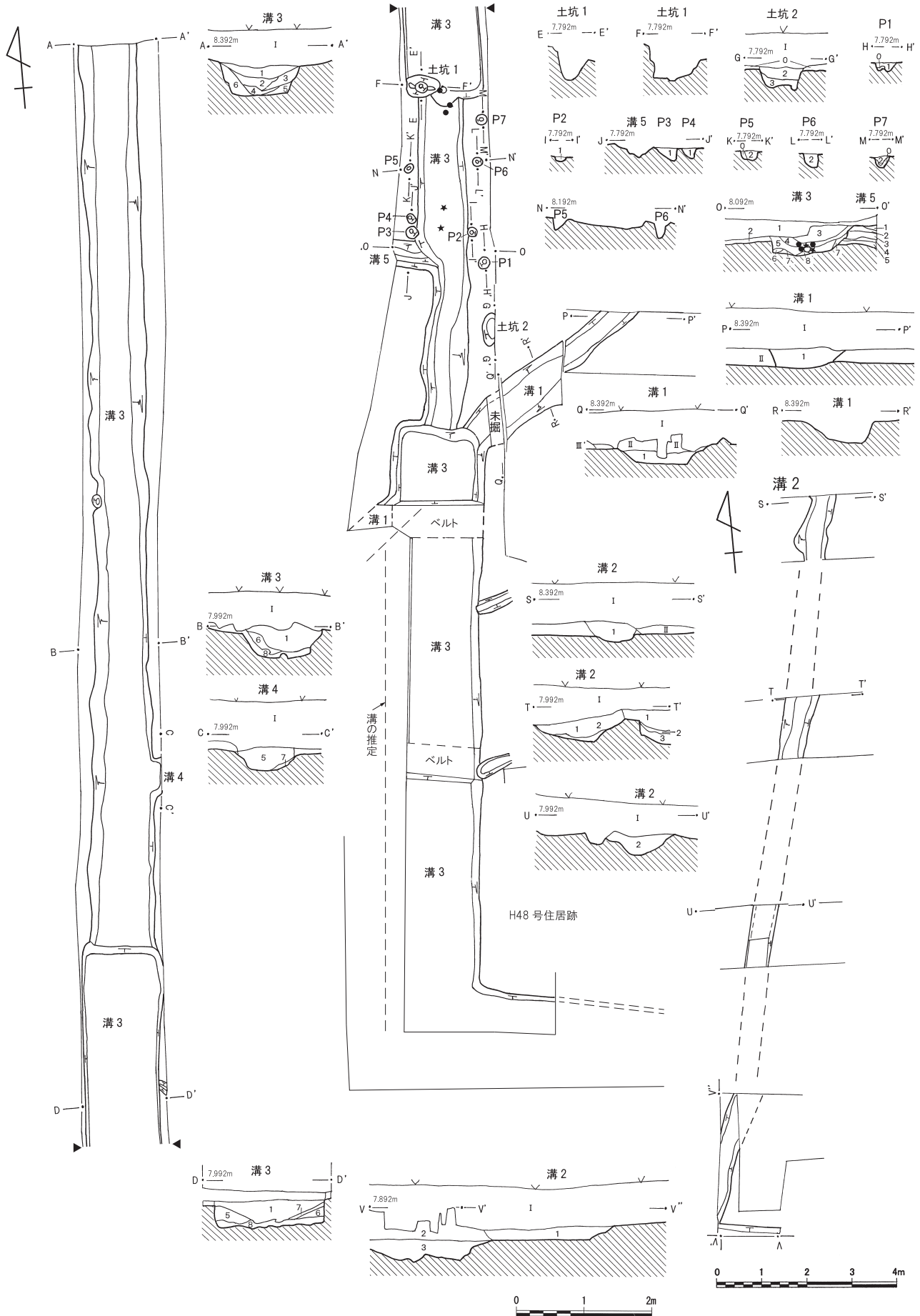
- 0. 攪乱
- 1. 暗褐色土 締り強、粘性有、1cm以下ロームブロック・1mm以下ローム粒・2mm以下炭化物少し、3cm以下焼土多く含む
- 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し、2mm以下焼土僅かに、黒色土シミ状に含む
- 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム粒僅か、黒色土シミ状に広がる
- 4. 黄褐色土 ローム層
- 焼土
- 0. 攪乱
- 1. 赤褐色土 締り強、粘性有、焼土硬化面
- 2. 暗褐色土 締り弱、粘性有、ローム主体に黒褐色土を少し含む

溝3~5 A-A' ~ D-D'

- I. 黒色土 締り弱、粘性有、表土 耕作土
- 1. 暗褐色土 締りやや強、粘性やや強、3~5mmローム粒を微量、酸化鉄粒少量含む
- 2. 暗褐色土 締り強、粘性強、3~10mmのローム粒・酸化鉄粒を少量含む
- 3. 暗褐色土 締り強、粘性やや弱、1~3mmのローム粒を多量に含む
- 4. 褐灰色土 締り強~弱、粘性やや強、ローム・黒色土がシミ状に入る、中央部締り弱い、酸化鉄粒少量含む
- 5. 暗褐色土 締りやや強、粘性やや弱、ローム粒多く、酸化鉄が筋状に入る
- 6. 暗褐色土 締りやや強、粘性強、1~10mmのローム粒多量に含む
- 7. 暗褐色土 砂質、2mm以下ローム粒多量に含む
- 8. 暗褐色土 締り強、粘性強、5cm以下ロームブロック主体で3cm以下黒色土をやや多く含む土坑2・ピット1~7 G-G' ~ M-M'
- 0. 攪乱
- 1. 暗褐色土 締りやや強、粘性有、5mm以下ロームブロック・2mm以下ローム粒多く、2mm以下酸化鉄少し含む
- 2. 黒褐色土 締りやや強、粘性有、5mm以下ロームブロック・1mm以下ローム粒少し、1mm以下酸化鉄僅かに含む
- 3. 黄褐色土 締り強、粘性有、ソフトローム主体、黒褐色土シミ状に含む
- 0-0' (溝3)
- 1. 攪乱土 締り弱、粘性有
- 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、2cm以下ロームブロック・1mm以下ローム粒少し含む
- 3. 黒褐色土 締りやや強、粘性有、5mm以下ローム粒多く含む
- 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、15mm以下ロームブロック・2mm以下ローム粒・1mm大酸化鉄粒子少し
- 5. 黒褐色土 締りやや強、粘性有、4層+8cm以下ロームブロック多く含む
- 6. 黒褐色土 締りやや弱、粘性有、2mm以下ローム粒、砂質土混
- 7. 暗褐色土 砂質、6層と比べ砂が多い
- 8. 黒褐色土 締り強、粘性有、ローム主体、5cm以下ロームブロック多く、黒色土がシミ状に入る、掘方覆土
- 溝1
- S-S'・P-P'・Q-Q'
- I. 黒色土 締り弱、粘性有、表土・耕作土
- II. 黒色土 締り強、粘性有、1mm以下のローム粒少し含む、埋没谷の覆土の可能性有り
- 1. 黒色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム粒極少し含む、住居と違って焼土含まない T-T'
- 1. 黒褐色土+褐色土
- 2. 黒色土 締り強、粘性有、III'のレンズ状堆積
- 3. 黒褐色土+褐色土 ロームブロック主体にシミ状黒色土多く含む U-U'
- 2. 黒色土 締り強、粘性有、2cm以下シミ状酸化鉄やや多く含む、1mm以下ローム、焼土粒極少し含む V-V'
- 1. 黒色土 締り強、粘性有、5mm以下シミ状酸化鉄少し含む、溝覆土
- 2. 黒色土 締り強、粘性有、1層に類似、1mm以下ローム・酸化鉄粒少し含む
- 3. 黒色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒少し、酸化した砂をやや層状に多く含む

第30図 松山遺跡第85地点 H49号住居跡・焼土 (1/60)、溝土層説明

溝1~5



第31図 松山遺跡第85地点土坑・ピット・溝 (1/120)、土層 (1/80)

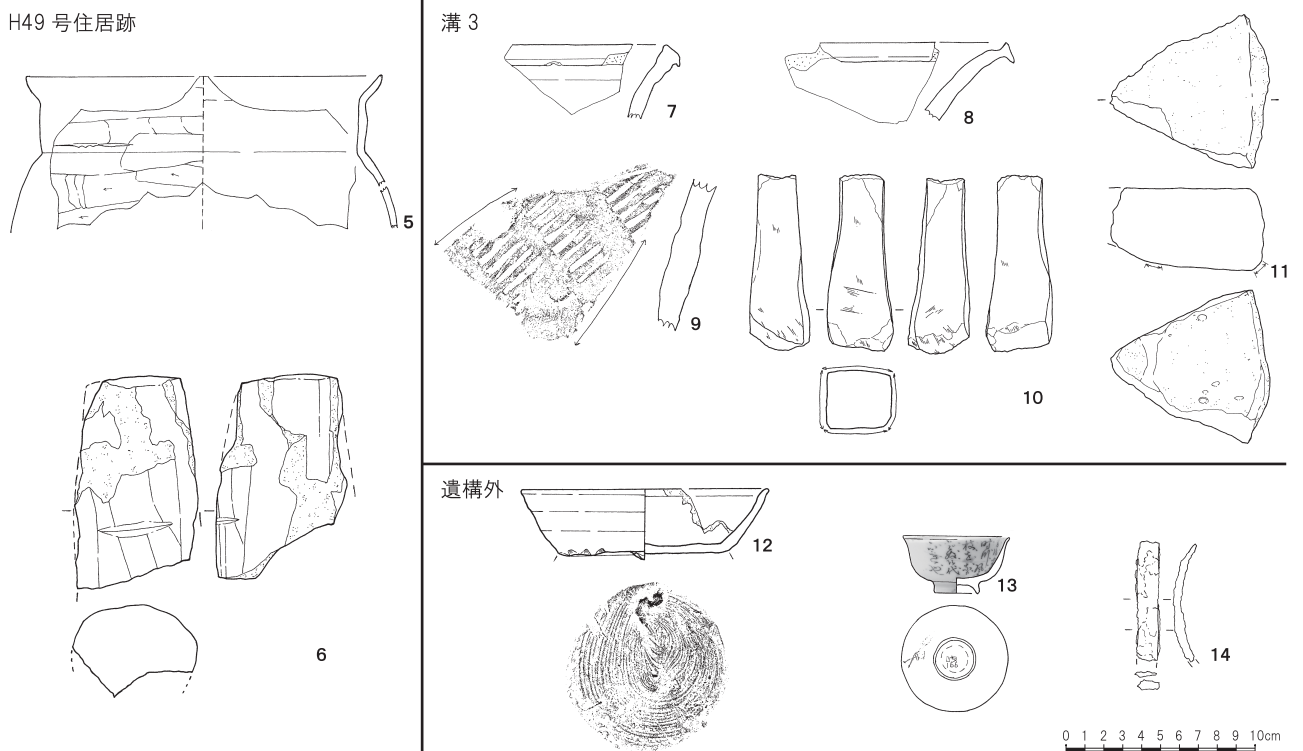
第 18 表 松山遺跡第 85 地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

図版番号・No	出土遺構名・層位	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・その他・注記 No	推定産地	推定年代
第 32 図 1	H48 号住居跡/床面	須恵器/環	(12.5)	底径:6.0 内底径:5.6	3.6	轆轤成形/底部右回転糸切離し/胎土:にぶい褐色・口縁部のみ褐色・細粒砂/No.3、5、7、10	東金子	9c 後半
第 32 図 2	H48 号住居跡/床面	土師器/甕	(18.1)	—	(7.2)	轆轤成形/内面ナデ、外面口縁部ナデ・頸部強いナデ、以下ケズリ/胎土:明赤褐色、中粒砂/器厚:0.3~0.5mm/No.1	—	9c 後半
第 32 図 3	H48 号住居跡/カマド	土製品/支脚	最小(6.0)	(9.2)	(17.7)	表面ケズリ調整/上部に煤付着、全体的に磨耗/胎土:橙色、細粒砂/重量:915.68g/No.19	—	—
第 32 図 4	H48 号住居跡/床面	土製品/粘土塊	4.0	4.0	2.6	胎土:橙色、細粒砂/重量:27.97g/No.1	—	—
第 32 図 5	H49 号住居跡/床面	土師器/甕	(18.8)	—	(8.0)	轆轤成形/内面ナデ、外面口縁部ナデ・頸部ケズリ後強いナデ、以下ケズリ/胎土:橙色、中粒砂/器厚:0.3~0.5mm/No.1	—	9c 後半
第 32 図 6	H49 号住居跡	土製品/支脚	(6.1)	—	(11.2)	表面ケズリ調整/上部破片/胎土:橙色、植物繊維含有か/2トレ3、H3	—	—
第 32 図 7	3号溝跡/覆土	須恵器/甕	—	—	(3.9)	轆轤成形/胎土:灰色、白色針状物質、石英粒/3M No.5	南比企	9c 後半
第 32 図 8	3号溝跡/覆土	須恵器/甕(転用砥)	—	—	(4.1)	轆轤成形/内外面に自然釉/割れ口に摩擦有り、転用砥/胎土:暗赤灰色、石英粒少量/3M	—	9c 後半
第 32 図 9	3号溝跡/覆土	陶器/甕(転用砥)	—	—	(7.8)	紐造り/内面ナデ、外面ナデ・タタキ目/胎土:表面灰黄色、内面灰色、細粒砂/3M No.4	常滑	中世
第 32 図 10	3号溝跡/覆土	砥石	9.3	3.55	3.2	60% 残存/石材:凝灰岩/色調:灰白色/重量:133.33g/3M No.1	—	—
第 32 図 11	3号溝跡/覆土	石臼	(8.1)	(8.4)	4.4	下臼?破片/石材:花崗岩/重量:378.0g/下面中央部・縁部摩擦/3M No.2	—	—
第 32 図 12	遺構外	須恵器/環	13.5	底径:8.5 内底径:(8.2)	3.4	轆轤成形/底部右回転糸切離し/胎土:灰白色、細粒砂/3トレ No.1	東金子	8c ~ 9c
第 32 図 13	遺構外	磁器/小環	5.6	2.2	3.0	轆轤成形/染付/『高砂』詩文・竹箒と熊手、高台内面に統制番号「岐 166」、畳付無釉/5トレ	瀬戸・美濃	1920 ~ 1940 年代
第 32 図 14	遺構外	鉄製品/不明	(6.3)	(1.4)	(0.6)	詳細不明、元は環状か/重量:(10.8g)/9トレ	—	—

H48 号住居跡



H49 号住居跡



第 32 図 松山遺跡第 85 地点出土遺物 (1/4)

第6章 苗間東久保遺跡第33地点の調査

I 遺跡の立地と環境

苗間東久保遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約600 m、さかい川の谷頭部から約1,800 m下った右岸、さかい川と浄禅寺川にはさまれた台地の縁辺に位置し、標高10～11 m、現谷底との比高差は1～1.5 mを測る。さかい川と本遺跡をのせる南側台地の間に緩やかな斜面を形成している。

周辺の遺跡は、さかい川上流に富士見市中沢遺跡、下流に富士見市外記塚遺跡、浄禅寺川対岸には浄禅寺跡遺跡がある。遺跡周辺は畑が多く見られたが、ふじみ野駅の開設に伴い、個人住宅などの小規模な開発が進みつつある。

本遺跡の最初の調査は1979年に開発に伴う緊急調査として行われた。2016年7月現在33ヶ所で試掘調査及び発掘調査が行われている。

これまでの調査で縄文時代早期の落とし穴や炉穴、中期後半～後期中葉の住居跡、落とし穴、土坑、集石土坑、ピット等が多数確認検出されている。



第33図 苗間東久保遺跡の地形と調査区(1/4,000)

II 本調査に至る経過と調査の概要

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2016年7月8日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部西寄りに位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2016年7月14日～25日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1～1.5 mのトレンチ7本を設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行った。その結果、縄文時代とみられるピット数基を確認検出した。現地表面から地山ローム層までの深さは約100 cmである。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。なお旧石器時代の確認調査は行っていない。

原因者と再協議の結果、住宅の建設には柱状改良を実施するため、遺跡への影響が避けられないことから、原因者負担による本調査を行った。

本調査は、トレンチ1・2の間と、トレンチ9の北側を重機で拡張し、7月28日～8月1日まで人力による調査を行った。なお、本調査に係る重機とオペレーターについては、土地所有者である株式会社堀井不動産からの提供と協力を得た。

遺構平面図、全体図の作成には平板測量を行った。

III 遺構と遺物

試掘調査と本調査で確認検出した遺構は縄文時代の落とし穴1基、ピット9基である。遺物はピット及び遺構外出土である。

① 落とし穴

調査区の北端に位置する。落とし穴の平面形態は長楕円形で、規模は確認面径290×57 cm、底径286×30 cm、深さ93.3 cmである。周辺の状況と土層の観察から縄文時代とみられる。

② ピット

ピットは9基検出した。土層の観察から縄文時代とみられる。各ピットの詳細は第20表を参照。

③ 出土遺物(第36図1～36)

1は落とし穴出土で、沈線間に地文LR縄文を充填し、沈線間は磨消す。2は胎土に金雲母を含み地文LR縄文を施す。3・5は無文、4は底部である。

7は口唇部内側に1本の沈線を巡らせ、外面に沈線文を施す。8は口縁部近くで、沈線の三角文を施す。9は無文の口縁部、11・12は沈線間を磨消す。10は2本組の沈線で斜行文か三角文とみられる。13は細沈線文を施す。14は地文が無節LR縄文。15は地文縄文に沈線文、16も沈線文を施す。17は朝顔形深鉢土器の口縁部である。口唇部に沈線を巡らせ、山形突起に円形刺突文を外側に4ヶ所、内面に2ヶ所施す。口縁上部は無文、下部に充填縄文で無節Lr縄文を施す。18は屈曲する口縁部に2本の平行沈線とその下に、竹管状工具を斜位に押圧する。19はLR多条縄文を口縁上部は横位にその下は縦位に施す。20～22は地文縄文に沈線文を施す。23は細沈線、24～27は沈線文、28は沈線文に磨消しを施す。29～32は無文である。33は無節縄文、34は無文の底部である。35は黒曜石製の石鏃で脚部の一部を欠損する。長さ1.75 cm、幅1.25 cm、厚さ0.4 cm、重さ0.68 gである。36はチャート製の石鏃である。長さ1.8 cm、幅1.3 cm、

厚さ0.35 cm、重さ0.65 gである。

1は称名寺1式。2は中期の阿玉台式。3、6、15、16、19、20～22、24～34は中期末から後期。4、5は不明。7、8、10、17は堀之内2式。9、11、12は堀之内式。13、23は堀之内から加曾利B式。18は堀之内1式。35、36は縄文時代である。

第20表 苗間東久保遺跡第33地点ピット一覧表(単位 cm)

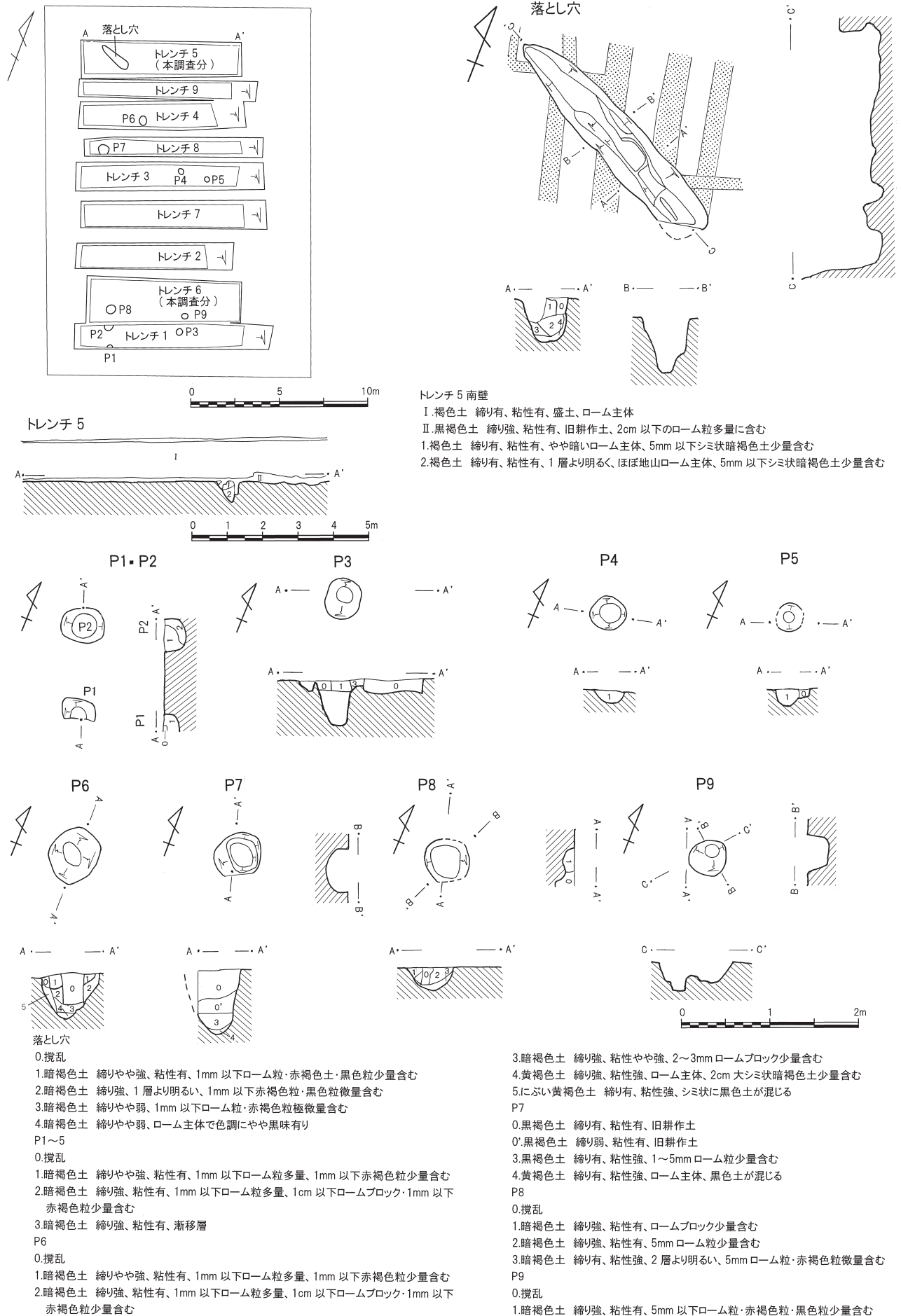
No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	不明	38×(24)	18×(14)	22.9	
2	円形	50×40	29×28	30.7	
3	楕円形	46×40	20×18	54.8	
4	円形	42×38	25×22	16.1	
5	円形	32×(30)	13×11	20.4	
6	楕円形	65×53	30×18	53.7	
7	円形	58×50	30×21	79.6	
8	円形	(50)×49	35×32	25.4	
9	円形	41×40	16×15	24.4	

第19表 苗間東久保遺跡調査一覧表

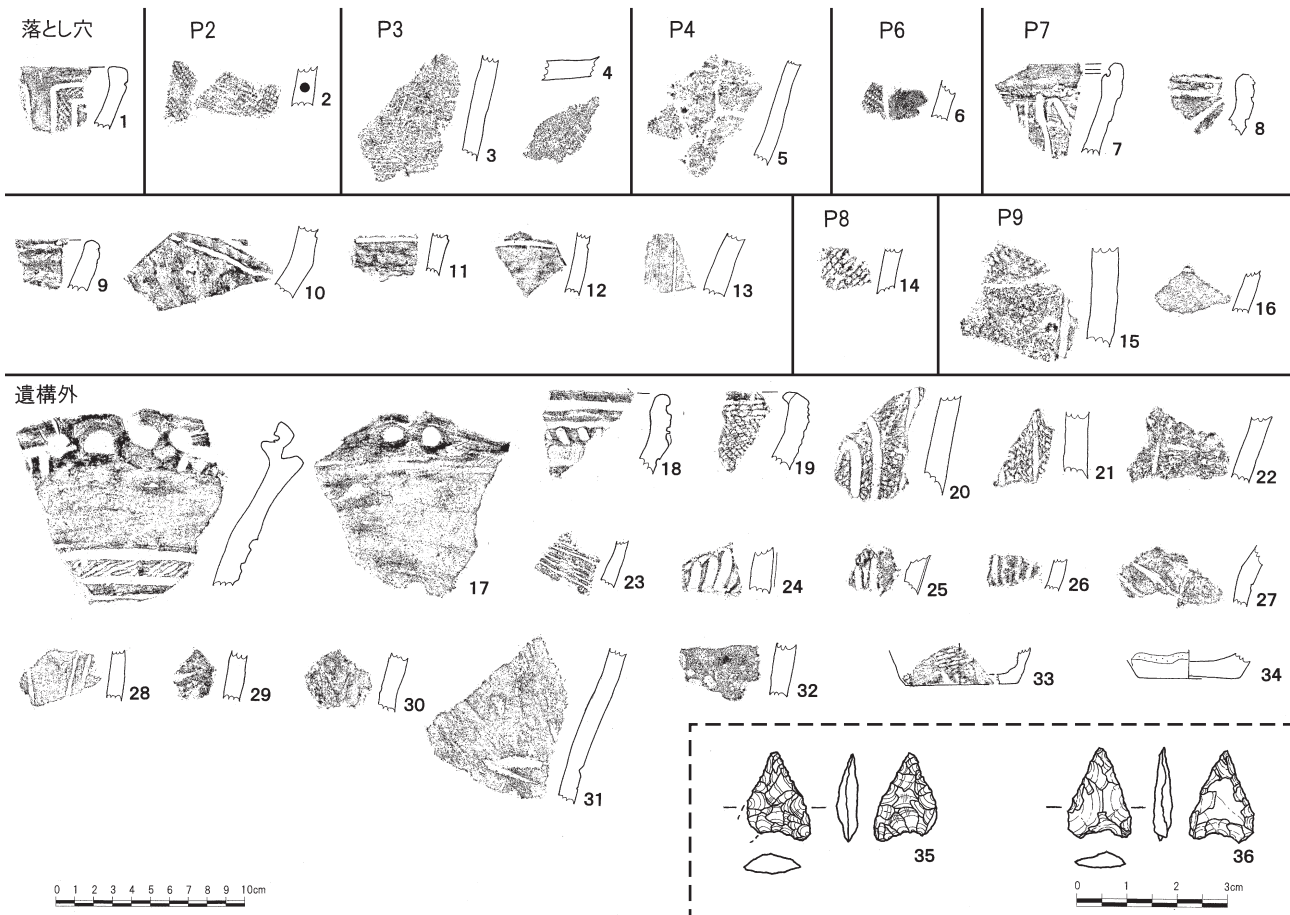
地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	大井町大字苗間字東久保 579-2～8	(1979.4.3～21)	605	共同住宅	炉穴10、土坑14、加曾利EⅡ式土器・石器	東部遺跡群Ⅰ
2	大井町大字苗間字東久保 646-6～10	(1979.9.4～10) 10.30～11.8	530	共同住宅	住居1、縄文中期後半土器	東部遺跡群Ⅰ
3	大井町大字苗間字東久保 642-11・12	(1980.4.7)	200	共同住宅	遺構なし、縄文土器細片	東部遺跡群Ⅱ
4	大井町大字苗間字東久保 642	(1980.4.16～5.10)	750	共同住宅	住居2、土坑6、縄文中期後半土器 他	東部遺跡群Ⅱ
5	大井町大字苗間字東久保 636-3	(1980.9.8～24)	106	共同住宅	炉穴2、集石1、土坑3、柱穴32、ピット6、縄文早期・後期土器	東部遺跡群Ⅱ
6	大井町大字苗間字東久保 639	(1980.11.27～12.26)	577		住居跡2、炉穴4、土坑23、柱穴群、縄文中期後半・称名寺式土器	東部遺跡群Ⅱ
7	大井町大字苗間字東久保 573-3	(1982.4.1～3)	396	共同住宅	遺構なし、縄文土器細片	東部遺跡群Ⅲ
8	大井町大字苗間字神明前 568-7～9	(1982.4.2～9)	360	共同住宅	遺構遺物なし	東部遺跡群Ⅳ
9	大井町大字苗間字東久保 642-1	(1982.11.8～12.5)	660	共同住宅	池状遺構、土坑1、縄文中・後期土器・石器	東部遺跡群Ⅴ
10		1984	340		土坑5、ピット45、縄文後期堀之内式土器	未報告
11		1984	560		遺構なし、縄文中期勝坂式土器 他	未報告
12		1984	320	共同住宅	遺構なし、縄文中期加曾利E式土器 他	未報告
13		1984	900		住居跡2、土坑88、ピット10、縄文堀之内式・加曾利B式土器	大井町史資料Ⅰ
14	大井町大字苗間字東久保 635	(1987.4.1)	923		土坑7、ピット92、平安以降ピット6、縄文後期土器	東部遺跡群Ⅹ
15	大井町大字苗間字東久保 635	(1988.12.8～14)	447	共同住宅	土坑7、ピット21、縄文後期称名寺式・堀ノ内式土器	東部遺跡群Ⅹ
16	大井町大字苗間 645-1	(1989.8.21～24)8.24	390	共同住宅	住居跡1、土坑2、縄文中期後半・後期前半土器	東部遺跡群
17	大井町大字苗間 636-4	(1991.3.12～15)	583	駐車場	土坑1、縄文前期・後期土器	町内遺跡群Ⅰ
18	大井町苗間字東久保 464,639 他	(1992.6.2～9)9.7～10.22	906	分譲住宅	住居跡3、落とし穴5、土坑11、ピット14、縄文前期土器	調査会報告5集
19	苗間 637-14～16	(1994.2.8～16) 2.16～3.25	350	宅地開発	住居跡1、落とし穴1、土坑5、ピット39、縄文早期後半・後期土器・石器・土製円盤	調査会報告12集
20	苗間 637-18・19	(1998.3.18～24) 6.15～8.13	664	個人住宅	土坑28、集石土坑5、ピット128、縄文後期土器、旧石器、泥面子	調査会報告12集
21	苗間字神明後 333-1	(1999.8.3～6)	350	個人住宅	土坑2、縄文土器・石鏃	町内遺跡群Ⅹ
22	苗間 645-11	(2001.10.25)	99	個人住宅	遺構なし、縄文土器	町内遺跡群ⅩⅠ
23	苗間字東久保 640-9	(2004.9.1)	104	個人住宅	遺構遺物なし	町内遺跡群ⅩⅡ
24	苗間東久保 637-1・28	(2006.3.7～4.20) 4.10～28	561	分譲住宅	縄文時代土坑10、ピット164、縄文早期前半～後期中葉土器・石器	市内遺跡群2
25	苗間字東久保 631-3	(2007.7.11～23)	414	分譲住宅	ピット4、縄文土器	市内遺跡群4
26	苗間字東久保 637-3・34	(2010.6.1～11) 7.2～23	429	分譲住宅	縄文後期住居跡1、土坑5、ピット99、風倒木痕1	市内遺跡群12
27						
28	苗間字東久保 644-1	(2011.7.21・22)	112	個人住宅	縄文時代ピット1、土器片	市内遺跡群14
29	苗間字東久保 630-1・3	(2011.7.28～8.1)	216	個人住宅	近世以降土坑1、ピット2、溝4、縄文土器、土製品	市内遺跡群14
30	苗間字東久保 641-3、644-4	(2011.8.22～24)	238	個人住宅	ピット5、縄文土器片	市内遺跡群14
31	苗間字東久保 644-6・7	(2014.1.20～28)	220	個人住宅	縄文時代土坑1、土器片	市内遺跡群18
32	苗間字神明後 334-1、335-1 他	(2014.3.6～27) 4.8～5.19	2,989	共同住宅	縄文時代炉穴、中世以降溝検出、本調査	市内遺跡群16
33	苗間字東久保 640-1・10・11	(2016.7.14～25)7.28～8.1	313	分譲住宅	縄文時代落とし穴1、ピット9、縄文土器、石器	市内遺跡群19



第34図 苗間東久保遺跡遺構分布図 (1/1,000)



第 35 図 苗間東久保遺跡第 33 地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)、土坑・ピット (1/60)



第36図 苗間東久保遺跡第33地点出土遺物 (1/4・2/3)

第7章 浄禅寺跡遺跡第40地点の調査

I 遺跡の立地と環境

浄禅寺跡遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約600m、浄禅寺川の湧水地南側から右岸の台地上に位置する。標高12～14mで現谷底との比高差は2mを測る。浄禅寺川はさかい川と砂川堀の間を東流し、さかい川に合流する。さかい川はやがて砂川堀に合流して新河岸川へと注ぐ。

周辺の遺跡は北西に神明後遺跡、北側に苗間東久保遺跡が隣接する。本遺跡は1989年に苗間東久保遺跡の一部を、浄禅寺川を境に分割して登録した。

遺跡周辺は市街化が進み、残された畑も周辺の区画整理の影響で開発が増加している。

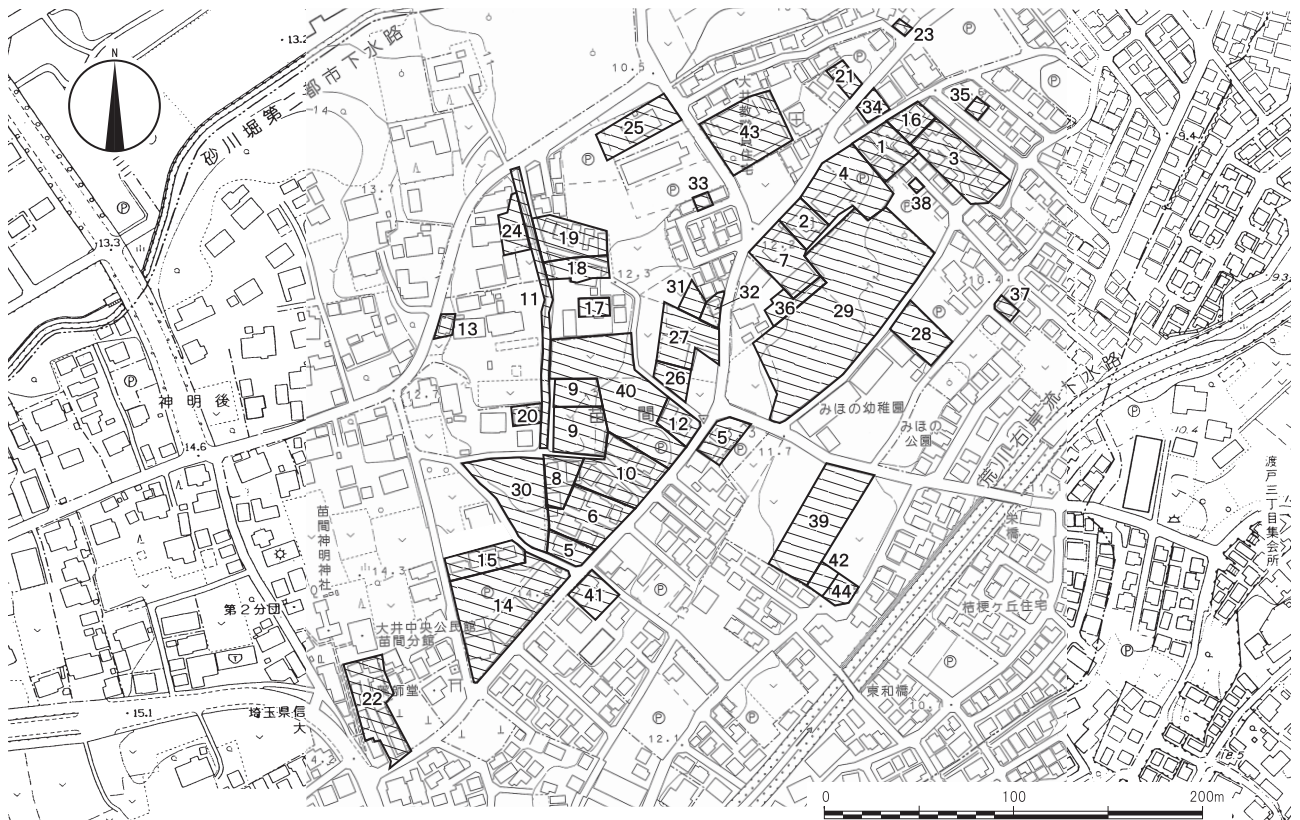
2015年11月現在40地点で試掘調査及び発掘調査を行い、縄文時代早期の炉穴多数、前期住居跡1軒、中期住居跡1軒、中・近世の薬研状の堀や、遺跡名の由来である浄禅寺墓域から土壌墓157基、一字一石経約76,000点が出土している。浄禅寺は江戸時代に建立されたが、幕末に焼失して以来再建されていない。

II 本調査に至る経過と調査の概要

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2015年7月9日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2015年8月19日～9月30日に試掘調査を実施した。試掘調査は、幅約1.5mのトレンチ13本を設定し、重機による表土除去後人力による調査を行った。人力による調査は地山ローム層で遺構確認を行い、トレンチ3・4で縄文時代の住居跡や集石土坑、トレンチ2・3・6・7・10で中近世の溝、トレンチ8・9で中近世のピット等を確認した。現地表面から遺構確認面の地山ローム層までの深さは約30cm～120cmであった。

原因者と再協議の結果、遺構の確認された部分のうち、道路築造部分と切土を行う部分について、遺跡への影響が避けられないため、原因者負担による本調査を行った。他の部分については、約15cm～162cm



第37図 浄禅寺跡遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第21表 浄禅寺跡遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積(m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	苗間東久保 579	1979.4.3～21	605	共同住宅	苗間東久保1地点として報告済み炉穴10、土坑14、縄文早期後半・中期	東部遺跡群I
2	苗間東久保 573	1982.4.1～3	396	共同住宅	苗間東久保7地点として報告済み遺構なし、磨耗縄文土器	東部遺跡群III
3	苗間東久保 581	1984.7.20・21	320	共同住宅	苗間東久保12地点を浄禅寺3地点とする遺構なし、縄文中期末	未報告
4	苗間神明後 346-1	1989.11.15～25	150	開発予定地	炉穴10、土坑7、ピット14、縄文早期後半・前・中期	東部遺跡群X
5	苗間 374-9	1991.8.28～9.3	100	個人住宅	遺構なし、縄文前期・中期土器片	町内遺跡群I
6	苗間 358-1	1991.9.21～12.26	826	個人住宅	遺構・遺物なし	町内遺跡群I
7	苗間東久保 573-4	1992.10.20～11.20	831	共同住宅	炉穴8、井戸3、堀3、縄文草～中期	調査会報告5集
8	苗間 357-1	(1994.9.20～27)	615	宅地分譲	落とし穴、根切溝	町内遺跡群IV
9	苗間 353	(1994.10.18)、2007.5.22～24	1,266	農地改良	土坑、溝、縄文土器、磁器	町内遺跡群IV、市内4
10	苗間 356-1	1994.10.31～11.2	999	宅地分譲	近世土壌墓、一石経埋納土坑、六道銭、江戸中後期	調査会報告12集
11	苗間 352-1 他	(1995.1.9～2.3)	572	道路	湧水口	町内遺跡群IV
12	苗間 35-95	1995.9.25～10.21	140	個人住宅	屋外炉、遺物集中3、ピット16、溝5、縄文中期土器、磁器	町内遺跡群V
13	苗間 314-2	(1996.1.8～29)	101	個人住宅	土坑13、ピット11、井戸1、溝2、縄文早～後期、陶磁器	町内遺跡群V
14	苗間 360-1,362-2	(1996.6.3～12)1996.6.18～7.11	2,178	個人住宅	礫群3、落とし穴1、溝4、ピット251、旧石器、縄文土器、陶磁器片	町内遺跡群VI
15	苗間 362-4・5	(1996.6.3～12)1996.7.12～8.2	494	分譲住宅	炉穴7	町内遺跡群VI
16	苗間 579-1	1997.11.10～12.19	291	個人住宅	縄文住居1、炉穴14、ピット61、土坑16、溝4、縄文早期後半、前期、中期	町内遺跡群VII
17	苗間 345-2・10	(1998.9.29～10.2)	877	個人住宅	遺構なし、縄文早期後半、中期後半	町内遺跡群VIII
18	苗間 345-3・4	(1999.5.26～6.24)1999.6.26～8.3	599	個人住宅	炉穴8、集石土坑3、土坑13、ピット27、溝縄文後期土器、土師器	町内遺跡群IX
19	苗間神明後 345-4	1999.8～9	703	分譲住宅	炉穴1、集石2、焼土痕4、土坑22、井戸2、溝8、掘立5、縄文早～晩期土器、石器、中近世陶磁器、板碑	調査会報告15集
20	苗間神明後 351-1	(2001.10.26～29)	223	倉庫	遺構なし、近世磁器	町内遺跡群XI
21	苗間東久保 591-3、592-7	(2001.11.19・20)	182	個人住宅	遺構なし、遺物なし	町内遺跡群XI
22	苗間 373-5・8、377-5・3・4	(2002.4.23～5.14)	935	分譲住宅	土坑1、ピット4、溝、遺物なし	町内遺跡群XII
23	苗間 592-1	(2003.4.28)	100	個人住宅	ピット2、溝、遺物なし	町内遺跡群XII
24	苗間神明後 346-1・2の一部	(2004.8.30・31)	391	個人住宅	遺構・遺物なし	町内遺跡群XII
25	苗間 339-1・2	(2004.9.22～10.12)	721	共同住宅	ピット2	町内遺跡群XII
25	苗間神明後 338-8、339-2	(2012.6.27)	844.8	個人住宅	遺構・遺物なし	市内遺跡群14
26	苗間神明後 354-2の一部	(2005.3.3～8)2006.4.17～28.6.7～15	216	分譲住宅	炉穴10、土坑8、ピット21、溝1、縄文中期片	市内遺跡群3
27	苗間神明後 354-2	(2005.12.1～2006.1.22)2006.1.23～2.23	696	道路・分譲住宅	住居跡1、炉穴15、埋裏2、土坑117、ピット127、溝1	市内遺跡群2
28	苗間東久保 719-7、720-1	(2007.1.23)	2,478	園舎改築	溝2	市内遺跡群3
29	苗間 570-1・2、571-1・2、575	(2007.8.7～9.21)2007.9.25～11.6	4,920	分譲住宅	掘立柱建物跡3、井戸15、土坑15、堀跡1、溝17、陶磁器・板碑他	市内遺跡群4
30	苗間 359-1	(2007.9.14～10.9)2007.10.9～11.2	1,298	分譲住宅	茶毘跡5、木炭窯1、土坑15、溝2、陶磁器・板碑他	市内遺跡群4
31	苗間字神明後 342-14一部	(2007.2.19)2007.2.19～3.5	171	個人住宅	住居跡1、炉穴1、土坑1、ピット26、縄文土器・石器	市内遺跡群4
32	苗間字神明後 340-17,342-10・15	(2007.2.25～3.4)	188	個人住宅	堀跡1、ピット1、縄文土器	市内遺跡群4
33	苗間字神明後 340-21	(2010.8.6)	76	個人住宅	土坑1	市内遺跡群10
34	苗間東久保 586-7,587-2の一部	(2012.8.24)	160	個人住宅	遺構・遺物なし	市内遺跡群14
35	苗間東久保 582-8	(2012.4.4)	80	個人住宅	ピット1、縄文土器片	市内遺跡群15
36	苗間東久保 573-5	(2012.8.6～9)2012.9.5～12	401	宅地造成	土坑2、ピット14、溝5	市内遺跡群15
37	苗間東久保 727-17	(2012.11.21)	100.52	個人住宅	遺構・遺物なし	市内遺跡群15
38	苗間東久保 578-11	(2013.5.14)	53.4	個人住宅	遺構なし、表採土器	市内遺跡群18
39	苗間 565-1	(2013.6.25～7.3)	1,709	分譲住宅	中世以降の溝、遺物なし	市内遺跡群18
40	苗間字神明後 355-1・2・12	(2015.8.19～9.30)2015.10.1～11.9	2,308.06	分譲住宅	縄文時代住居跡1、集石土坑3、溝6、土坑13、ピット51、地下式坑1、井戸1、縄文土器	市内遺跡群19
41	苗間字神明前 509-1・5	(2015.12.21)	349.73	分譲住宅	遺構・遺物なし	未報告
42	苗間字神明前 564-3の一部	(2016.4.8)	132.35	分譲住宅	土坑1、遺物なし	未報告
43	苗間字 589-1	(2016.6.20～24)	1,402	公園	遺構・遺物なし	未報告
44	苗間字神明前 564-5	(2016.7.4)	124.05	分譲住宅	溝1、遺物なし	未報告

第22表 浄禅寺跡遺跡住居跡一覧表

住居番号	調査年度	調査名	調査率	平面形 ()は推定	規模	炉			埋裏	周溝	主軸方位	時期	備考	文献
						地床	炉体	石囲						
1	1997	16地点1号住居跡	完掘	隅丸方形	295×290	○						前期中葉～後半		町内VII
2	2005	27地点2号住居跡	完掘	円形	260×265		○	○	○			加曾利EⅢ期		市内2
3	2007	31地点3号住居跡	完掘	円形	420×410				○2			加曾利EⅢ期		市内4
4	2015	40地点4号住居跡	完掘	円形	450×(450)	○			○2			加曾利EⅢ期		市内19



第 38 図 浄禅寺跡遺跡遺構分布図 (1/2,000)

の盛土を行うため、遺跡への影響がないので、工事立会いの措置とした。試掘調査では旧石器時代の確認調査は行っていない。

本調査は、遺構の確認された部分を重機で拡張し、10月1日～11月4日まで人力による調査を行った。重機による埋め戻し後、11月9日に機材等の撤去を完了した。

調査区をA区～D区の4区に設定した。A区は開発区域の南東端、トレンチ1から4の先端部。B区はトレンチ4の東部。C区は調査区中央部のトレンチ1からトレンチ5の範囲。D区はトレンチ8・9の一部とした。

調査はC区に5×5m方眼の区画を設定し、遺構の平面図作成と遺物の取り上げを行った。その他の調査区では平板測量を実施した。

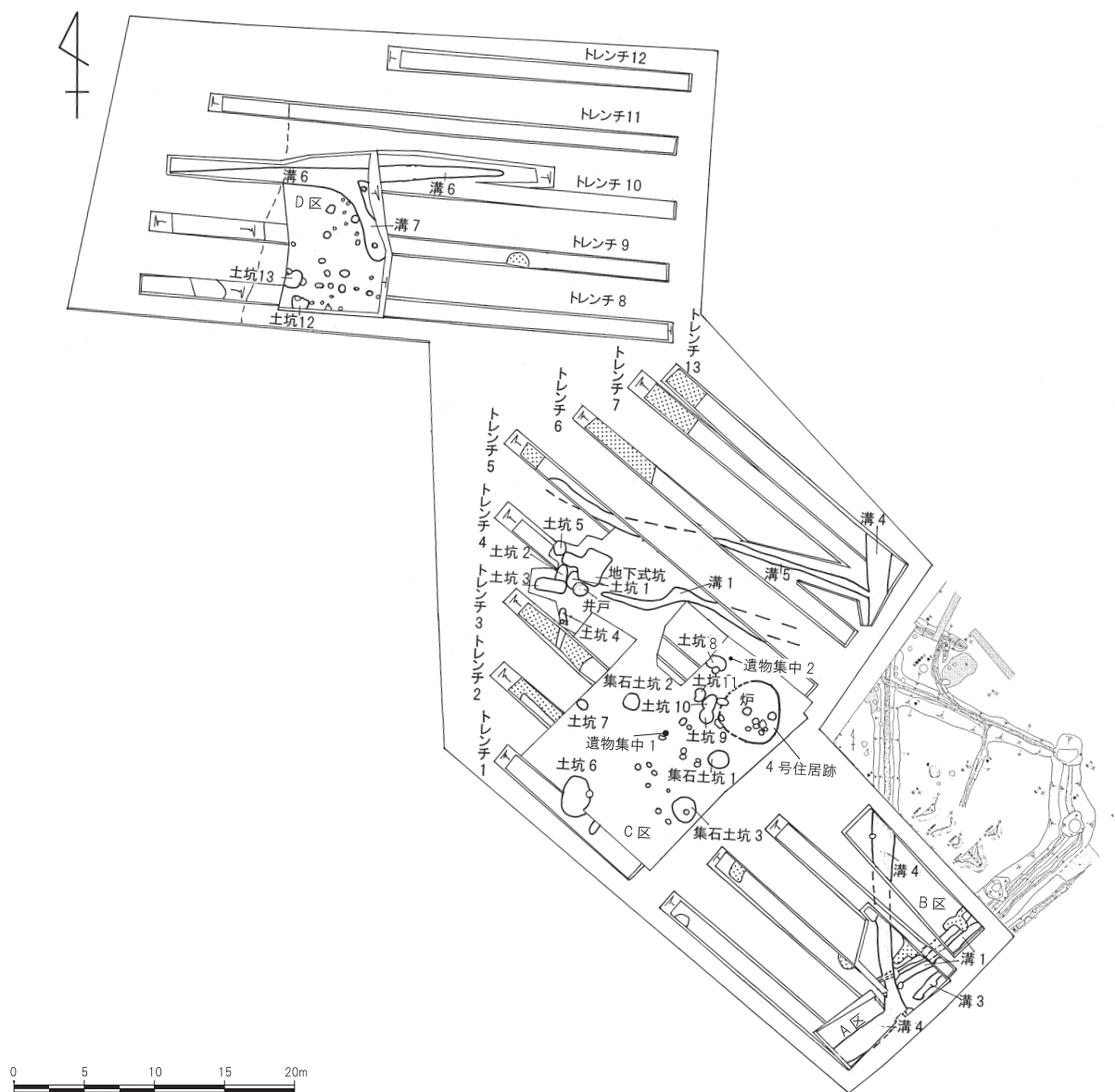
Ⅲ 遺構と遺物

試掘調査および本調査で確認検出した遺構は、縄文時代中期末住居跡1軒、集石土坑3基、土坑13基、ピット51基、地下式坑1基、井戸1基である。発掘調査段階では、縄文時代の住居跡は2軒としていたが、炉や柱穴、周溝の有無等から4号住居跡1軒とした。

縄文時代の遺構である4号住居跡や集石土坑等の遺構は、浄禅寺川と砂川堀の間の台地が馬の背状に延びる平坦部に広がる。これまでの調査でも、縄文時代前期黒浜式住居跡を北端で、縄文時代中期の住居跡2軒を中央部で検出しており、今回の調査でも新たに1軒検出された。

① 4号住居跡

【位置・時期】調査区の中央部に位置する。西側の半分は削平されている。加曽利EⅢ期。



第39図 浄禅寺跡遺跡第40地点遺構配置図 (1/500)

【形状・規模】平面形態はほぼ円形を呈するとみられる。規模は、南北に450 cm、東西(450) cm、深さ24.5 cmである。周溝はない。

【炉】炉は住居跡中央部に位置する地床炉である。削平により楕円形の焼土範囲を確認した。焼土範囲の規模は53×41 cm、焼土の厚さ5～8 cmである。

【埋甕】埋甕は住居内の北西部に、2基が南北に並んで位置する。北側を埋甕1、南側を埋甕2とした。

埋甕1は土器の底部を下にした正位置の状態で見設する。土器の上部と胴部の一部は削平され欠損する。掘方はほぼ円形で上端径(31)×40 cm、下端径(27)×27 cm、深さ13.7 cmである。

埋甕2は胴部から底部を欠損する土器を、口縁部を下にした逆位置の状態で見設する。北側の半分は耕作で削平され欠損する。

掘方はほぼ楕円形で上端径39×34 cm、下端径10×10 cm、深さ12.7 cmである。

【柱穴】柱穴は9本検出した。主柱穴はP4・5～9とみられる。各ピットの詳細は第23表のとおりである。

【遺物出土状況】住居跡床面から覆土層にかけて埋甕1・2周辺に僅かに出土する。

【出土遺物】(第42図1～20) 1は埋甕1で、口縁部無文で一对の環状把手(耳)をもつ。口縁部下に隆帯の楕円形区画を配し、中に地文LR縄文を施す。胴部以下は地文条線文を施す。胴部最大径41 cm、底径7 cm、残存部高30.5 cmである。

2は埋甕2で口縁部に隆帯で波状文を配する。隆帯で区画した上部に地文RL縄文を横位に、胴部は縦位に施し、2本組沈線の懸垂文間を磨り消す。推定口径35 cm、残存部高26 cmである。

3は隆帯の区画内にLR縄文を施す。4は口縁部無文で頸部に横位沈線を巡らせ、胴部に6～7本単位の地文条線を配する。5は口縁部無文で地文RL縄文を施す。6は波状口縁で、口縁部は無文、横位沈線の区画内には地文縄文を施す。7は地文RL縄文に沈線区画文を配する。8は口唇部直下の横位沈線に円形刺突

文を施し、地文RLR複節縄文を施す。9は地文条線で波状口縁か。10は微隆起線文に摘み上げた突起が付き、地文はLR縄文と磨り消しを施す。

11は地文RIに微隆起線文と幅広磨り消しを施す。12は地文RLに沈線と幅広磨り消しを施す。13も地文縄文に微隆起線文と幅広磨り消しを施す。14は沈線文と幅広磨り消し、15は磨り消しを施す。16・17は地文条線。18は沈線文間に竹管状工具の刺突を施す勝坂Ⅲ式。

19は無文、20は沈線の懸垂文と磨り消しを施す。1、2は加曾利EⅡ式新相からⅢ式。4～17、19・20も加曾利EⅡ式新相からEⅣ式である。3はピット9出土、6・11・16・18～20はトレンチ一括出土遺物。4・5は埋甕1出土、他は住居跡出土である。

第23表 浄禅寺跡遺跡第40地点4号住居跡ピット一覧表(cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考(旧名称)
1	楕円形	49×32	31×19	20.8	
2	不明	(79)×47	47×25	35.1	動物穴
3	不明	50×(23)	30×(9)	22.3	
4	円形	33×33	18×14	37	旧P36
5	円形	32×26	22×12	22	旧P37
6	楕円形	39×27	14×11	68.6	旧P35
7	だるま形	80×38	16×15	21.7	仮2住P7
8	不明	37×(26)	26×(19)	10	仮2住P8
9	不明	51×(37)	12×10	41.1	仮2住P4

②集石土坑

集石土坑はC区、台地の平坦部から北側に傾斜する部分で3基を検出した。出土遺物から縄文時代中期と考えられる。

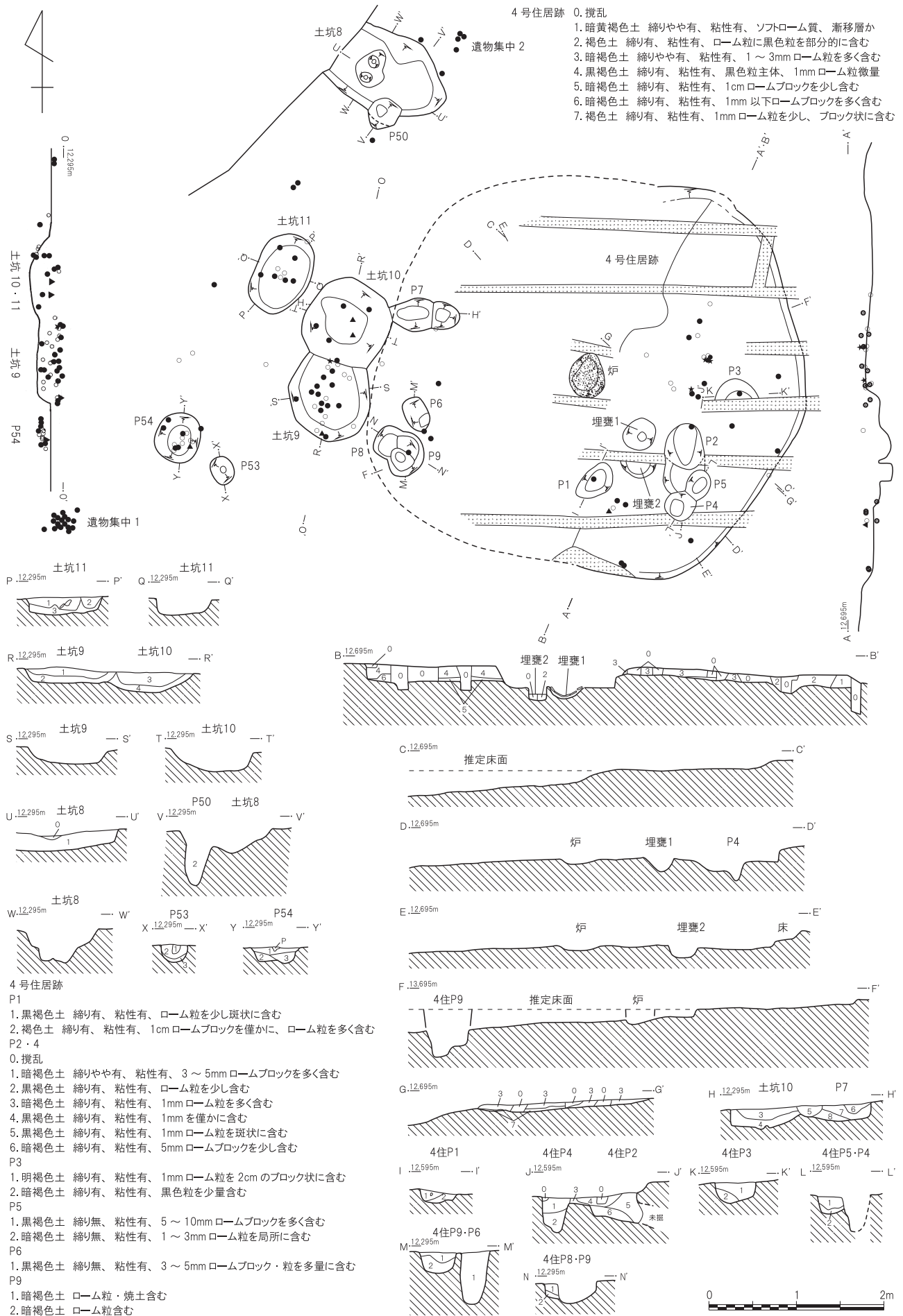
集石土坑から出土する礫は集石土坑2が最も多く次いで集石土坑1と集石土坑3である。集石土坑1～3の平面形態は円形もしくは楕円形である。集石土坑の詳細及び出土礫については、第24表を参照。

③地下式坑

調査区C区に位置し、井戸1、土坑1・2と重複す

第24表 浄禅寺跡遺跡第40地点集石土坑・出土礫観察表(単位cm・個数・g(%))

№	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考	総点数	総重量	平均重量	破損数	完形数	焼成数	未焼成数	タール・煤付着数	タール・煤未付着数
1	円形	131×127	49×49	38.4		708	61,205.67	86.45	645(91.10%)	63(8.90%)	157(22.18%)	551(77.82%)	226(31.92%)	482(68.08%)
2	不明	(105)×79	(68)×38	19.8		1,193	78,035.33	65.41	979(82.06%)	214(17.94%)	370(31.01%)	823(68.99%)	398(33.36%)	795(66.64%)
3	楕円形	189×135	181×123	9.8		23	1,394.98	60.65	12(52.17%)	11(47.83%)	11(47.83%)	12(52.17%)	10(43.48%)	13(56.52%)



第40図 浄禅寺跡遺跡第40地点4号住居跡・土坑①・ピット①・遺構外遺物集中1・2 (1/60)

る。土層の観察から井戸1、土坑1・2より地下式坑の埋没が新しい。遺物は入口部の覆土の下層から常滑産甕の破片が比較的まとまって出土する。

地下式坑の平面形態は凸形で、方形の入口を西側に持ち、室部は長方形を呈する。入口部と室部の間に小ピット1基が存在する。ピットは円形で規模は上端10cm、深さ21.6cm。入口部、室部ともに底部はほぼ同じ高さで平坦である。

遺構長軸3.12×短軸2.45m、室部長軸2.35～2.5m×室部短軸1.45～1.9m、室部底面1.75×2.33m、深さ1.51mである。

入口部長軸1.3m×入口部短軸0.9m、入口部底面0.82×0.87m、深さ1.47mである。

④井戸

調査区C区に位置し地下式坑と重複する。土層の観察から井戸の覆土層より地下式坑の覆土層が新しい。

平面形態は円形で、規模は確認面径108×97cm、底径37×29cm、深さ209.7cmである。底部より25～50cm上層でややまとまった常滑産甕の破片が出土する。風炉とみられる破片は、地下式坑覆土層出土のものと同一体である。

⑤土坑

土坑は調査区C区で縄文時代3基と中近世期2基、調査区D区で中近世期2基が検出された。また、地下式坑と井戸の周辺から中近世期の土坑4基が検出された。土坑8～10は調査段階では住居跡としていたが、土坑に変更した。土坑2からまとまった炭化物が出土し、茶毘跡の可能性も考えられるが、骨らしきものは出土していない。各土坑の詳細は第25表を参照。

⑥ピット

調査区C区、D区で縄文時代と中近世期のピットが

まとまって検出された。ピットの配置から掘建柱建物跡とみられるものはない。各ピットの詳細は第26表を参照。

⑦溝

溝は6本(溝1・3・4・5・6・7)を検出した。名称については、隣接する第12地点の名称をそのまま使用した。溝1と溝5は第12地点からの続きである。溝4と重複するが、溝4が古い。溝6と溝7については、新旧関係は不明である。

溝4は第10地点および第12地点の調査でも確認されている。第10地点では、西側道路に沿うように「く」の字形に延びており、今回の調査で東側も「く」の字形に北方向へ屈曲するのが確認された。浄禅寺に関する何らかの溝と考えられてきたが、その可能性が一層強くなった。

【溝1】断面形態は浅い「U」字状で上幅29～100cm、下幅12～30cm、深さ36.8cmである。

【溝3】断面形態は浅い皿状で上幅44～81cm、下幅22～50cm、深さ20.8cmである。

【溝4】断面形態は葉研状で上幅69～180cm、下幅20～81cm、深さ130.9cmである。

【溝5】断面形態は「U」字状で上幅34～62cm、下幅7～17cm、深さ35.5cmである。

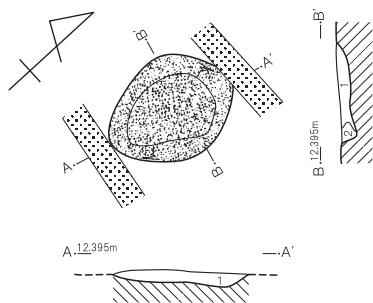
【溝6】断面形態は「L」字状で上幅42～95cm、下幅20～53cm、深さ64.1cmである。

【溝7】断面形態は浅い皿状で上幅74～131cm、下幅51～105cm、深さ29.4cmである。

⑧遺構外遺物集中1・2

本調査において調査区C区で遺物が集中して出土するのが確認された。調査段階では縄文時代の住居跡と考えたが、炉跡や他の施設が確認されないため、遺構

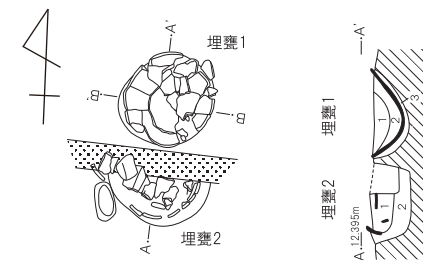
炉



炉

- 1. 明褐色土 締り有、粘性有、1～2mmハードローム粒を多く、焼土粒を微量に含む
- 2. 黒褐色土 締りやや有、粘性有、黒色粒を少し、ローム粒を僅かに含む

埋甕1・2



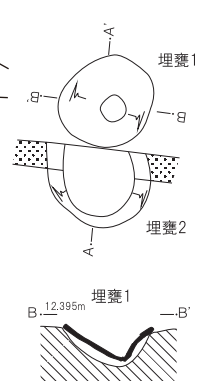
埋甕1

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム粒少し含む
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状の2mm以下ローム粒やや多く含む、1層より色調明るめ
- 3. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、1cm前後の円礫を少し含む

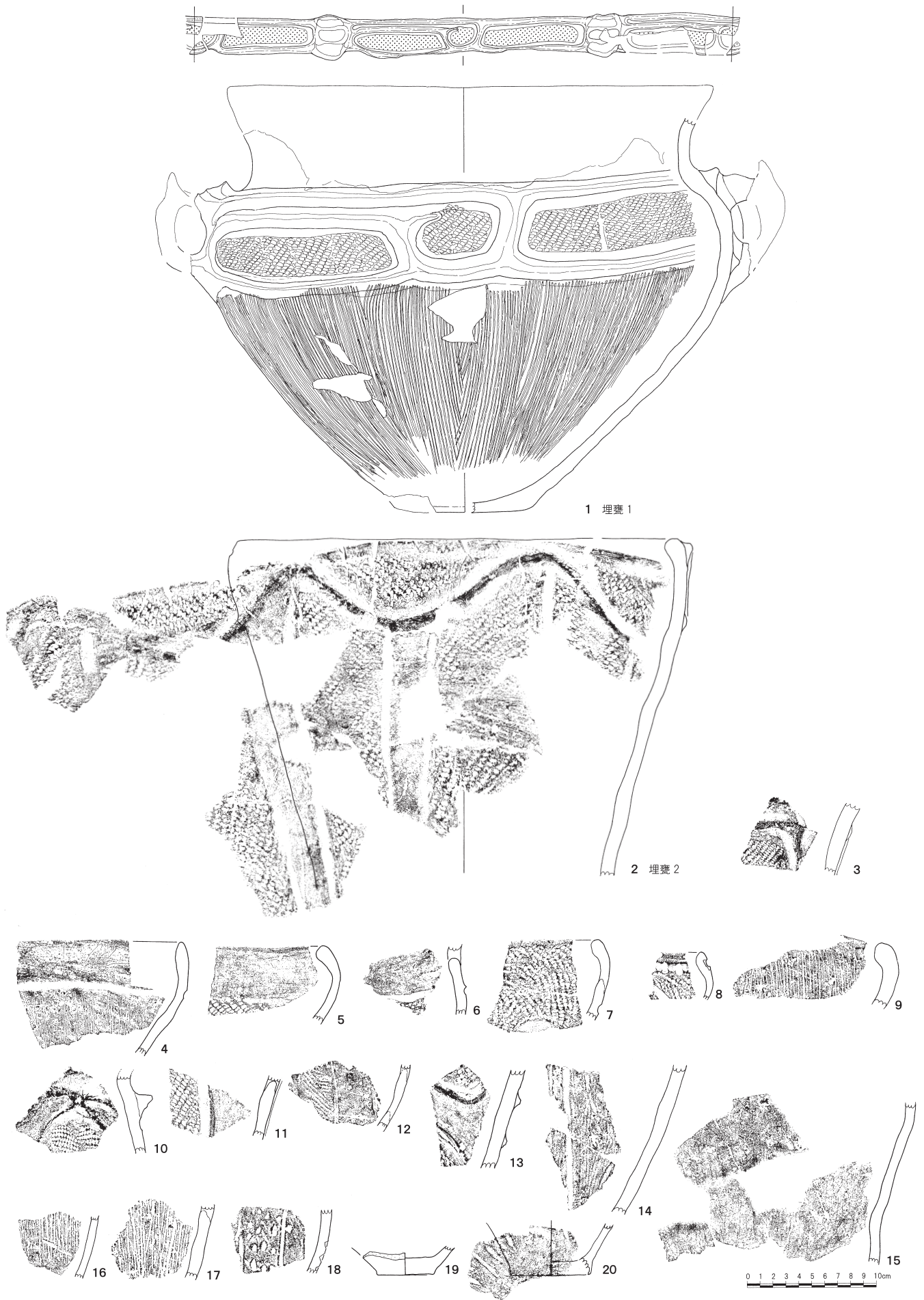
埋甕2

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状の2mm以下ローム粒少し含む
- 2. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、うすら斑状に黒褐色土を含む、1cm前後の円礫を少し含む

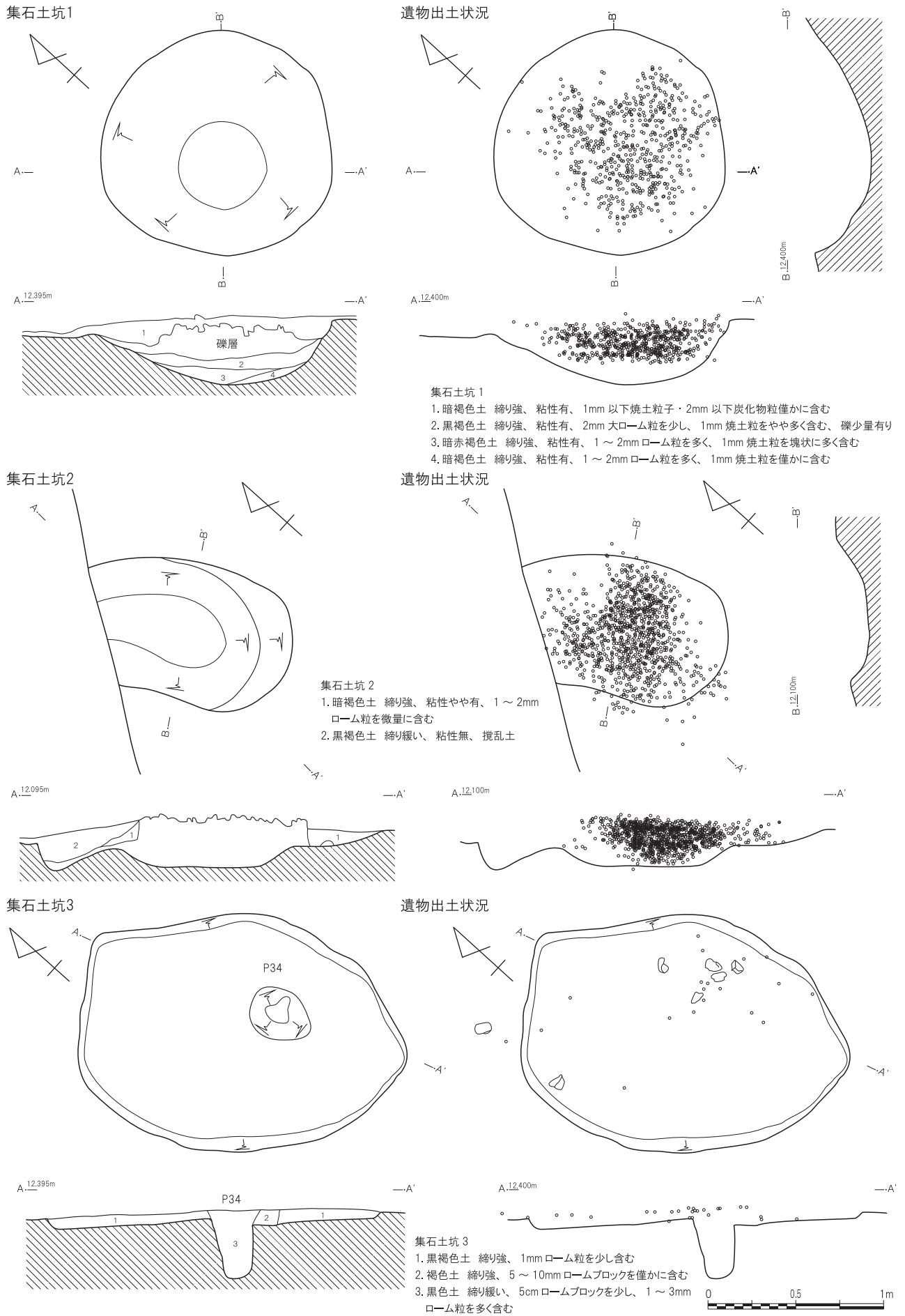
埋甕1・2 掘方



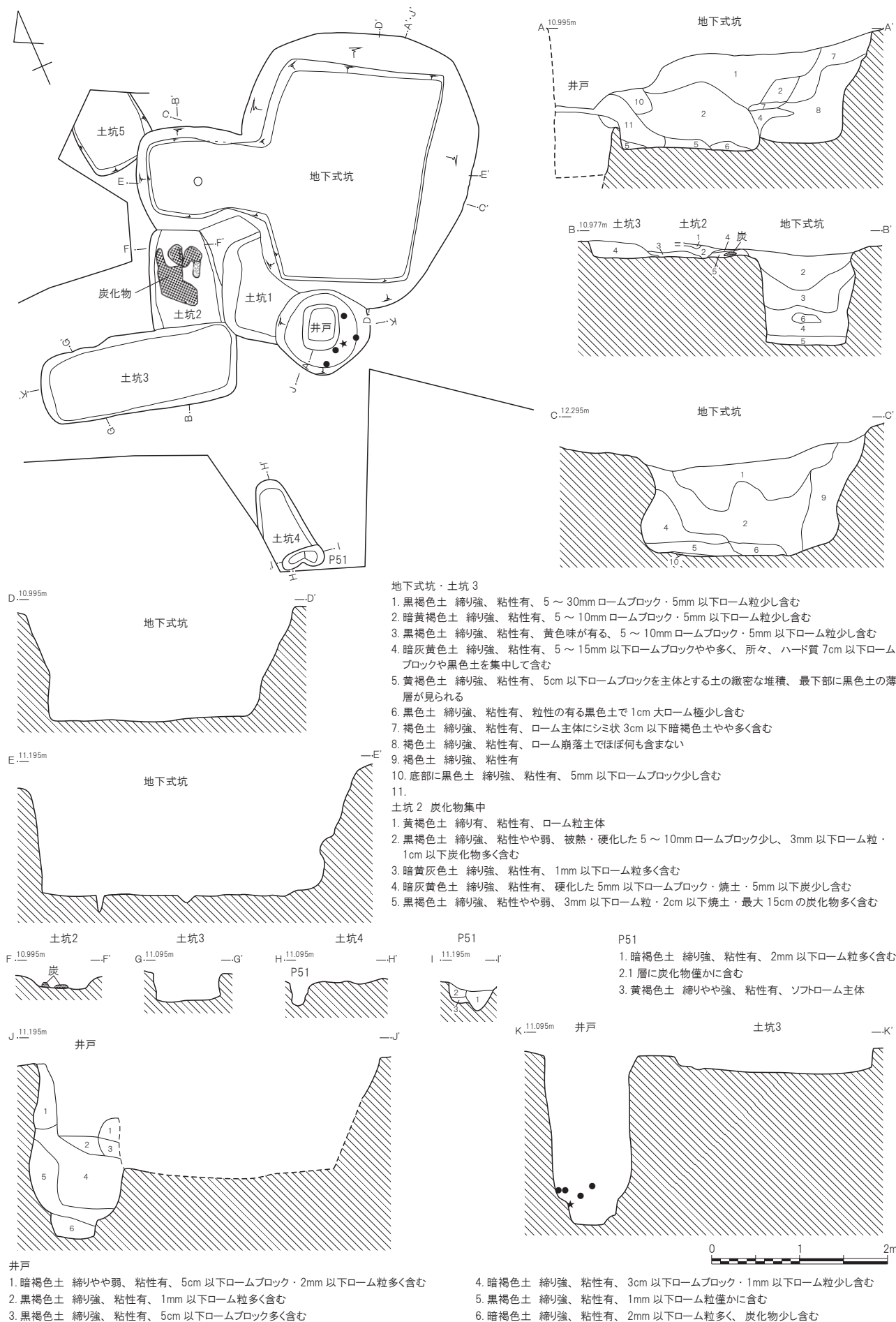
第41図 浄禅寺跡遺跡第40地点4号住居跡炉・埋甕・掘方 (1/30)



第42図 浄禅寺跡遺跡第40地点4号住居跡出土遺物 (1/4)



第 43 図 浄禅寺跡遺跡第 40 地点集石土坑 1~3 (1/30)



第44図 浄禅寺跡遺跡第40地点地下式坑・井戸・土坑②・ピット② (1/60)

第 25 表 浄禅寺跡遺跡第 40 地点土坑一覧表 (cm)

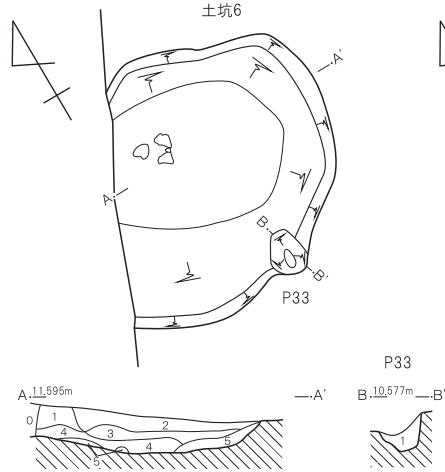
No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	不明	125 × (87)	110 × (67)	26.9	地下式坑・井戸と重複、土坑 2・3 と接する
2	不明	(107) × 80	(107) × 80	18.6	地下式坑・土坑 1 と接する、土坑 3 と重複
3	隅丸長方形	226 × 89	210 × 74	38.6	土坑 1 と接する、土坑 2 と重複
4	不明	(87) × 50	(77) × 43	9.7	P51 と重複
5	不明	(95) × 83	(91) × 73	24.3	
6	楕円形	270 × (205)	(135) × 112	63.8	
7	円形	85 × 80	45 × 39	36.8	
8	不明	(128) × 86	(117) × 64	42.5	P50 と重複
9	不明	93 × (90)	(74) × 67	20.2	旧仮 2 住 P5、土坑 10 と重複
10	不明	98 × 95	64 × 44	27.5	旧仮 2 住 P6、土坑 9 と重複
11	楕円形	94 × 64	75 × 50	20.4	旧仮 2 住 P3
12	不明	125 × (83)	105 × (64)	24.5	旧土坑 9
13	不明	126 × 113	114 × 96	31.6	旧土坑 10

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
16	方形	29 × 27	20 × 15	23.5	溝 7 内
17	(楕円形)	(53) × 38	19 × 10	50.3	
18	(円形)	(31) × (31)	7 × 4	24.1	
19	方形	27 × 25	15 × 10	28.2	
20	円形	38 × 37	25 × 22	12.4	
21	円形	25 × 18	14 × 8	10.3	
22	(隅丸方形)	(56) × (52)	20 × 19	34.3	
23	円形	21 × 18	7 × 7	20.3	
24	円形	23 × 20	10 × 9	30.9	
25	円形	30 × 25	5 × 4	50.8	
26	円形	29 × 27	22 × 19	13.5	
27	円形	42 × 40	20 × 20	44.1	
28	(楕円形)	(66) × 48	23 × 20	48.6	
29	(三角形)	(31) × (20)	11 × 6	37	
30	円形	21 × 19	11 × 5	22.5	
31	(楕円形)	39 × 30	15 × 12	43.1	P14 と重複
32	楕円形	33 × (29)	20 × 16	24.9	
33	楕円形	36 × 30	16 × 7	32.8	
34	楕円形	37 × 29	15 × 14	33.2	集石土坑 3 内
35 ~ 37					欠番
38	楕円形	41 × 30	13 × 9	51	
39	方形	33 × 29	12 × 7	40.9	
40	方形	21 × 20	11 × 8	20	
41	方形	39 × 29	24 × 18	45.8	
42	楕円形	40 × 29	20 × 15	34	
43	円形	34 × 29	11 × 6	19.2	
44	楕円形	45 × 35	16 × 11	41	
45	円形	34 × 29	17 × 17	23.1	
46	円形	30 × 26	10 × 5	24.2	
47	方形	32 × 25	19 × 18	22.4	
48	円形	35 × 35	20 × 16	22.4	
49	三角形	39 × 27	9 × 6	28.0	
50	円形	37 × 34	13 × 12	63.3	土坑 8 内
51	ひょうたん	50 × 23	20 × 9	34.7	
52	不明	41 × (33)	20 × 15	44.9	
53	円形	32 × 26	8 × 6	23	旧仮 2 住 P 1
54	円形	56 × 50	34 × 26	21	旧仮 2 住 P 2

第 26 表 浄禅寺跡遺跡第 40 地点ピット一覧表 (cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	円形	52 × 50	44 × 35	38.2	
2	方形	26 × 23	10 × 11	21.3	
3	方形	25 × 20	9 × 8	28.3	
4	方形	28 × 22	12 × 8	15.6	
5	不明	36 × (36)	18 × (17)	25.8	P6 と重複
6	不明	30 × 21	8 × 4	39.3	P5 と重複
7	不明	(50) × 46	37 × 30	23.5	
8	隅丸方形	63 × 50	62 × 29	49.5	
9	円形	30 × 29	13 × 12	31.3	
10	円形	41 × 37	12 × 12	46.8	
11	(円形)	25 × (25)	10 × 5	10.9	
12	(楕円形)	(57) × 46	42 × 37	68.8	
13	(楕円形)	42 × (30)	20 × 15	31.7	
14	不明	41 × (27)	26 × 13	51.1	P31 と重複
15	(円形)	(49) × 45	15 × 13	39.1	土坑 13 と重複

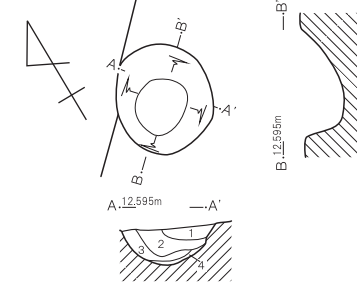
土坑 6・P33



土坑 6

1. 黒褐色土 締り強、粘性やや有、5mm 大ロームブロックを僅かに、1 ~ 2mm ローム粒を多く含む
 2. 黒褐色土 締りやや有、粘性やや有、1mm ローム粒を少し含む
 3. 暗褐色土 締りやや有、粘性やや有、1 ~ 2mm ローム粒を少し含む
 4. 暗褐色土 締りやや有、粘性やや有、1 ~ 2mm ローム粒を多く塊状に含む
 5. 黄褐色土 締りやや有、粘性やや有、ハードローム粒を多量に含む、崩落、掘方の土
- P33
1. 暗褐色土 締り無、5 ~ 10mm ロームブロック・2 ~ 3mm ローム粒多く、黒色土少し含む

土坑 7



土坑 7

1. 暗褐色土 締りやや強、1mm ローム粒・1mm 以下赤色粒・炭化物を少し含む
2. 黒褐色土 締りやや強、1mm 以下ローム粒少し、1mm 以下赤色粒・炭化物を僅かに含む
3. 黒褐色土 締りやや強、1mm 以下ローム粒極僅か、黒色土をシミ状に含む
4. 黄褐色土 締り強、ソフトローム層

土坑 11

1. 黒褐色土 締り有、粘性有、1mm ローム粒・焼土粒を僅かに含む
2. 暗褐色土 締り有、粘性有、1cm ロームブロックを僅かに、1mm ローム粒少し含む
3. 暗褐色土 締り有、粘性有、1mm ローム粒を 1 ~ 2cm のブロック状に多く含む

土坑 9・10・住居内 P7

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒を斑状に少し含む
 2. 褐色土 締り強、粘性有、ローム粒を 1cm 程度のブロックで少量含む、1 ~ 2mm 焼土粒を僅かに含む
 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、1mm ローム粒を少し、焼土粒を僅かに含む
 4. 暗褐色土 締り強、粘性有、5 ~ 10mm ロームブロックを少し、1mm ローム粒を多く含む
 5. 黒褐色土 締り強、粘性有、1mm ローム粒を少し、焼土粒・炭化物を僅かに含む
 6. 黒褐色土 締り強、粘性有、1mm ローム粒を僅かに含む
 7. 暗褐色土 締り強、粘性有、1mm ローム粒を斑状に少し含む
 8. 褐色土 締り強、粘性有、1 ~ 2mm ローム粒を多く含む
- 土坑 8・P38 ~ 50

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、土坑 5 覆土、2mm 以下ローム粒少し、1mm 黒色粒子・焼土粒僅かに含む
2. 黒褐色土 締りやや弱、粘性有、3cm 以下ロームブロック・1mm ローム粒を多く、1mm 炭化物粒少し含む
3. 黒褐色土 締りやや弱、粘性有、2mm 以下ローム粒を少し含む
4. 暗褐色土 締りやや強、粘性有、2cm 以下ロームブロック・1mm 以下ローム粒を少し含む



第 45 図 浄禅寺跡遺跡第 40 地点土坑③ (1/60)